経済学部シラバス

2019 年度

大 阪 市 立 大 学 経 済 学 部

目　　次

経済学部シラバス

経済学部専門教育科目開講科目表 …… 1
経済学部専門科目　科目ナンバーについて …… 3
OCU 指標について …… 4

前期開講科目
入門科目…… 7
基礎科目Ⅰ…… 9
基礎科目Ⅱ…… 13
応用科目…… 15
演習科目…… 38
後期開講科目
基礎科目Ⅰ…… 61
基礎科目Ⅱ…… 65
応用科目…… 70
演習科目…… 90
集中講義開講科目
応用科目…… 107

その他

論文採点基準表 …… 109
注意事項 …… 110
杉本地区キャンパスマップ・教室一覧 …… 112
教員名簿 …… 114

2019年度学年暦

学年開始	4月 1日（月）
新入生ガイダンス	4月 1日（月）
入学式	4月 5日（金）
新入生健康診断	4月 8日（月）
前期授業開始日	4月10日（水）
振替授業日	5月 8日（水）月曜日の授業を実施
創立記念日	6月 1日（土）
振替授業日	7月18日（木）月曜日の授業を実施
授業・試験期間	7月29日（月）～8月 9日（金）
夏季休業	8月10日（土）～9月15日（日）
研修期間	9月16日（月）～9月30日（月）
後期授業開始日	10月 1日（火）
振替授業日	10月16日（水）月曜日の授業を実施
冬季休業	12月24日（火）～1月 5日（日）
振替授業日	1月16日（木）金曜日の授業を実施
授業・試験期間	1月28日（火）～2月10日（月）
研修期間	2月11日（火）～3月19日（木）
春季休業	3月20日（金）～

※ 振替授業日	―	各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。
※ 研修期間	―	集中講義や補講などが行われることがある。
※ 授業・試験期間	―	定期試験や授業を行う。
※ 卒業式	―	日程確定後、ホームページ（ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修関係＞行事予定・授業時間）に掲載します。

振替授業日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。

☆ 参 考

・新入生歓迎祭（ふたば祭）開催に伴う休講

4月18日（木）5時限、19日（金）3～5時限

［歓迎祭開催日程：4月18日（木）5限～、19日（金）午後～、20日（土）終日］

・大学祭（銀杏祭）開催に伴う休講

10月31日（木）5時限、11月1日（金）全時限

［大学祭開催日程：10月31日（木）～11月4日（月）］

・センター入試準備に伴う休講

2020年1月17日（金）全時限

［センター試験：1月18日（土）・19日（日）］

2019年度カレンダー

	日	月	火	水	木	金	土
4月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

1日（月）新入生ガイダンス
5日（金）入学式
8日（月）健康診断
10日（水）前期授業開始

18日（木）新歓祭5限休講
19日（金）新歓祭午後休講

	日	月	火	水	木	金	土
5月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

8日（水）振替授業日
（月曜の授業を実施）

	日	月	火	水	木	金	土
6月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

	日	月	火	水	木	金	土
7月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

18日（木）振替授業日
（月曜の授業を実施）

29日（月）～8月9日（金）
授業・試験期間

	日	月	火	水	木	金	土
8月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

10日（土）～9月15日（日）
夏季休業期間

10日（土）～11日（日）
オープンキャンパス（予定）

	日	月	火	水	木	金	土
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

16日（月）～30日（月）
研修期間

	日	月	火	水	木	金	土
10月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

1日（火）後期授業開始

16日（水）振替授業日
（月曜の授業を実施）

31日（木）大学祭5限休講

	日	月	火	水	木	金	土
11月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

1日（金）大学祭休講

	日	月	火	水	木	金	土
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

24日（火）～1月5日（日）
冬季休業期間

	日	月	火	水	木	金	土
1月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

16日（木）振替授業日
（金曜の授業を実施）

17日（金）センター試験に
伴う休講措置

28日（火）～2月10日（月）
授業・試験期間

	日	月	火	水	木	金	土
2月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

11日（火）～3月19日（木）
研修期間

	日	月	火	水	木	金	土
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

20日（金）～春季休業期間

2019年度 経済学部専門教育科目表

科目群	授業科目	担 当 者	単位	期別	標準履修学年	ページ	他学部生履修	備考
入門科目	日本経済の論点	松 本 他	2	前期	1年生限定	7	不可	
	世界経済の論点	森 脇	2	前期	1年生限定	8		
基礎科目I	近代経済学(マクロ経済学2)	中 村 英 樹	2	前期	2	9	不可	
	近代経済学(ミクロ経済学2)	柴 田	2	前期	2	10		
	政治経済学Ⅱ	福 原	2	前期	2	11		
	経済数学	(落 合)	2	前期	2	12		
	近代経済学(マクロ経済学1)	岡 澤	2	後期	1	61		
	近代経済学(ミクロ経済学1)	浦 西	2	後期	1	62		
	基礎・経済統計	中 川	2	後期	1	63		
	政治経済学Ⅰ	若 森	2	後期	1	64		
基礎科目II	産業経済論	浦 西	2	前期	2～	13	可	
	西洋経済史	塩 谷	2	前期	2～	14		
	応用マクロ経済学	森	2	後期	2	65	不可	
	応用ミクロ経済学	辻	2	後期	2	66		
	日本経済史特殊講義	彭	2	後期	2～	67	可	※2018年度に経済史上級講義の単位を修得した者は履修不可
	社会政策論	杉 田	2	後期	2～	68		
	社会思想史特殊講義	中 村 健 吾	2	後期	2～	69		
応用科目	経済変動論	森	2	前期	2～	15	可	
	社会経済論特殊講義	福 原	2	前期	2～	16		
	統計解析論	中 川	2	前期	2～	17		
	計量経済学	岡 澤	2	前期	2～	18		
	経済情報論	(上 田)	2	前期	2～	19		
	公共経済学特殊講義	(新 居)	2	集中	2～	107		前期集中講義
	財政学	松 本	2	前期	2～	20		
	金融経済論	辻	2	前期	2～	21		
	日本経済論	滋 野	2	前期	2～	22		
	産業技術論	坂 上	2	前期	2～	23		
	国際協力論	岩 波	2	前期	2～	24		
	空間経済学	高 塚	2	前期	2～	25		
	関西経済論	(木 下)	2	前期	2～	26		
	世界経済論	有 賀	2	前期	2～	27		
	東南アジア経済論	金 子	2	前期	2～	28		
	各国経済論特殊講義(経済英語1)	ウェザーズ	2	前期	2～	29		
	ヨーロッパ経済論特殊講義	(堀 口)	2	前期	2～	30		
	経済統計論特殊講義A(コンピュータ講座)	中 島	2	前期	2年生以上限定	31	不可	(注)5
	商業簿記基礎論	(小 田)	2	前期	2～	32	可(商学部を除く)	
	証券経済論特殊講義	中村 健吾	2	前期	2～	33	可	
	ミクロ経済学上級講義1	北 原	2	前期	3年生以上限定	34	不可	
	国際経済上級講義	久 保	2	前期	2～	35		
	計量経済学上級講義1	(鹿 野)	2	前期	2～	36		
	Lectures on Economics A	岩 波	2	前期	2～	37		
	Lectures on Economics B	(長谷川)	2	集中	2～	108		前期集中講義

科目群	授業科目	担 当 者	単位	期別	標準履修学年	ページ	他学部生履修	備考
応用科目	経済原論ＩA	齋 藤	2	後期	2～	70	可	
	戦後経済史	ウェザーズ	2	後期	2～	71		
	社会経済論	(佐 藤)	2	後期	2～	72		
	経済統計論	中村 英樹	2	後期	2～	73		
	計算機経済学	中 島	2	後期	2年生以上限定	74	不可	(注)5
	アジア経済史	彭	2	後期	2年生以上限定	75	可	
	労働経済論	福 原	2	後期	2～	76		
	流通経済論	柴 田	2	後期	2～	77		
	国際経済学特殊講義	久保	2	後期	2～	78		
	地方財政論特殊講義	小川	2	後期	2～	79		
	交通経済論特殊講義	(松 澤)	2	後期	2～	80		※2018年度に経済構造上級講義の単位を修得した者は履修不可
	産業組織論	北 原	2	後期	2～	81		
	経済開発論	森 脇	2	後期	2～	82		
	アジア経済論特殊講義	朴	2	後期	2～	83		※2018年度に国際経済上級講義の単位を修得した者は履修不可
	経済政策論特殊講義2(税関講座)	森	2	後期	2～	84		
	経済史上級講義	ウェザーズ	2	後期	2～	85	不可	
	経済政策上級講義	滋 野	2	後期	3年生以上限定	86		
	経済構造上級講義	坂 上	2	後期	2～	87		
	ミクロ経済学上級講義2	岩 波	2	後期	3年生以上限定	88		
	計量経済学上級講義2	(鹿 野)	2	後期	2～	89		
演習科目	基礎演習	坂上 他	2	前期	1	38	不可	
	イノベーティブ・ワークショップ(課題探求演習)	朴 他	2	前期	2年生限定	52		
		中島 他		後期	1年生限定	90		
	論文演習	★岩本	2	前期	2年生以上限定	59		
		福原 他		後期	1～	101		
	キャリア形成ゼミ	福 原	2	前期	2,3年生限定	60		
	専門演習3	ウェザーズ 他	4	通年	3	—		
	専門演習3B	福原 他	4	通年	3	—		
	専門演習4	福原 他	4	通年	4	—		
	卒業論文	福原 他	12	通年	4	—		
関連科目	教員免許(中学社会、高校公民・地歴・)取得のための「教科に関する科目」のうち商・法・文学部が提供する専門科目							
他学部提供専門科目	商学部: 専門外国語、プロジェクト・ゼミナール、テーマ・ゼミナール、経営学、経済学、会計基礎論、企業と法、各概論、商業科教育法Ⅰ、商業科教育法Ⅱを除く科目 法学部: 外国語演習、専門演習、法情報学、各発展科目、基礎演習を除く科目 ※ 受講の際には、提供学部のシラバス・掲示を確認すること。							

担当者( )は非常勤講師、★は特任教員

(注)
1. 全学共通科目については、「全学共通科目シラバス・履修案内」を参照のこと。
2. 標準履修学年については、原則として遵守すること。
3. 全ての科目において受講生が多数の場合は受講制限されることがある。
4. 他学部提供の専門科目の受講については、提供学部のシラバス・時間割等を確認すること。
5. 定員50名程度。希望者が多数の場合は抽選。

経済学部専門科目　科目ナンバーについて

経済学部専門科目の科目ごとに附される、科目ナンバー（例.『近代経済学（マクロ経済学 1)』 の科目ナンバーは“EAB1J2101”）は以下のとおり、分類されています。

上１、２桁	経済学部経済学科専門科目	EA
上３、４桁	科目分野	PR：入門科目 B1：基礎科目Ⅰ B2：基礎科目Ⅱ AP：応用科目 EX：演習科目
上５桁	講義で使用される主要な言語	J：日本語 E：英語
上６桁	推奨される履修開始のセメスターの位置	表１を参照
上７桁	難易度	0＝大学導入レベル 1＝学部１年レベル 2＝学部２年レベル 3＝学部３年レベル 4＝学部４年レベル 5＝大学院入門レベル
上８、９桁	科目識別ナンバー	

表１

学年	１回生		２回生		３回生		４回生	
開講期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
上６桁目	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**7**	**8**

OCU（Osaka City University）指標とは

本学での４年間の学修を通して、皆さんがどのように多様な学修成果を身につけたかが卒業時に問われます。OCU 指標は、これら多様な学修成果をどの程度身につけたかを視覚的にわかりやすい形で示す総合化指標です。

OCU 指標は、各授業科目で身につく内容を複数の学修成果に分解して数値化され、累積されていきます。学生の皆さんは、OCU 指標を利用することで、各学年の途中で現在の学修状況と自分が希望するキャリアのために身につけるべき学修成果を見比べて、今からどのような能力を身につけるべきかを考え、その足りない部分を補うためにどのような授業科目を履修すれば良いのか知ることができます。

科目ナンバーとの関連

それぞれの授業科目を修得することで身につける事が出来る学修成果の配分は、科目ナンバーごとに決められています。

学修成果の種類

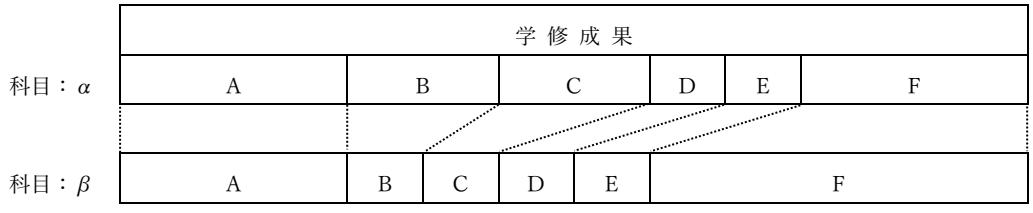
OCU 指標における学修成果は次の６つです。学修成果 A～E は全学共通、学修成果 F は経済学部独自の項目です。

学 修 成 果	内　容
A：論理的思考	修得した専門知識を、論理的な思考と柔軟な発想によって応用することができる
B：情報活用	多様な情報を収集・分析し、それらを日々の生活のなかで活用することができる
C：外国言語・文化	外国の言語と文化を学習・修得し、世界のさまざまな国・地域の人びとと意思疎通することができる
D：表現	分析の結果を、言語や記号を用いてわかりやすく表現することができる
E：社会貢献	グローバルな社会の一員であり、かつ地域社会の一員であることの自覚をもち、自らの知識・技能を活かして、（他者と協調して）社会の発展のために寄与することができる
F：複眼的構想力 （経済学部独自項目）	学修成果Ａ～Ｅを活用し、多様な見方を総合して、問題解決の新しい方法を複眼的に構想することができる

OCU 指標の計算例

各科目の OCU 指標は、科目ナンバーごとに定められた各学修成果の配分と成績評価（グレードポイント：GP）によって決まります。あらかじめ定められた学修成果の配分にしたがって GP が配分され、各学修成果の OCU 指標となります。

＜科目ナンバーごとの学修成果配分例＞



科目αの学修成果配分 A：B：C：D：E：F＝３：２：２：１：１：３

科目βの学修成果配分 A：B：C：D：E：F＝３：１：１：１：１：５

＜成績の差により身についた学修成果のイメージと OCU 指標算出方法の例＞

	学修成果					
科目α：AA	A	B	C	D	E	F

（GP 4 ＝ A A の場合：成果配分の比率に従って 4/4 倍で累積される）

	学修成果					
科目β：B	A	B	C	D	E	F

（GP 2 ＝ B の場合：成果配分の比率に従って 2/4 倍で累積される）

科目αで身についた学修成果 A の OCU 指標　3 /（3 ＋ 2 ＋ 2 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 3）× 4 ＝1.0

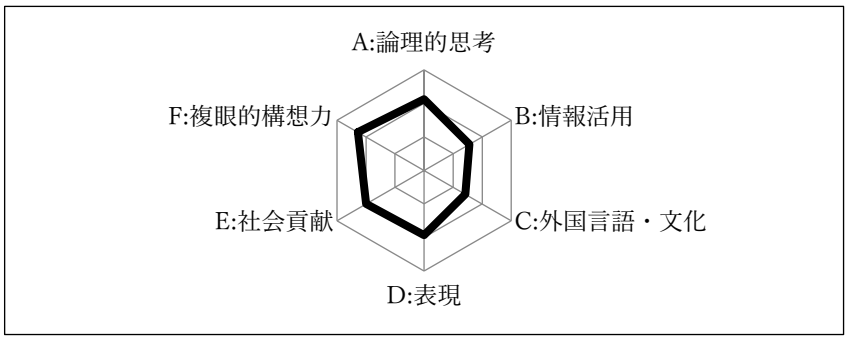
科目βで身についた学修成果 A の OCU 指標　3 /（3 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 5）× 2 ＝0.5

レーダーチャートについて

学生の皆さんそれぞれの OCU 指標は、半期ごとにレーダーチャートで示されます。各学修成果の OCU 指標は、それまでに単位を修得した科目の学修成果の累計になります。

形については綺麗な六角形が理想ではなく、学部（学位プログラム）（または自身の希望するキャリア）によって様々です。自身のレーダーチャートは学修支援推進室にて常時確認することが出来ます。

OCU 指標レーダーチャートのイメージ



OCU 指標の成果配分

科目分野	科目 No.	A 論理的思考	B 情報活用	C 外国言語・文化	D 表現	E 社会貢献	F 複眼的構想力
入門科目（PR）	EAPRJ～	4	2	1	2	1	2
基礎科目Ⅰ（B1）	EAB1J～	3	3	1	2	1	2
基礎科目Ⅱ（B2）	EAB2J～	2	2	1	3	2	2
日本語で提供される応用科目（APJ）	EAAPJ～	2	2	1	3	2	2
英語で提供される応用科目（APE）	EAAPE～	1	2	3	2	2	2
応用科目のうちの上級講義（APJ5）	EAAPJ5～	2	2	1	2	2	3
演習科目（EX）	EAEXJ～	2	2	1	2	1	4

前 期 開 講 科 目

授業コード	E000012010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	日本経済の論点		
英語科目授業名	Issues on the Japanese Economy		
科目ナンバー	EAPRJ1001		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳、杉田　菜穂、CHARLES　WEATHERS		
科目の主題	本講義は、経済学部1年次向けに提供される科目です。経済学部では、皆さんが経済学を理論・実証・歴史という様々な側面から体系的に学ぶことができるようなカリキュラムが組まれています。その経済学の学びの第一歩となるように、本講義では日本経済の様々な論点を取り上げて、みなさんの経済に対する問題関心を喚起することを目標とします。		
授業の到達目標	日本経済についての基本的な知識を習得することを目標とします。		
授業内容・授業計画	三人の担当者（松本、ウェザーズ、杉田）がオムニバス形式でそれぞれのテーマについて講義をします。一つのテーマについて3，4回の講義で完結し、その内容に関する小テストが実施される、というサイクルを3回繰り返します。 第１回_イントロダクション 第２回_松本：財政から日本経済を考えると財政再建 第３回_財政赤字と財政再建 第４回_日本の所得格差問題 第５回_地方財政と地方分権 第６回_松本担当・小試験 第７回_ウェザーズ：雇用問題 第８回_過剰労働是正 第９回_格差是正 第10回_ウェザーズ担当・小試験 第11回_杉田：暮らしと経済 第12回_豊かさについて 第13回_国民生活の課題 第14回_杉田担当・小試験		
事前・事後学習の内容	講義内で配布された資料や指定された参考書などについて、予習・復習をしてください。		
評価方法	各担当者の初回の講義で、講義の内容や小試験に関する通知があります。小試験の成績（松本40点満点、ウェザーズ30点満点、杉田30点満点）の合計点により評価を行います。		
受講生へのコメント	オムニバス形式の講義なので、それぞれの講義について担当者の指示に従ってください。		
教材	テキストおよび参考書：必要に応じて、各担当者が講義中に指示します。		

授業コード	E000022010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	世界経済の論点		
英語科目授業名	Issues on the World Economy		
科目ナンバー	EAPRJ1002		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	日本の明治以降の経済発展を西欧諸国やアジア諸国と比較することが目的です。		
授業の到達目標	日本の経済発展の特殊性と普遍性を西欧諸国やアジア諸国と比較して明らかにすることが目標となります。		
授業内容・授業計画	①復習、②トピックスの説明、③新聞・雑誌記事等を使った現状の解説の3つのセクションにわけて授業を進行する予定です。復習のセクションでは小テストを行うことも考えています。 第１回_イントロダクション 第２回_近代経済成長の条件整備 第３回_近代経済成長の概観 第４回_工業化のなかの農業（1） 第５回_工業化のなかの農業（2） 第６回_工業化（1） 第７回_工業化（2） 第８回_資本形成とその源泉 第９回_外国貿易とその役割 第10回_人口と労働供給 第11回_労働市場と二重構造 第12回_財政と金融 第13回_物価と国民生活 第14回_財政と金融　近代経済成長の回顧と展望 定期試験		
事前・事後学習の内容	①授業で指示した参考書に目を通す、②授業の復習をしっかりする、ことが重要です。		
評価方法	定期試験の成績です。		
受講生へのコメント	特に私語には注意して下さい。		
教材	テキスト：特にありません。 参考書：授業中に指示します。		

授業コード	E021010010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	近代経済学（マクロ２）		
英語科目授業名	Modern Economics (Macroeconomics 2)		
科目ナンバー	EAB1J2106		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	マクロ経済を実物面と金融面から見てきます。そのもとで、所得、利子率、雇用、物価がどう決まるのか学習します。		
授業の到達目標	マクロ経済と私達の生活のフィードバックを考えれるようになりたい。また、経済ニュースの理解や、自らの金融投資へ役立てるようになりたい。		
授業内容・授業計画	まず、消費と投資に注目し財市場、次に利子率が重要な役割を果たす金融市場について説明する。そして、両市場の相互依存をIS-LMモデルにより説明する。さらに、資本移動を考慮しマンデル・フレミングモデルを説明する。その後、総需要と総供給のもと物価も考える。 第１回_マクロ経済：イントロダクション 第２回_消費と投資 第３回_財市場の均衡：IS曲線 第４回_金融資産（貨幣、債券）と貨幣市場 第５回_日銀と信用創造 第６回_貨幣市場の均衡：LM曲線 第７回_IS-LM分析 第８回_IS-LM分析：政策 第９回_国際金融：外為市場 第10回_マンデル・フレミングモデル：変動為替レートのもと 第11回_GDPと物価 第12回_総需要：AD曲線 第13回_総供給：労働市場とAS曲線 第14回_AD-AS分析 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義内容は全て連動しており、積み重ねとなっています。よって、復習のもと、理解を深める必要があります。		
評価方法	期末の定期試験で評価します。		
受講生へのコメント	レジメへの書き込みが重要です。		
教材	テキストはなし。参考書は適宜紹介する。		

授業コード	E021020010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	近代経済学（ミクロ２）		
英語科目授業名	Modern Economics (Microeconomics 2)		
科目ナンバー	EAB1J2107		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	ミクロ経済学のうち、生産者の行動、市場均衡、独占と寡占について解説します。		
授業の到達目標	企業の利潤最大化行動、部分均衡分析、一般均衡分析、独占そして古典的な寡占の議論を理解できるようになって下さい。		
授業内容・授業計画	通常の講義形式。 第１回_はじめに：取り扱う範囲の概説 第２回_生産者の行動：生産関数と費用関数 第３回_生産者の行動：短期費用関数 第４回_生産者の行動：短期における企業行動 第５回_生産者の行動：短期における産業 第６回_生産者の行動：長期費用関数 第７回_生産者の行動：長期における企業行動 第８回_生産者の行動：長期における産業 第９回_一般均衡分析：消費 第10回_一般均衡分析：生産 第11回_一般均衡分析：生産と消費 第12回_部分均衡分析 第13回_独占と寡占 第14回_生産要素市場 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前には、教科書の取り扱い範囲を読んでおいて下さい。事後には、講義中に作成したノートをもとに理解を深めて下さい。		
評価方法	学期末試験によります。		
受講生へのコメント	講義中のノート作成を通して理解を深めて下さい。		
教材	テキスト：西村和雄「ミクロ経済学入門(第3版）」岩波書店 参考書：なし		

授業コード	E021131010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	政治経済学Ⅱ		
英語科目授業名	Political EconomyⅡ		
科目ナンバー	EAB1J2108		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	福原　宏幸		
科目の主題	政治経済学Ⅰでは、資本制社会の社会・経済システムにおける「再生産」、「資本蓄積」、「経済発展」の理論について学びました。政治経済学Ⅱでは、資本制社会の社会・経済システムを、「制度」という視角から考えることにいたします。		
授業の到達目標	本講義では、それらの制度について深い洞察を示した経済学者たちの言説の紹介および解説をしつつ、資本制社会の社会・経済システムにおける「制度」についての皆さんの理解を促したいと思います。		
授業内容・授業計画	現代経済を理解するうえで重要だと思われる四つの制度-「市場」（第2回～第3回）、「企業」（第4回～第7回）、「労働」（第8回～第10回）「国家」（第11回～第14回）、-を取り上げます。 第１回_ 財・サービスの移動の基本的３類型：互酬，再配分，交換 第２回_「制度」としての「市場」（Ⅰ） 第３回_「制度」としての「市場」（Ⅱ） 第４回_ 企業とそれをめぐる議論 第５回_ 契約論アプローチ（１）―取引費用理論 第６回_ 契約論アプローチ（２）―契約の「束」理論 第７回_ 制度としての企業 第８回_ 労働市場の不完全性 第９回_ 内部労働市場 第10回_ 労働市場の分断化理論 第11回_ 国家と経済・社会 第12回_ 国家の経済介入の理由 第13回_ フォーディズムと福祉国家 第14回_ ポスト福祉国家、まとめ 定期試験		
事前・事後学習の内容	毎回、コミュニケーション・カードを配り、前回の授業のポイントを書いてもらいます。		
評価方法	以下の二点で評価します。 1. 毎回の講義の後の、コミュニケーション・カードの提出 2. 期末試験		
受講生へのコメント	経済学には多様な学派が存在します。本講義では、多くのアプローチを紹介する中で、経済学の面白さを理解してもらいたいと思っています。		
教材	テキストは、使用しません。ただし、毎回、プリントを配ります。		

授業コード	E021200010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	経済数学		
英語科目授業名	Mathematics for Economics		
科目ナンバー	EAB1J2104		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	落合　隆		
科目の主題	ゲーム理論の基礎を解説し、簡単な問題を解けるようにすること。		
授業の到達目標	ゲーム理論を利用していろいろな戦略的思考法を身につけること。		
授業内容・授業計画	テキストを使用して毎回講義形式の授業を行う。 第１回_ゲーム理論への招待 第２回_戦略形ゲームの基礎　①戦略形ゲームと利得行列 第３回_戦略形ゲームの基礎　②戦略形ゲームを解く 第４回_完全情報の展開形ゲーム　①展開形ゲーム 第５回_完全情報の展開形ゲーム　②完全情報展開形ゲームの応用 第６回_戦略形ゲームの応用　①弱支配戦略と支配されないナッシュ均衡 第７回_戦略形ゲームの応用　②オークション 第８回_不完全競争市場への応用　①クールノー競争 第９回_不完全競争市場への応用　②ベルトラン競争とシュタッケルベルグ競争 第10回_混合戦略　①混合戦略とナッシュ均衡 第11回_混合戦略　②２×２の混合戦略のナッシュ均衡を求める 第12回_一般の展開形ゲーム　①不完全情報の展開形ゲーム 第13回_一般の展開形ゲーム　②展開形ゲームの構成要素と部分ゲーム完全均衡点 第14回_一般の展開形ゲーム　③展開形ゲームと戦略形ゲームの関係 定期試験		
事前・事後学習の内容	テキストの各章の終わりに練習問題があるので、それを授業に合わせて各自解いておくこと。		
評価方法	期末テスト100%		
受講生へのコメント	テキストの練習問題と同程度の問題を期末テストとするので、必ず自ら問題を解くこと。		
教材	テキスト：『ゼミナールゲーム理論入門』　渡辺隆裕著　日本経済新聞出版社		

授業コード	E022110010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	産業経済論		
英語科目授業名	Industrial Economics		
科目ナンバー	EAB2J3206		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	産業の規制政策について、その根拠および問題点を簡単なミクロ経済学の理論をもとに解説する。		
授業の到達目標	現行の規制政策を簡単な経済学の理論に基づいて解説できるようになることを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	パワーポイントによるスライドを使用する。 第１回_授業の進め方 第２回_規制の定義と分類 第３回_社会的余剰 第４回_市場の失敗 第５回_自然独占 第６回_公共財の供給 第７回_外部性 第８回_料金水準論 第９回_料金体系 第10回_公共料金の決定理論 第11回_公益事業の価格理論（１）-フルコスト価格・二部料金制度- 第12回_公益事業の価格理論（２）-ピークロード価格・ラムゼイ価格- 第13回_公益事業の規制方式 第14回_公的供給と民営化 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前の学習：特になし。 事後の学習：説明した内容について復習しておくこと。		
評価方法	期末試験および中間レポートによって評価する。持ち込みは不可。		
受講生へのコメント	あらかじめ新聞やニュースなどを通し、我が国の社会・経済の仕組みへの関心を高めておくことを希望します。		
教材	テキスト：特になし。 参考書：授業中に適宜指示する。		

授業コード	E022065010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	西洋経済史		
英語科目授業名	Economic History of Europe		
科目ナンバー	EAB2J3204		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	塩谷 昌史		
科目の主題	16世紀以降に西欧世界が経済的に発展していった過程を、代表的な文献に基づいて概説する。この授業の特徴は、①自然との相互作用の中で、人間が繁栄してきたことに着目すること、②経済を変革する主要因として科学技術を重視すること、の二つである。また、できる限り、大阪市立大学の元教員の研究にも授業の中で触れ、本学の知的伝統に触れてもらいたい。		
授業の到達目標	歴史を暗記ものと捉える諸君もいると思われるが、この授業では史実を憶える授業ではなく、歴史的概念や経済的概念を理解してもらうことを目標にしたい。毎回、授業の中で重要な概念を紹介するので、その概念の理解に努めてもらえば、授業の目標が達成される。		
授業内容・授業計画	16世紀以降、西欧世界が発展したのは、世界的な分業システムを構築したことと、科学技術を発展させことが挙げられる。なぜ西欧世界が、この二つの特徴を実現させることができたのかを、授業の全体を通じて考えて行きたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_ヨーロッパ世界の誕生 第３回_自然環境と人間の相互作用 第４回_科学技術の誕生 第５回_綿花と産業革命 第６回_国民国家と統計 第７回_資本主義の発展 第８回_ユダヤ人と資本主義 第９回_近代世界システム 第10回_電信と金本位制 第11回_戦争と福祉国家 第12回_米ソの冷戦 第13回_経済のグローバル化 第14回_新興経済諸国の台頭とフューチャー・アース 定期試験		
事前・事後学習の内容	毎回、授業の内容に関連する参考文献を紹介するので、授業の後に図書館等で読んでみてもらいたい。		
評価方法	出席が20%、読書感想文が20%、学期末試験が60%の割合で評価を行う。		
受講生へのコメント	文系と理系の学生という区分がありますが、現在では、文系の学生にも科学技術の知識が、理系の学生にも人文社会系の知識が求められます。この授業を通じて学際的な見方を育んでもらえれば、嬉しく思います。		
教材	テキスト：特にありません。 参考書：その都度、授業の中で紹介します。		

授業コード	E031060010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	経済変動論		
英語科目授業名	Dynamic Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4205		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森　誠		
科目の主題	長期にわたる最適化の観点からケインズ派モデルと新古典派モデルを検討します。		
授業の到達目標	ケインズ派モデルはミクロ的基礎がないから無意味であるという批判がよくなされるが、新古典派流のミクロ的基礎を導入したとしてもケインズ派の主張はなお成立することを理解することを目標とします。		
授業内容・授業計画	まず、マクロ経済学での短期モデルからはじめ、次に資本蓄積を考慮した長期モデルの基本を解説します。そして、貯蓄率の内生化の議論を紹介します。それらに慣れたうえで、ケインズモデルと新古典派モデルを対比します。 第１回_ガイダンス 第２回_短期ケインズモデル1-IS=LMモデル- 第３回_短期ケインズモデル2-AD=ASモデル- 第４回_短期新古典派モデル1-IS=LMモデル- 第５回_短期新古典派モデル2-AD=ASモデル- 第６回_長期モデル 第７回_貯蓄率の内生化1-最適化の手法- 第８回_貯蓄率の内生化2-2期間モデル- 第９回_2期間ケインズモデル1-純粋モデル- 第10回_2期間ケインズモデル2-政府の予算制約- 第11回_2期間新古典派モデル1-純粋モデル- 第12回_2期間新古典派モデル2-政府の予算制約- 第13回_新古典派モデルとケインズモデルの比較 第14回_新古典派モデルとケインズモデルにおける政策比較 定期試験		
事前・事後学習の内容	授業前は前回の内容の確認を行うこと。授業後は講義内容を復習し出題された練習問題を解くこと。		
評価方法	期末試験を行う。場合によっては小テストを行う。		
受講生へのコメント	参考書の後半以降は学部生にとっては難しい内容を含むが、講義で参考にする部分は初等的な微分ができれば諸君らが理解できる部分である。また、必要な技法は解説するので、参考書の見かけの難しさに惑わされないように。		
教材	参考書：森　誠『長期にわたる最適化とケインズ経済学』、晃洋書房、2011年。		

授業コード	E041030010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	社会経済論特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on Social Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4256		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	福原　宏幸		
科目の主題	この講義は、認定ＮＰＯ法人大阪ＮＰＯセンターが提供します。このセンターは、社会的課題解決を志す個人、団体を支援する「中間支援組織」を運営する組織ですが、今回の講義では当センターの役職員が、複雑化・多様化する地域課題の現況を踏まえ、市民、企業等による社会的課題解決の意義と取り組みの現状、そして今後の課題等についてわかりやすく説明します。また、この講義は、本講義受講者を含む市民一人ひとりが社会的課題解決に向けて「考え、行動する」きっかけとなる講義をめざします。		
授業の到達目標	今日の日本そして世界には、貧困と社会的排除、若者や障害者、そして高齢者などの就労困難者、福祉的課題を抱えた人々などが様々な課題に直面直しています。また、環境問題やエコロジー、そして衰退する地域社会の活性化などの課題もあります。こうした社会的課題の解決について、「ＮＰＯ」「ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス」「企業のＣＳＲ、ＣＳＶ」「中間支援組織」などの役割が注目されていますが、この授業では、これらの組織についての基本的な知識の修得をめざします。		
授業内容・授業計画	各回、認定ＮＰＯ法人大阪ＮＰＯセンターの役職員によるオムニバス形式の講義を行います。 第１回_ ガイダンス 第２回_日本における市民活動の展開 第３回_日本における社会的企業の展開 第４回_日本における中間支援組織の展開～市民活動支援、社会的企業支援 第５回_企業の社会貢献とコンプライアンス 第６回_企業の社会貢献・ＮＰＯ等との連携の現状（事例Ⅰ） 第７回_企業の社会貢献・ＮＰＯ等との連携の現状（事例Ⅱ） 第８回_企業の社会貢献・ＮＰＯ等との連携の現状（事例Ⅲ） 第９回_国際化に伴う社会的課題とその対応～グローバル人材として来日する留学生の課題 第10回_子どもの貧困問題とその対応 第11回_若年者、障害者等、就労困難者の就労問題とその対応 第12回　地縁団体等、地域コミュニティの運営問題とその対応 第13回_食と農、環境問題とその対応 第14回_まとめ～市民、企業、大学、行政等との連携・協働による社会的課題対応 定期試験		
事前・事後学習の内容	日常より、ＴＶ、ＷＥＢサイト等を通じて、ＮＰＯや社会的企業、そして一般企業のＣＳＲ，ＣＳＶに関する報道等に接すること。 また日本、関西、大阪の様々な社会的問題、地域課題の現状とその対応（政策、事業、取り組み）について関心をもっておくこと。		
評価方法	学期末の試験による。		
受講生へのコメント	多くの学生が、社会的課題に関心を持ってくれること、また非営利団体や社会的企業に関わってくれることを期待しています。		
教材	テキストは特になし。毎回、講義資料を配布する。 参考文献は、講師より適宜提示する。		

授業コード	E022040010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	統計解析論		
英語科目授業名	Statistical Analysis		
科目ナンバー	EAAPJ4207		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	数理統計学の経済学への応用において最も重要な線形回帰分析を学ぶ。 　実は、数理統計学の初歩として多くの教科書に載っている平均の検定、平均差の検定、分散分析なども、線形回帰分析の一特殊例である。従って、線形回帰分析ができれば、これらの特殊例を強いて独自に学ぶ必要は無い。本講義では、あくまでも特殊例としてこれらも説明する。		
授業の到達目標	本講義の目標は、線形回帰分析の意味、結果の解釈、様々な応用への適用ができるようにすることである。 分析のためのツールとしてはMicrosoft Excelを想定する。		
授業内容・授業計画	教科書にそって説明していく。 第１回_イントロダクション 第２回_相関と回帰（1　回帰係数）　教科書4.1 第３回_相関と回帰（2　単回帰　最小二乗法）　教科書4.2の前半 第４回_相関と回帰（3　回帰の適合度、回帰による予測、関数形）　教科書4.3、4.4 第５回_回帰分析の統計理論（1　重回帰とはなにか）教科書11.4.1 第６回_回帰分析の統計理論（2　偏相関係数と重回帰）　教科書4.2.6 第７回_回帰分析の統計理論（3　重回帰の適合度とモデル選択）教科書4.4.2,4.4.3 第８回_回帰分析の統計理論（4　線形回帰に関する統計学）教科書11.1 第９回_回帰分析の統計理論（5　係数の信頼区間、係数に関する検定）教科書11.2、11.3 第10回_回帰分析の統計理論（6　重回帰の諸問題）教科書11.5 第11回_応用：平均の検定、平均差の検定 第12回_応用：相関係数の検定、独立性検定 第13回_応用：比率の検定、比率差の検定 第14回_ダミー変数の様々な設定法 定期試験		
事前・事後学習の内容	基礎・経済統計の履修が望ましい。予復習を行うこと。		
評価方法	定期試験による。ただし、客観的に本講義修了レベルの到達度が証明できる場合は、相応の成績で単位を与える。		
受講生へのコメント	線形回帰分析を使って身近なデータを分析しよう！		
教材	テキスト：森棟他（2015）『統計学（改訂版）　＜NLASシリーズ＞』		

授業コード	E032010010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	計量経済学		
英語科目授業名	Econometrics		
科目ナンバー	EAAPJ4208		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	データ分析・計量経済学の基本的な考え方について、初学者に向けて講義します。		
授業の到達目標	データを正しく読み解くために重要な考え方や技術を理解する。		
授業内容・授業計画	以下の講義計画は状況を見て変更する可能性があります。 第１回 ガイダンス・因果効果とは何か? 第２回 ランダム化対照実験 第３回 実験・自然実験の例 第４回 回帰分析① 第５回 回帰分析の例 第６回 回帰分析② 第７回 回帰分析③ 第８回 操作変数法 第９回 操作変数法の例 第10回 回帰不連続デザイン 第11回 回帰不連続デザインの例 第12回 パネルデータ 第13回 差の差の分析 第14回 パネルデータ分析の例		
事前・事後学習の内容	講義の内容を復習するために練習問題を数回出題する予定です。		
評価方法	中間レポートと期末試験の成績に基づいて評価する予定です。		
受講生へのコメント	講義資料や連絡事項を担当教員のHP（https://sites.google.com/site/ryosukeokazawa/lecture）にアップするので、各自定期的に確認するようにしてください。		
教材	教科書 Joshua D. Angrist and Jorn-steffen Pischke (2014) Mastering 'Metrics: The Path from Cause to Effect, Princeton University Press. 参考文献 1. 中室牧子・津川友介（2017）『原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法 』ダイヤモンド社 2. 伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法（光文社新書)』光文社 3. 山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学』中央経済社		

授業コード	E032030010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	経済情報論		
英語科目授業名	Economic of Information		
科目ナンバー	EAAPJ4210		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	上田　智巳		
科目の主題	この講義の主題は、わたしたち人間の意思決定である。 意思決定とは、端的に言えば、「複数の選択肢の中から一つ（あるいはいくつか）を選ぶこと」である。そのプロセスは、各選択肢の価値の評価、比較等を含む、一連の情報処理過程とみなせる。 意思決定に関係する学問分野は多いが、経済学もその一つである。その経済学では、伝統的に、人間は完全に合理的であると仮定されてきた。しかし、認知心理学などの分野において、わたしたちの意思決定行動にかんする実証的な研究が積み重ねられた結果、わたしたちの意思決定は必ずしも合理的ではないことが明らかになった。また、合理的な意思決定からどのように逸脱しているかについて、一定の傾向があることも見いだされた。 この講義では、わたしたちの意思決定にかんして実証的研究が明らかにしてきたことについて解説する。また、実証的研究の成果を反映させた、意思決定情報処理のモデルについても検討する。さらに、脳内における意思決定情報処理のプロセスについても触れたい。		
授業の到達目標	わたしたち人間の意思決定の特徴、傾向（わたしたちはどのように合理的でないのか）について、実証的研究で得られた知見に基づいて理解する。また、それらの知見を踏まえた意思決定過程のモデルについて理解する。		
授業内容・授業計画	第01回： この講義の概要、全体像 第02回： 意思決定とは 第03回： 完全合理性と限定合理性 第04回： プロスペクト理論（１）：価値関数 第05回： プロスペクト理論（２）：決定加重（確率ウェイト関数） 第06回： 異なる複数の時点における意思決定 第07回： 行動分析学的アプローチ（１）：行動分析学の基礎 第08回： 行動分析学的アプローチ（２）：価値割引 第09回： 多属性意思決定 第10回： 脳における情報処理の基礎知識 第11回： 意思決定に関わる脳内情報処理過程 第12回： 意思決定研究の処方的アプローチ 第13回： 意思決定にかんするその他の話題 第14回： まとめ		
事前・事後学習の内容	各回の講義において、その内容を深く理解するには、それまでの回の講義内容を理解しておくことが必要である。したがって、各回の授業前には、必要に応じて、前回までの内容を再度確認しておいてもらいたい。		
評価方法	期末試験（70%）および提出課題（30%）によって評価する。		
受講生へのコメント	この講義で扱う内容は、認知科学、行動分析学、行動経済学、神経経済学などの分野に関係するものです。なお、講義担当者の主たる専門は認知科学（特に認知心理学）です。そのため、講義内容も、必ずしも経済学に特化したものではなく、むしろ認知科学にやや重心が寄るかと思います。受講にあたっては、その点についてご了承ください。		
教材	特に無し。		

授業コード	E022080010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	財政学		
英語科目授業名	Public Finance		
科目ナンバー	EAAPJ4217		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	現代の財政制度やその課題、そして改革の方向といったことを総合的に理解することは大変難しい。それは、現代の財政が複雑化していると同時に、財政学の理論も近年、多様となっているためである。本講義では、この複雑化した財政をできる限り理解してもらうために、財政理論、財政の歴史、そして財政制度に関するトピックスというように一方向に偏らない講義を心がける。		
授業の到達目標	本講義における到達目標は、まずは財政学に関する基礎知識を身につけてもらうことである。しかし、知識を身につけるだけにとどまらず、財政に対する興味・関心を受講後も持ち続けてもらうこと、また、財政について「自分の頭で考える」きっかけを作ることも目標とする。		
授業内容・授業計画	毎回の講義ではレジュメおよび資料をスクリーン・モニターに映しながら講義を進める。出席者には毎回、スクリーン・モニターに映し出すレジュメと資料を配布する。 第１回_本講義の趣旨・問題意識の確認とガイダンス 第２回_財政学とは何を考える学問か？ 第３回_政府の必要性についての財政理論 第４回_資源配分調整機能についての財政理論 第５回_所得再分配機能についての財政理論 第６回_経済安定化機能についての財政理論 第７回_日本財政の歴史（高度成長期の財政史） 第８回_日本財政の歴史（オイルショックから臨調行革までの財政史） 第９回_日本財政の歴史（バブル景気からバブル崩壊まで） 第10回_日本財政の歴史（平成不況の始まり） 第11回_日本財政の歴史（小泉改革から政権交代まで） 第12回_日本財政の歴史（リーマン・ショックから現在まで） 第13回_トピック１　土建国家という日本独特の公共事業 第14回_トピック２　生活保障とセーフティネットについて 定期試験		
事前・事後学習の内容	毎回の講義の最後に、簡単に次回の講義のあらすじを伝えるので受講者は事前に関心のある文献を読むと理解が深まると思われる。また、毎回の講義後は配布レジュメと資料を復習しておくこと。		
評価方法	学期末の試験により評価する。持ち込みは不可とする。		
受講生へのコメント	講義では、一方的なものとならないように、受講する学生に目を配りながら、時には質問をすることもある。ぜひ恥ずかしがらずに答えてもらいたい。		
教材	テキスト：特になし 参考書：特になし		

授業コード	E022090010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	金融経済論		
英語科目授業名	Monetary Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4220		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	ミクロ経済学１・２及びマクロ経済学１・２の知識を前提に、金融経済論の基礎を学ぶ。		
授業の到達目標	金融経済論の基礎知識を習得し、金融問題や経済問題について経済学的に考える力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	「利子率」、「金融危機と信用秩序維持政策(プルーデンス政策)」、「デリバティブ(金融派生商品)」を中心に、金融経済論を学ぶ。 第１回_金融取引と利子率決定理論 第２回_企業の投資行動 第３回_名目利子率と実質利子率 第４回_債券市場の利子率 第５回_金融危機と金融行政(1)昭和金融恐慌 第６回_金融危機と金融行政(2)金融規制の歩み 第７回_金融危機への対応 第８回_自己資本比率規制 第９回_預金保険制度(1)預金保険制度 第10回_預金保険制度(2)預金保険料率 第11回_サブプライム・ローン問題 第12回_先物取引 第13回_オプション 第14回_スワップ		
事前・事後学習の内容	前回の授業内容を復習しておくこと。 次回の授業テーマについて調べておくこと。		
評価方法	期末試験による。		
受講生へのコメント	微分を用いた計算ができることを前提に授業を行う。		
教材	テキスト：使用しない。 参考書：特になし。		

授業コード	E033080010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	日本経済論		
英語科目授業名	Japanese Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4222		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	現在の日本経済が抱える課題について、特に少子・高齢化との関わりに注意を払いながら考えていきたい。		
授業の到達目標	現在の日本経済の課題を理解し、経済学的に考える力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	配布する資料を参考にしながら、講義形式で進めます。 第１回_ガイダンス 第２回_戦後の日本経済-高度成長期まで 第３回_戦後の日本経済-高度成長期から 第４回_日本経済の現状 第５回_財政システムの現状と課題 第６回_金融システムの現状と課題 第７回_労働問題-雇用システム 第８回_労働問題-女性労働 第９回_少子・高齢化問題 第10回_消費・貯蓄 第11回_所得格差 第12回_社会保障システムの現状と課題-年金 第13回_社会保障システムの現状と課題-医療・介護等 第14回_まとめ 定期試験		
事前・事後学習の内容	授業で取り上げるテーマに関連する文献を読んで、理解を深めること。		
評価方法	レポート（30%）、期末試験（70%）によって評価する。		
受講生へのコメント	毎日のニュース、身近に起きている変化に興味を持ってください。		
教材	テキスト：特になし		

授業コード	E035030010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	産業技術論		
英語科目授業名	Philosophy and History of Industrial Technology		
科目ナンバー	EAAPJ4224		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	坂上　茂樹		
科目の主題	本邦鉄道車両用タイヤ技術史を題材にこの国の産業技術史の基本構造への理解を深める。		
授業の到達目標	機械技術における進化の諸側面について具体的描像を得ること。		
授業内容・授業計画	はじめに 1. タイヤと輪心，その結合法と補助固定法 2. 昭和戦前期以降における国産タイヤの材料と製造法 3. 焼嵌めと締め代比 4. タイヤ損傷の諸類型(1) 踏面損傷と弛緩 5. タイヤ損傷の諸類型(2) 重大損傷事例 6. 本邦国有鉄道におけるタイヤ固定技術の変遷と世界の動向 むすびにかえて 本論，各2~３回程度。		
事前・事後学習の内容	講義資料を良く読んで頂く。		
評価方法	期末試験に依る。		
受講生へのコメント	経済学部の学生には必ずしも親しみのある内容ではない。		
教材	本邦鉄道車両用タイヤ技術史　　4月には本学リポジトリに登載。		

授業コード	E033100010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	国際協力論		
英語科目授業名	International Cooperation		
科目ナンバー	EAAPE4231		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里		
科目の主題	This class introduces students to the basic concepts, issues, and approaches to international cooperation.		
授業の到達目標	This course is aimed at helping students improve their analytical skills, enhance their critical thinking, and develop their own perspectives on various issues surrounding contemporary international society. Students will be asked to acquire the basic skills of Game Theory to understand strategic interactions between actors.		
授業内容・授業計画	This class is held in English. We first go through basic concepts of international cooperation, and then explore the causes of interstate conflict and war. The schedule is subject to change. 1. Introduction/ State Sovereignty and Anarchy 2. Actors, Interests, Interactions 3. Cooperation and Bargaining 4. Introduction to Game Theory 5. Coordination Problem 6. Collaboration Problem and Collective Action Problems 7. Power and Coercive Diplomacy 8. Extensive Form Games 9. Uncertainty and Expected Utility Theory 10. War as a Bargaining Failure 11. Causes of War (the Commitment Problem; Preventive War) 12. Causes of War (the Commitment Problem; Preemptive War) 13. Causes of War (Private Information and Incentives to Bluff) 14. Causes of War (Private Information and Incentives to Bluff) Final Exam		
事前・事後学習の内容	Students are expected to read the textbook before and after class.		
評価方法	Final Exam 100% (Students may answer questions in Japanese.)		
受講生へのコメント	・If some students are engaging in inappropriate behavior (including talking to other students, interrupting, talking on the phone), I will ask them to leave the classroom. ・The class handouts will not be redistributed.		
教材	【Textbook】 ・Jeffry A. Frieden, David A. Lake, and Kenneth A. Schultz. 2015. World Politics: Interests, Interactions, Institutions. 3rd ed. WW Norton & Co. ・Andrew H. Kydd. 2015. International Relations Theory: The Game-Theoretic Approach. Cambridge University Press.		

授業コード	E034060010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	空間経済学		
英語科目授業名	Spatial Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4239		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	われわれの経済活動において，空間や距離が持っている重要性を理解する．また，企業や家計（労働者）といった経済主体の移動や立地がどのように決まるかを，経済学の視点から理解する．		
授業の到達目標	（1）われわれの経済活動において空間や距離がなぜ重要性か （2）各経済主体の移動や立地がどのようなメカニズムで決まるか について経済学の観点から理解し，これらに関わる政策の是非等について考える力を身に付ける．		
授業内容・授業計画	スライドを用いた講義を行う． 第１回_イントロダクション 第２回_余剰分析の復習1 第３回_余剰分析の復習2 第４回_道路事業の厚生評価 第５回_アメニティの評価 第６回_アロンゾの住宅立地モデル1 第７回_アロンゾの住宅立地モデル2 第８回_中間試験 第９回_開発規制の効果分析 第10回_ウェーバーの工業立地モデル 第11回_ホテリングの空間競争モデル1 第12回_ホテリングの空間競争モデル2 第13回_クルーグマンの国際経済モデル：自国市場効果 第14回_クルーグマンの地域経済モデル：対称性の崩壊 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前の学習：特に必要ない． 事後の学習：講義で習ったことをよく復習しておく．		
評価方法	中間試験・期末試験によって評価する．		
受講生へのコメント	ミクロ経済学，経済数学（微分，最適化など）を事前に学習していることが望ましい．		
教材	テキスト：特に指定しない． 参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	E038050010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	関西経済論		
英語科目授業名	Kansai Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4241		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	木下　祐輔		
科目の主題	皆さんは「関西」についてどれだけ知っていますか。本講義では、我々に最も身近な地域である大阪・関西について、その成り立ちや現状と課題、それを克服するための処方箋を学びます。加えて、単なる出来事や用語の紹介だけでなく、背景となった要因まで踏み込んで解説します。 　少子高齢化が進む中で、どのように地域づくり、まちづくりを進めていくか。どの地域もこの難問に頭を悩ませています。急速にグローバル化が進む中、もう一度大阪・関西という自分たちの足下に目を向け、ローカルな視点から解決策を一緒に考えてみませんか。		
授業の到達目標	以下の３点を本講義の到達目標とします。 (1)関西経済の強みや弱みについて説明できる (2)関西経済が抱える課題とその解決策について説明できる (3)一つでも多く関西の良いところを知り、履修前よりも関西を好きになる		
授業内容・授業計画	全14回の講義のうち、前半は歴史や他地域との比較を通じて大阪・関西経済を概観し、短期的・中長期的な課題について様々なデータを用いて実証的に解説します。後半は教科書である「アジア太平洋と関西2018」に基づき、関西経済に関する最新のトピックス・経済ニュースを解説します。また、「アジア太平洋地域の中の関西」という視点から、アジア太平洋の国々と大阪・関西との繋がりについても事例を交えて紹介します。 第１回_イントロダクション：関西について知ろう 第２回_関西経済の歩み：明治・大正時代～バブル崩壊まで 第３回_関西名経営者列伝(1) 第４回_関西名経営者列伝(2) 第５回_徹底分析：関西経済の長期低迷 第６回_老いる関西：克服できるか少子高齢化 第７回_関西で女性は輝けるか 第８回_阪神・淡路大震災と関西経済 第９回_関西における社会資本ストックと交通インフラ【教科書 第５章１～２節】 第10回_インバウンド・ツーリズムと関西経済【教科書 第４章２節】 第11回_プレイバック1970：48年前の大阪万博から何を学ぶか 第12回_スポーツと関西【教科書 第６章コラムJ】 第13回_変貌するアジア経済と日本・関西の発展戦略【教科書 第２～３章】 第14回_全体総括：関西の未来はどうなるか【教科書 第６章】 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義はレジュメと教科書を用いて行うので、教員が事前にアナウンスする該当箇所を通読した上で授業に臨んでください。時事問題を取り扱うため、新聞やテレビ・インターネット等で日常的に情報収集を行っておくことが理解を深めるポイントです(情報の読み方も適宜解説します)。		
評価方法	主に期末試験で評価します。講義で取り上げるトピックスは受講者の関心に合わせて変えたいと考えていますので、数回配布するコミュニケーションカードで自分が知りたいと思った内容をリクエストしてください。記載内容も最終評価に反映させます。		
受講生へのコメント	「明日誰かに話したくなる講義」を心がけたいと考えています。また、自ら体験し学んだ知識はその人の可能性を広げ、将来社会に出ても必ず役に立つ「生きた知識」です。そのため、講義の中で気になった内容があれば、授業後に自分で調べる手間を惜しまないでください。疑問に感じたことは積極的に講師に質問したり、意見をぶつけてみてください。		
教材	テキスト：(一財)アジア太平洋研究所，『アジア太平洋と関西-2018年版関西経済白書』，丸善出版，2018年10月 参考書：特に指定しませんが、自分たちの学び舎のルーツを知るということで、「宮本又郎，『商都大阪をつくった男 五代友厚』，NHK出版，2015年」の一読を強く勧めます。		

授業コード	E006140010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	世界経済論		
英語科目授業名	World Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4242		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉えることで、学生諸君の世界認識の参考にしてもらいたいと思います。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスを在学中の研究活動や卒業後の人生に活かすことができること。		
授業内容・授業計画	まず西洋経済史を主体として経済史を概観して、資本制という社会システムに関する理解を深めます。ついで世界経済の段階区分を行い、さらに現代世界経済の総体的な把握へと進みます。 第１回_経済学と経済政策 -この学問の成り立ち 第２回_資本制の起源 -農民層分解と三大階級、現代の経営 第３回_産業革命と社会の変容 -Industry 4.0? 第４回_最初のグローバリゼーション -工業製品輸出の世界化 第５回_中進国のキャッチアップと明治維新 -手段としての関税と国民市場 第６回_貿易思想と産業育成政策 -WTO創設に伴う産業育成政策の射程 第７回_戦後日本の分断 -国際競争に曝されているセクターとそれ以外 第８回_ソ連型社会主義の挑戦と後退 -線型発展史観の動揺 第９回_世界システム論の貢献 -基軸経済論との対比 第10回_残された社会主義諸国 -特異な諸類型 第11回_冷戦の終結とグローバリゼーション -勢力圏分割の終焉 第12回_雁行形態論とPLC仮説 -それらの前提の溶解 第13回_国際通貨システムの変容 -2つの本位制の解体 第14回_地域経済統合と自由貿易体制の行方 -ドイツ関税同盟からEU、その先へ		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深めるとよいでしょう。		
評価方法	定期試験を主体とするが、講義中で随時、主題を示してその場でエッセイを書いてもらうことがあります。 授業中の課題30%、定期試験70%の予定。		
受講生へのコメント	諸君は世界を観る眼鏡を持っていないと思います。この講義では担当者の世界観を提示し、１つの眼鏡を提供しますので、のちのち自分なりの眼鏡を作る参考にしてください。		
教材	拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版, 2017年第2刷）		

授業コード	E038040010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	東南アジア経済論		
英語科目授業名	Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4240		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア各国を経済面、社会面、文化面から多角的に分析する。		
授業の到達目標	東南アジア地域の経済発展とそれに伴う社会や文化の変容について理解を深めることを目的とする。		
授業内容・授業計画	本講義では、東南アジア地域の経済を政治制度・経済制度・文化・社会などから多角に分析する。 その中で主要な開発経済学の理論も紹介する。東南アジア全体の産業政策、都市化、教育の発展の経緯を鑑みた上で、各国の経済をより詳細に考察する。域内格差、所得格差、貧困問題、といった旧来からの論点に加え、近年、ますます重要になってきている環境問題、中国との結びつき、ジェンダーの観点からも東南アジア各国経済を検討する。 第１回：イントロダクション 第２回：東南アジアの概略 第３回：人口と経済開発 第４回：農村と都市 第５回：教育と健康 第６回：農村開発 第７回：工業化と産業集積 第８回：国際貿易 第９回：国際労働移動 第１０回：拡大する消費市場 第１１回：社会保障制度と高齢化社会 第１２回：開発と環境 第１３回：所得格差と貧困問題 第１４回：市民社会 定期試験		
事前・事後学習の内容	授業後に配布資料を用いて復習すること。授業中に指示する参考文献も読んでください。		
評価方法	レポート35%期末試験65%		
受講生へのコメント	授業中に与えるテーマに関して小レポートを作成・提出してもらいます。		
教材	テキスト：特になし。 参考書・参考資料等渡辺利夫編（2009）『アジア経済読本（第４版）』東洋経済新報社Witt, M.A. & G. Redding eds. (2014) The Oxford Handbook of Asian Business Systems, Oxford University Press.		

授業コード	E047050010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	各国経済論特殊講義（経済英語１）		
英語科目授業名	Economic English 1		
科目ナンバー	EAAPE4201		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	CHARLES　WEATHERS		
科目の主題	基本的なビジネスや経済についての知識を得るとともに、こうしたことを英語で話すことが出来るようになることを目的にしています。		
授業の到達目標	英文の資料を読みこなし、英語を使って自らの知識、考えを積極的に述べることができるようになることを目標としています。		
授業内容・授業計画	アダム・スミスの自由市場の論理から始め、様々な企業や企業家などの活動について取り上げる予定です。毎回テーマに従って英文の資料を読み、英語でのディスカッションを行います。各学生に授業のQ&Aを指導してもらいます。また、英語でのミニ報告をしてもらいます。 第１回_Adam Smith 第２回_The age of Adam Smith 第３回_Konosuke Matsushita 第４回_Panasonic 第５回_Akio Morita 第６回_Sony 第７回_Steve Jobs 第８回_Apple 第９回_Rachel Carson 第10回_Carson and the anti-pollution campaign 第11回_Presentation workshop 第12回_Student presentations 第13回_Norman Borlaug and the Green Revolution 第14回_The Green Revolution in Asia 期末試験		
事前・事後学習の内容	配布された資料を予め読んでおいてください。		
評価方法	授業への積極的な参加が最も重要です。また、Q&A指導、ミニ報告および期末試験を評価します。		
受講生へのコメント	20人を定員としています。参加希望の学生が２０人を超えた場合、面接などの方法によって選択します。3月末から掲示板を見てください。		
教材	テキストおよび参考書：毎週、課題として、テーマに関連する短い英文の資料を配布します。		

授業コード	E047080010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	ヨーロッパ経済論特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on European Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4286		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	堀口　朋亨		
科目の主題	社会主義経済の一つの典型を為す東ドイツ経済を観察することで経済体制の意味を問い直し、統一、EUへの組み込みを通じて生起した事実を概観することで、地域が巨大市場に組み込まれることの意味を再考する。		
授業の到達目標	資本主義、社会主義というようなismにとらわれた発想ではなく、客観的に経済の機能性を検証・分析できる能力が身に付くようにする。		
授業内容・授業計画	講義の前半において、東ドイツ経済の検証を通じ、社会主義経済システムの検証を行う。中盤以降では、統一によってもたらされた混乱を観察し、その背景を検証することで、経済システムが機能するために必要な因子を見出し、システム間の連結可能性などについて考える。 第1回　東ドイツの概観 第2回　敗戦の混乱からの回復 第3回　労使関係 第4回　東ドイツの産業　１ 第5回　東ドイツの産業　２ 第6回　ドイツ統一　１ 第7回　ドイツ統一　２ 第8回　国営企業民営化　１ 第9回　国営企業民営化　２ 第10回　産業クラスターの変貌 第11回　人口流出 第12回　地域再生施策 第13回　雇用慣行の変化 第14回　世界経済と旧東独地域		
事前・事後学習の内容	①世界経済を形成していた経済体としての社会主義経済、②異なった経済制度の統合、の2点を再検証するのが目的であるので、事前学習として、猪木武徳『戦後世界経済史　自由と平等の視点から』（中公新書、2009年）を読んでおくことが望ましい。事後学習としては、講義中に紹介する書籍を読み進めることを期待する。		
評価方法	期末試験によって評価を決める。		
受講生へのコメント	教科書が存在しないので、休み過ぎると講義についていけなくなります。		
教材	なし。		

授業コード	E042040010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	経済統計論特殊講義Ａ（コンピュータ講座）		
英語科目授業名	Special Lecture on Economic Statistics A		
科目ナンバー	EAAPJ4251		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	様々な業務がコンピュータ上で処理されるようになり、会社などの組織の役割なども含めた全ての構造を、そのままプログラム構造に反映させる必要性が生じました。オブジェクト指向プログラミングは、この要請によって生み出されたプログラムの作成方法です。現在は、業務や組織などを表現する表記方法として脚光を浴び、マネージメントなど「文系的」な職種でも活用されるようになっています。プログラミングを学ぶことで、オブジェクト指向の考え方を身につけます。		
授業の到達目標	下記の３つの能力を身につける事を目標にします。 1) 業務などを適切な要素に分解できる能力を身につける。 2) その関係を明確に関連付ける能力を身につける。 3) それらが全体として矛盾が生じないような分析能力を身につける。		
授業内容・授業計画	JAVAプログラミングを学びます。基礎的な文法から始まり、パン屋や定食屋のシミュレーションを行い、どのような経営戦略を取ると、利益を最大にできるのか検討します。 授業では、毎回課題が与えられます。授業中に、その課題を完成し提出してもらいます。 第１回_ガイダンス 第２回_JAVAの基礎 第３回_変数 第４回_配列 第５回_for 文 第６回_if 文 第７回_パン屋のシミュレータ作成 第８回_パン屋のシミュレーションと経営戦略　最適な生産数を求める。 第９回_メソッドの作り方 第10回_メソッドの使い方 第11回_パン屋のシミュレーションと経営戦略　売り切れ戦略と売り残し戦略の分岐点 第12回_クラスの作り方 第13回_クラスの使い方 第14回_定食屋のシミュレーション		
事前・事後学習の内容	事前学習：授業で使用するテキストを配布するので、それを予習すること 事後学習：授業中の解説を元に課題を完成させ提出する。		
評価方法	毎回提出する課題により評価する。		
受講生へのコメント	プログラミング経験がない人が受講することを前提として授業をします。		
教材	テキスト：特になし 参考書：特になし		

授業コード	E037020010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	商業簿記基礎論		
英語科目授業名	Basic Commercial Bookkeeping		
科目ナンバー	EAAPJ3201		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	小田　和幸		
科目の主題	″企業の経済事象は、簿記で財務諸表を作成することで初めて把握できます。″ そして、その財務諸表を読みとることで、企業が経済活動を続けるための原動力となる経営管理や業績評価を行うことが可能となります。 本講義では、まず簿記の重要性や基本的な知識（日本商工会議所簿記検定3級レベル）を学習します。 その上で、会計の用語・財務諸表の構造・読み方分析等、財務諸表を理解するために必要な基礎的な力を身につけます。		
授業の到達目標	日本商工会議所簿記検定3 級合格レベルの計算能力を身につける。 財務諸表の理解力を深めて経済学の知識に役立てる。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス・簿記の目的 第２回_取引・仕訳・勘定記入・試算表 第３回_商品売買・現金の記帳方法 第４回_手形・有形固定資産の記帳方法 第５回_株式会社の資本・税金 第６回_試算表の作成・伝票 第７回_決算・英米式決算法 第８回_その他の決算整理 第９回_その他の決算整理 第10回_財務諸表の作成 第11回_収益性分析 第12回_収益性分析 第13回_安全性分析 第14回_採算性分析 第15回_定期試験		
事前・事後学習の内容	新しい学問ですので事前の学習はテキストの該当範囲を一読するのみで結構です。 事後の学習は問題集の計算演習を複数回行うようにして下さい。 重点的に計算演習が必要な項目は講義内でお伝え致します。		
評価方法	小テストの成績および期末試験の成績で評価します。 詳細は第１回のガイダンスでお話しします。		
受講生へのコメント	財務諸表の読み方が分かれば、経済学の理解に役立ちます。身近な企業の数値を確認しながら簿記の基礎的範囲を学習し、幅広い知識を身につけて経済学の理解に役立ててください。 なお、出席する際には教材および電卓を必ず持参して下さい。		
教材	ALFA 3 級商業簿記テキスト、問題集、解答解説集		

授業コード	E044060010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	証券経済論特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on Security Economics		
科目ナンバー	EAAPJ3202		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	資本市場に求められる役割とは何か。激変する世界の資本市場の全容と投資のリスク＆リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ分析・外国為替相場など、証券投資における重要なテーマに関する理論と応用を実務に従事している講師より実践的な視点から講義する。		
授業の到達目標	３つの目的をもって受講してもらいたい。１つは経済学を学ぶにあたって必要な知識である、応用理論としての証券論である。債券や証券の価格理論や利子率、企業利益に関する知識は経済学の基礎としても応用としても役立つものである。２つ目はポートフォリオに代表されるリスク管理の考え方である。このアイデアは証券投資で利用される「特殊な技術」ではなく現在、非常に広い範囲で応用されている。最後にグローバル化である。野村グループは世界30カ国以上に28,048人(2018年3月末現在)の役職員が在籍し、その国籍は90カ国に及んでいる。グローバル化における先進的な取り組みから生きた知識を学び取ってほしい。		
授業内容・授業計画	野村證券のスタッフが交代で講義を行う。配布資料やレジュメを用いた講義形式で行う。 ※講義計画は、野村證券ならびに野村グループ各社の人事異動やその他諸般の事情により変更される場合がある。 第１回_ガイダンス 第２回_経済情報の捉え方 第３回_株式市場の役割と投資の考え方 第４回_債券市場の役割と投資の考え方 第５回_投資信託の役割とその仕組み 第６回_リスク・リターンとポートフォリオ分析 第７回_外国為替相場とその変動要因について 第８回_産業展望と投資の考え方 第９回_ライフプランと資産形成 第10回_公的年金制度について 第11回_グローバル化する世界と資本市場の果たす役割 第12回_確定拠出年金(DC)について 第13回_DCポートフォリオの作成 第14回_マネープランの作成		
事前・事後学習の内容	金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。		
評価方法	期末試験で評価する。		
受講生へのコメント	講義にしっかり集中し、授業のたびごとに理解することを心がけるようにしましょう。 私語、スマホ操作、居眠り、特別の理由のない遅刻・途中退出といった受講上のマナー違反を慎むこと。		
教材	「証券投資の基礎」　野村證券投資情報部 編　丸善株式会社 ※講義資料は毎回講師が用意する。		

授業コード	E041090010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	ミクロ経済学上級講義１		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Microeconomics 1		
科目ナンバー	EAAPJ5505		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	大学院入門レベルのミクロ経済学について学びます。本講義1では、特に、価格を所与とした消費者や生産者の選択行動について学びます。（ゲーム理論については、後期開講の2で学んでください。） ※なお、本講義は、大学院生向けの科目（大学院科目：ミクロ分析1）を意欲のある学部生にも開放するという意図で設置されたものであり、基本的には大学院生を対象としたレベルで行います。		
授業の到達目標	大学院レベルのミクロ経済学の基礎を習得する。特に、選択に関する情報から最適性の仮定により論理的（・数理的）に推測・予測を導き出す基礎技能を身に付ける。		
授業内容・授業計画	以下の流れで、講義形式で行います。テキストの該当章はそれぞれ第1章（選択と選好）、2・3章（消費者選択と選好）、5章（生産者選択と技術）、16章（市場均衡の性質）、数学付録（最適選択の数理）です。 第1回 ガイダンス 第2回 選択と選好①：顕示選好の弱公準 第3回 選択と選好②：選択の合理性 第4回 消費者選択と選好①：顕示選好の弱公準による行動予測 第5回 消費者選択と選好②：需要行動からの選好の推測 第6回 消費者選択と選好③：間接選好からの需要行動の予測 第7回 消費者選択と選好④：交換に関する効率性についての共通価格の含意 第8回 生産者選択と技術①：利潤最大化（供給行動からの利潤の推測） 第9回 生産者選択と技術②：費用最小化（費用関数からの供給行動の推測） 第10回 生産者選択と技術③：分担に関する効率性についての共通価格の含意 第11回 市場均衡の性質：効率性についての市場均衡の含意 第12回 最適選択の数理①：比較静学（包絡線定理） 第13回 最適選択の数理②：制約付き最適化における一階条件（ラグランジュ乗数） 第14回 予備日 定期試験		
事前・事後学習の内容	復習用に何回か宿題を出します。		
評価方法	期末試験によって評価します。		
受講生へのコメント	大学院レベルで行いますので、楽に単位を取りたいだけの人にはおすすめしません。 講義HP（4月開設予定）：http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/kitahara/micro/2019micro.htm （ただし、部局サーバの移行によりアドレスが変更になる可能性あり。）		
教材	テキスト：Mas-Collel, A., Whinston, M. D. and Green, J. R. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press（購入不要） 参考書：神取道弘（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社（（本講義を受けずとも）おすすめ）		

授業コード	E047090010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	国際経済上級講義		
英語科目授業名	Advanced Lecture on International Economy		
科目ナンバー	EAAPJ5504		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	国際経済学の中でも国際金融に関するテーマを中心に取り扱う。この講義では，貿易の仕組やその代金の決済，海外直接投資，資産運用目的のグローバルな投資行動，そして外国為替市場への介入について解説を積み重ねていき，為替レートについての議論を様々な角度から理解する。さらに，マクロ経済学への応用を試みることで国際金融に対するより一層の理解を試みる。		
授業の到達目標	為替レートは国や地域を結ぶがゆえ、グローバル化する世界において今後ますます重要な役目を果たすであろう。景気を左右するものなのか、生活を安定させるものなのか、貧困を救うものなのか、まずは為替レートと通貨制度に対して浅くとも広い知識を得ることが本講義のねらいである。		
授業内容・授業計画	基本的には講義形式が中心であるが，講義のテーマによっては討論を求める。なお，図表などを用いた解説をおこなうこともあるが，高度な数学的解説は用いないよう配慮する。 第１回_イントロダクション 第２回_外国為替 第３回_為替レートの定義 第４回_為替レートと貿易収支 第５回_通貨制度 第６回_購買力平価 第７回_金利平価 第８回_前半のまとめ 第９回_為替レートの決定理論 第10回_為替レートの将来予測 第11回_為替介入 第12回_オープンマクロ経済学 第13回_通貨協力 第14回_国際金融論の最新トピックス 定期試験		
事前・事後学習の内容	ノートを再度まとめ，復習することが望ましい。		
評価方法	定期試験100%		
受講生へのコメント	国際経済学を受講していることが望ましい。		
教材	テキストは使用しない。参考文献は講義中に指示する。		

授業コード	E041110010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	計量経済学上級講義１		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Econometrics 1		
科目ナンバー	EAAPJ5507		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	鹿野　繁樹		
科目の主題	計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。		
授業の到達目標	この講義の目標は、統計学と計量経済学の基礎をマスターすることである。		
授業内容・授業計画	まず確率・統計を復習し、最小2乗法（OLS）による回帰直線を学ぶ。 次いで、古典的仮定のもとでの単回帰モデル・重回帰モデルの推定と検定を習得する。 最後に、回帰モデルの関数型の拡張を考える。 第１回_イントロダクション 第２回_確率論（1）：確率変数と確率分布 第３回_確率論（2）：正規分布・多次元分布 第４回_統計的推測（1）：基礎編 第５回_統計的推測（2）：推定と仮説件手 第６回_回帰直線と最小2 乗法（OLS） 第７回_決定係数 第８回_古典的回帰モデルとOLS 推定 第９回_回帰係数の仮説検定 第10回_統計ソフトgretl による回帰分析 第11回_重回帰分析（1）：重回帰OLS 第12回_重回帰分析（2）：コントロール変数 第13回_回帰モデルの拡張（1）：モデルの関数型 第14回_回帰モデルの拡張（2）：ダミー変数 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。 テキスト章末の復習問題を解くこと。		
評価方法	毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。		
受講生へのコメント	計量経済学上級講義２とセットの科目です。引き続き後期に計量経済学上級講義２を受講して下さい。		
教材	鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。		

授業コード	E047390010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	Lectures on Economics in English A		
英語科目授業名	Lectures on Economics in English A		
科目ナンバー	EAAPE4206		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里、中村　英樹、中村　健吾		
科目の主題	In this course, three lecturers will each give lectures on different aspects of contemporary economy under the pressure of globalization.		
授業の到達目標	All the lectures will be given in English for the students to get accustomed to English hearing and thinking.		
授業内容・授業計画	Three lecturers will each give lectures on the following topics. Theme 1) What Does Mechanization Give Us?　(by Professor Hideki Nakamura) Theme 2) Analyzing the Nature and Causes of Globalization (by Professor Kengo Nakamura) Theme 3) Development Economics (by Professor Iwanami) The class schedule is subject to change. 1. Introduction by Professor Hideki Nakamura 2. Theme 1)-1: Mechanization in an Economy by Professor Hideki Nakamura 3. Theme 1)-2: Mechanization, Wages, and Economic Growth by Professor Hideki Nakamura 4. Theme 1)-3: Mechanization and Skilled and Unskilled Labor by Professor Hideki Nakamura 5. Theme 1)-4: Mechanization and Employment by Professor Hideki Nakamura 6. Theme 2)-1: Globalization of Economy by Professor Kengo Nakamura 7. Theme 2)-2: Historical Origins of Economic Globalization by Professor Kengo Nakamura 8. Theme 2)-3: Globalization of Politics by Professor Kengo Nakamura 9. Theme 2)-4: Globalization of Communication, Society and Culture by Professor Kengo Nakamura 10. Theme 3)-1: Definition of Poverty by Professor Iwanami 11. Theme 3)-2: Poverty and Development by Professor Iwanami 12. Theme 3)-3: Foreign Aid and Development by Professor Iwanami 13. Theme 3)-4: In-Class Exam 14. Summary by Professor Iwanami 　　Submission Deadline of the Term Reports		
事前・事後学習の内容	The students will be requested to read some English texts or materials after each lecture.		
評価方法	Two lecturers will each ask students to write a research paper about a subject that students select from a list of approved topics. The remaining lecturer will ask students to take one in-class exam. Students are requested to submit two term papers by the deadline indicated by each lecturer. Two term papers each is worth 35% and the class exam is worth 30% of the course grade.		
受講生へのコメント	The lectures will ask students to think carefully about the causes of globalzation and encourage them to find a way to adjust themseves to a globalizing world.		
教材	There is no textbook on the lectures. Instead, each lecturer will give you some texts or materials on the lectures.		

授業コード	E061070090	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	学部として新入生に初めて提供する、少人数制の科目です。このクラスでは、予備知識のあまり要らない、しかも読んで面白い古典を紹介することで、大学における学びのイントロダクションとしたいと思います。		
授業の到達目標	① 何人かの著名な経済学者の、人となりと学説に触れる。 ② 翻訳を通じてケインズの書き物に触れ、人類史上有数の知性という存在のレベルを体感する。		
授業内容・授業計画	前半に輪読を行い、後半はそれに触発されて深めた内容についてグループ単位で発表してもらいます。就職活動を見越した、コミュニケーション能力や協調性の啓発も必要ですから、各回の発表は小グループ単位を基本とします。 　テキストは現在絶版ですので、コピーを配布します。また半期すべてを輪読に投じても全体は読み切れませんから、範囲は第二部（経済学者の伝記）および第三部（追加篇）に限定します。 　なお初回で取り上げるニュートンは、いうまでもなく経済学者ではない。しかしながら本書全体の白眉は短いこの章であろうから、あえて取り上げるものである。 第１回_自己紹介と全体のイントロダクション、グループ分け、輪読の割り当て 第２回_テキストの輪読(1) アイザック・ニュートン 第３回_テキストの輪読(2) ロバート・マルサス① 第４回_テキストの輪読(3) ロバート・マルサス② 第５回_テキストの輪読(4) アルフレッド・マーシャル① 第６回_テキストの輪読(5) アルフレッド・マーシャル② 第７回_テキストの輪読(6) フランシス・エッジワース 第８回_※ 途中1回、学情センターのガイダンスが入る 第９回_グループ報告の準備作業 第10回_グループ報告(1) 第11回_グループ報告(2) 第12回_グループ報告(3) 第13回_グループ報告(4) 第14回_グループ報告(5)		
事前・事後学習の内容	前半は毎回、テキストの予習が必要です。全体を通じて、少人数のグループでの取り組みとなるので、授業時間外も含めて、メンバーとの緊密な連携、共同作業を要します。		
評価方法	① 各回のグループ報告の内容と、クラス全体でのディスカッションへの個々人の貢献度をみます。 ② 後半のグループ報告では、グループでの発表に加えてペーパーも提出してもらい、文章表現についても寸評します。 　①を70%、②を30%として評価します。		
受講生へのコメント	大学で学ぶとは、という心構えが備わる授業になればと念じています。		
教材	テキスト： J.M.ケインズ（熊谷・大野訳）『人物評伝』（岩波書店, 1959年初版）		

授業コード	E061070060	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	基礎演習は、1年生の皆さんが大学での勉強を始めるにあたって必要な情報収集やレポート作成、プレゼンテーション方法など習得してもらうための科目である。		
授業の到達目標	この授業は、テキストの輪読やディスカッション、レポート報告などを通し、レポート作成およびプレゼンテーションができるようになることを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	演習形式です。 報告者：自らの担当部分を精読し、内容をレジュメとしてとりまとめ、授業で説明する。 質問者：自らの担当部分を精読し、少なくとも３つ以上の質問を用意する。 第１回_ガイダンス 第２回_レポートの書き方 第３回_文献・資料の探し方 第４回_テキストの輪読（１） 第５回_テキストの輪読（２） 第６回_テキストの輪読（３） 第７回_テキストの輪読（４） 第８回_テキストの輪読（５） 第９回_テキストの輪読（６） 第10回_テキストの輪読（７） 第11回_テキストの輪読（８） 第12回_テキストの輪読（９） 第13回_テキストの輪読（１０） 第14回_レポート作成指導		
事前・事後学習の内容	事前の学習：自らの担当部分をきちんと仕上げる。 事後の学習：コメントに従って修正する。		
評価方法	ディスカッションへの参加状況およびレポート課題で評価する。		
受講生へのコメント	あらかじめ新聞やニュースなどを通し、わが国の社会・経済の仕組みへの関心を高めておくことを希望します。		
教材	テキスト：杉山武彦、竹内健蔵、根本敏則、山内弘隆（編）『交通市場と社会資本の経済学』、有斐閣、2010年。		

授業コード	E061070100	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	大学での学習に必要とされる基本的なスキルを身につけることを目的とする。東南アジア経済に関連する文献の輪読とディスカッション、レポート作成を通して、読解力、分析力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。		
授業の到達目標	グループでの報告やディスカッションを通してアジアにも関心をもってもらう。その上で、読解力、分析力、プレゼンテーション能力を身につける。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_文献調査、報告資料の作成方法 第３回_報告、ディスカッション 第４回_報告、ディスカッション 第５回_報告、ディスカッション 第６回_報告、ディスカッション 第７回_報告、ディスカッション 第８回_報告、ディスカッション 第９回_報告、ディスカッション 第10回_報告、ディスカッション 第11回_報告、ディスカッション 第12回_報告、ディスカッション 第13回_レポート作成の指導 第14回_レポート作成の指導		
事前・事後学習の内容	次回の授業で用いる文献を読んでおくこと。授業後は、授業中に紹介した文献を読み、理解を深めてもらいたい。		
評価方法	授業への参加状況、報告、ディスカッション、期末レポートを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	授業への主体的かつ積極的な参加を期待します。		
教材	テキスト：ガイダンス時に受講者と相談の上、決定する。		

授業コード	E061070010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	坂上　茂樹		
科目の主題	基礎演習は読解力，プレゼン力，文章力など，大学生にとって必要不可欠なスキルの修得を目標とする。 新聞･雑誌･ネット記事等から各人が興味を抱いたテーマについて独自にスクラップし，レポート化することを義務付ける。		
授業の到達目標	文献を批判的に読み，その理論的枠組と現実とを突合せ，その結果を発表するという基本的アカデミック・スキルの習得を目指す。自分の考えを自分の言葉で他人に伝え，相手の意見に対しては正確に応答する力を身につけてもらいたい。		
授業内容・授業計画	指定されたテキストを精読し，発表，議論する。 第１回_イントロダクション 第２回_OPAC講習会(期日未定) 第３回_テキストの輪読 第４回_テキストの輪読 第５回_テキストの輪読 第６回_テキストの輪読 第７回_テキストの輪読 第８回_テキストの輪読 第９回_テキストの輪読 第10回_テキストの輪読 第11回_テキストの輪読 第12回_レポート作成について(各人のテーマ設定報告) 第13回_報告とディスカッション 第14回_報告とディスカッション		
事前・事後学習の内容	指定されたテキストを読み，不明な箇所や重要な箇所をマークし，討論を行うための準備をするように。		
評価方法	授業への参加姿勢や発表ならびに修了レポートで評価する。 修了レポートはテキストの議論を参考に，新聞･雑誌･ネット記事等から各人が興味を抱いたテーマについて独自にスクラップし，レポート化したものとする。		
受講生へのコメント	今回のテキストはかなり難しいと思われるが，難しい本を批判的に読むコツと忍耐を習得して頂きたい。		
教材	山本義隆『近代日本一五〇年』岩波新書，2018年		

授業コード	E061070110	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷 昌史		
科目の主題	ロシアを様々な角度から知ることを通じて、文献探索方法、レポートのまとめ方、ディスカッションの方法を習得する。		
授業の到達目標	①基本的な文献探索を取得する ②学生同士で議論ができるようにする ③自分の関心のあるテーマを選び、レポートを作成する。 ④ロシアと日本および諸外国との関係について理解を深める		
授業内容・授業計画	ロシアは広大な領土を持ち、様々な国境を接しており、日本の隣国でもある。近年、安倍首相は頻繁にプーチン大統領と会談し、日露平和条約の締結を模索している。担当教員はロシア経済史を専門としており、ロシアの滞在経験も長い（これまでの訪露は40回を超える）。教員の知識と経験に基づいて、ロシアの実情を学生諸君に伝えることが、この授業の目的である。 第１回_オリエンテーション 第２回_ロシアの歴史（１） 第３回_ロシアの歴史（２） 第４回_ロシアの地理 第５回_ロシアの文化 第６回_ロシアの地政学（１） 第７回_ロシアの地政学（２） 第８回_ロシアの政治経済（１） 第９回_ロシアの政治経済（２） 第10回_ロシアの科学技術（１） 第11回_ロシアの科学技術（２） 第12回_ロシアの音楽 第13回_ロシアの料理 第14回_ロシアの民族		
事前・事後学習の内容	この授業では教科書を使用せず、教員が教材を毎回、テーマに合わせて前の週に準備し、それを学生に配布する。教員から渡された教材（テキスト）を翌週までに読んできてください。		
評価方法	出席が60%、レポートが40%。授業中での積極的な質問・意見はプラスに評価します。		
受講生へのコメント	授業に対する要望は、できる限り取り入れて行きたいと思っています。遠慮なくリクエストを教員に随時伝えてください。これまでロシアに余り関心のなかった方々を歓迎します。		
教材	テキスト：特にありません。 参考書：司馬遼太郎『ロシアについて』文藝春秋、1986年。的川泰宣『月を目指した二人の科学者』中央公論新社、2000年。		

授業コード	E061070050	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	基礎演習は、大学で学ぶ際の基礎的なスキルを修得すると同時に、「自分の頭で考えること」そして「グループワークの大切さ」を実感するための演習科目です。		
授業の到達目標	①大学内の学習施設を知ること、②文献や資料の検索スキルを習得すること、③検索した文献等をレジュメに書くスキルを修得すること、④レジュメを基に報告・議論をしてグループで討論すること、以上のスキルを身につけることを目標とします。		
授業内容・授業計画	大きくは3部構成で授業を進めます。第1部は大学内の施設や検索技術を習得するための授業です。第2部は検索技術で得た情報を個人レベルでまとめ、記述して、報告する授業です。第3部はグループで議論して、発表する授業です。 第１回_ガイダンス 第２回_個人の自己紹介 第３回_大学施設を知る 第４回_学術情報センターの使い方を知る 第５回_個人で調べたいことを考える 第６回_実際に調べてみる 第７回_みんなの前で報告する 第８回_個人作業の振り返り 第９回_グループで学ぶとは 第10回_グループで調べたいことを話し合う 第11回_グループのみんなで調べる 第12回_みんなの前でグループ報告する（中間報告） 第13回_最終グループ報告を作り上げる 第14回_みんなの前でグループ報告する（最終報告）		
事前・事後学習の内容	個人作業やグループワークでの報告を行うためには授業外での活動が非常に大切になることを実感してもらいたいです。そしてそのような作業は実は楽しいということを知ってもらいたいです。		
評価方法	授業への出席、個人報告およびグループ報告の内容、そして平常時の取り組み姿勢を総合的に勘案して評価します。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト：必要に応じて指示します。 参考書：必要に応じて指示します。		

授業コード	E061070080	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	説得力とは何かを考え，説得力あるプレゼンテーションを行う力を養う．また，説得力を高めるツールとして基本的な統計分析を利用する力を養う．		
授業の到達目標	（1）説得力あるプレゼンテーションを行う力を身に付ける． （2）説得力を高めるツールとして基本的な統計分析を利用する力を身に付ける．		
授業内容・授業計画	（1）学生によるプレゼンテーションと討論 （2）教員による講義 （3）PCを用いた演習 を適宜組み合わせ，授業目標の到達を図る． 第１回_イントロダクション 第２回_統計分析の役割 第３回_プレゼンテーションと討論（1） 第４回_仮説検定の考え方 第５回_R演習1 第６回_R演習2 第７回_プレゼンテーションと討論（2） 第８回_プレゼンテーションと討論（2） 第９回_ｔ検定 第10回_χ2乗検定 第11回_単回帰・相関分析 第12回_適用事例 第13回_プレゼンテーションと討論（3） 第14回_プレゼンテーションと討論（3）		
事前・事後学習の内容	事前の学習：プレゼンテーションの準備や宿題 事後の学習：討論で得られた意見のまとめや講義および演習の復習		
評価方法	プレゼンテーションの内容，討論や演習への取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	演習科目なので，積極的に参加・発言することが求められる．		
教材	テキスト：特に指定しない． 参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	E061070020	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融経済に関するテキストを読むことで金融に関する基礎知識を習得し、新聞記事を用いたディスカッション、レポート作成などを通じて学習スキルを身に付ける。		
授業の到達目標	金融経済論の基礎知識を習得し、レポート作成などの学習スキルを身に付ける。		
授業内容・授業計画	報告、ディスカッションなどを行いながら、金融の基礎(銀行の役割、利子率、貨幣など)を学ぶ。 第１回_ガイダンス 第２回_貨幣と利子率 第３回_リスクの変換、銀行の役割 第４回_銀行の脆弱性、リスクとリターン 第５回_学術情報総合センター講習会 第６回_資産選択、債券利回り 第７回_株価決定理論、効率的市場仮説 第８回_デリバティブ、金融資本市場のインフラ 第９回_金融政策、非伝統的金融政策 第10回_国際金融論、国際金融の歴史 第11回_金融危機、金融規制 第12回_日本の金融、フィンテック 第13回_基礎演習・修了レポート報告 第14回_基礎演習・修了レポート相談 ※「学術情報総合センター講習会」は第５回ではなく他の回に移動する可能性があります。		
事前・事後学習の内容	前回の授業内容を復習し、次回授業のテキストの該当箇所を読んでおくこと。		
評価方法	受講態度、発言状況、基礎演習・修了レポート等によって総合的に評価します。		
受講生へのコメント	新聞の経済記事を読む習慣を身につけてください。		
教材	テキスト：植田和男著『大学４年間の金融学が10時間でざっと学べる』株式会社KADOKAWA, 2017年 参考書：なし		

授業コード	E061070030	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	この演習のテキストに指定するのは、ジュネーブ生まれの異端の啓蒙思想家ジャン=ジャック・ルソーの代表作の１つである『社会契約論』（1762年）です。フランス革命（1789年～）の精神的源泉の１つとなったこの著作には、相反するさまざまな解釈が施されてきましたが、受講生諸君には偏見を解いた眼でこの本を読んでもらいたいと思っています。演習の前半では、このテキストを読み、授業中にその概要を報告してもらう作業に取り組みます。演習の後半では、『社会契約論』の読解をふまえて各自が決めたルソーにかかわるテーマについて、研究とその発表をしてもらうことになります。この研究・発表では、演習で用いるテキスト以外のルソーの著作（たとえば『人間不平等起源論』）、あるいはルソーに関する研究論文を参照してもらいます。そうした研究をふまえて、学期末には3500字以上の基礎演習修了レポートを提出してください。		
授業の到達目標	基礎演習は、文献探索、テキストの読解、プレゼンテーション、問題の発見、文章の執筆などにかかわる大学生としての基礎的なアカデミック・スキルを身につけることを目標にしています。そして、中村健吾が担当するこの基礎演習では、社会科学の古典を読み、それと対話をしながら考えるという経験をしてもらいます。		
授業内容・授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　学術情報総合センターでの研修 第３回　『社会契約論』の読解その１ 第４回　『社会契約論』の読解その２ 第５回　『社会契約論』の読解その３ 第６回　『社会契約論』の読解その４ 第７回　『社会契約論』の読解その５ 第８回　『社会契約論』の読解その６ 第９回　『社会契約論』の読解その７、各自の研究課題の設定 第10回　研究発表その１ 第11回　研究発表その２ 第12回　研究発表その３ 第13回　研究発表その４ 第14回　基礎演習終了レポートの提出		
事前・事後学習の内容	・ レジュメ担当者はテキストの内容をまとめた上で、一つ以上の疑問点（ないしは自らの意見・感想）を提起すること。 ・ レジュメ担当者でない場合も、事前にテキストの毎回の該当箇所をしっかり読み、重要な箇所や分からない箇所、気になる箇所に、線を引いたりコメントを入れておくこと。 ・ 修了レポートのテーマにしてみたいことを考えながら、テキストを読み、演習に参加しましょう。		
評価方法	授業での発表の内容と水準、修了レポートの出来具合を総合して、成績を評価します。		
受講生へのコメント	受講生には、この演習と大学４年間の本格的な読書を通じて、事柄を根源的に考える力を養ってもらいたいと思います。		
教材	【テキスト】 以下のテキストを、この演習の第１回目までに各自で購入して持参してください。 ルソー『社会契約論』岩波文庫。		

授業コード	E061070040	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	日本経済を取り巻く諸問題について知識を広げること。		
授業の到達目標	経済学に興味を持ち、自分なりの問題意識を持つことができるようになること。		
授業内容・授業計画	多様な内容の中から各自、テーマを選んで学びを深め、その成果を報告する。発表者以外は質問、討論に努める。 第１回_ガイダンス 第２回_OPAC講習会(予定) 第３回_個別発表と討論 第４回_個別発表と討論 第５回 個別発表と討論 第６回_個別発表と討論 第７回_個別発表と討論 第８回_個別発表と討論 第９回_個別発表と討論 第10回_個別発表と討論 第11回_個別発表と討論 第12回_個別発表と討論 第13回_個別発表と討論 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	テキストの中から興味ある章を各自、読み進めること。		
評価方法	平常点に依る。		
受講生へのコメント	私語は厳に慎むこと		
教材	授業中に指示する。		

授業コード	E061070070	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	基礎演習では、読解力、文章力、プレゼン力、質問力などの大学生が身につけるべき基本的なスキルを身につけることが目標です。本演習では、近・現代社会の歴史や社会情勢について学びながら、現代社会を分析する力を身につけてもらうことを目指します。具体的には、指定するテキストをまず輪読することで、各自レポートを作成し、ディスカッションを行い、関心のある問題を抽出します。ディスカッションは全体として行う場合もあれば、グループに分けて行う場合もあります。テキストの輪読後は、受講者の関心ごとにグループ分けし、それぞれのテーマを設定して報告してもらいます。		
授業の到達目標	グループでの報告やディスカッションを通して、近代以降の資本主義社会に生きる私たちが抱えてきた諸問題について理解を深めつつ、読解力や分析力やプレゼンテーション能力を身につける。		
授業内容・授業計画	前半は、指定されたテキスト部分について、レジュメをつくって発表してもらい、その後に、皆で議論する。後半は、関心のあるテーマに沿ってグループに分け、近年の具体例を分析・発表し、他の学生からフィードバックをもらう。本演習で関心を持ったテーマをもとにブラッシュアップした５０００～７０００字の修了レポートを提出する。 第１回_イントロダクション、自己紹介、第２回の課題告知、テキストの割り当て 第２回_「現代社会の生きづらさについて、私はこう考える」の報告、ディスカッション 第３回_テキストの輪読（はじめに、第１章「突然景気が悪くなる―松方デフレと負債農民騒擾」） 第４回_テキストの輪読（第２章「その日暮らしの人びと―都市下層社会」） 第５回_テキストの輪読（第３章「貧困者への冷たい視線―恤救規則」） 第６回_テキストの輪読（第４章「小さな政府と努力する人びと―通俗道徳」） 第７回_テキストの輪読（第５章「競争する人びと―立身出世」） 第８回_テキストの輪読（第６章「『家』に働かされる―娼妓・女工・農家の女性」） 第９回_テキストの輪読（第７章「暴れる若い男性たち―日露戦争後の都市民衆騒擾」、おわりに―現代と明治のあいだ） 第10回_明治から現代に目を向ける。現代の生きづらさを軸にテーマ分け、グループ分け 第11回_報告、ディスカッション 第12回_報告、ディスカッション 第13回_報告、ディスカッション 第14回_総括、レポート作成の指導 ※なお、演習期間内に一度、学術情報総合センターで資料収集のための文献検索についての講習を受講します。日程が決まってから、シラバスの授業進行を調整することになります。		
事前・事後学習の内容	次回の授業で用いる文献を読んでおくこと。出された課題をやってくること。 授業後は、テキストやディスカッションを通じて興味をもったテーマについて、理解を深めてもらいたい。新聞を定期的に読むようにし、授業に関連する内容などを、グループ報告、および修了レポート用にスクラップしておくとよい。		
評価方法	授業への参加姿勢や発表（７０パーセント）、ならびに修了レポート（３０パーセント）で評価する。		
受講生へのコメント	「文明開化」を成し遂げた明治社会。このような明るいイメージを、私たちは何となく持っているのではないでしょうか。しかし、日本が近代化に向けて大きな一歩を踏み出した明治時代は実は、とても厳しい社会でもありました。現代社会を生きる私たちの困難や生きづらさの根源を知るためには、明治社会にまで辿らなければならないのではないか。この演習でとりあげる輪読用のテキストは、わかりやすい叙述でありながら、その内容は、歴史研究における画期的な研究成果を反映しています。担当したテキストの要点をしっかりと盛り込んだレジュメを作成し、著者の主張を忠実に再構成して、他の人にわかるよう解説するよう心掛けてください。そのうえで、著者の見解に触発された「もやもや」を、鋭い疑問として提起しましょう。明治社会と比較しながら、私たちの生きる現代社会の生きづらさについて、深く考えましょう。		
教材	輪読用の共通テキスト：松沢裕作『生きづらい明治社会―不安と競争の時代』岩波書店、２０１８年（定価８００円）。その他、推薦する図書などについては、演習中に指示する。		

授業コード	E061070170	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩熊　典乃		
科目の主題	本演習では、大学で学ぶにあたって必要となる基本的スキルを身につけることを目的とする。 また、「大学で学ぶこと」の意味について、関連するテキストを読み、議論する中で、参加者各人が自分自身の立場を考え、深めていくことを目指す。		
授業の到達目標	・レポートや論文を執筆する上での基本的な決まり事を身に着け、定着させること。 ・自分の関心や問題意識を論理的に表現できるようになること。		
授業内容・授業計画	第１回＿ガイダンス、輪読・報告の割り当ての確認、輪読文献の指定 第２回＿レジュメ作成講習 第３回＿テキストの輪読① 第４回＿テキストの輪読② 第５回＿テキストの輪読③ 第６回＿テキストの輪読④ 第７回＿テキストの輪読⑤ 、小括 第８回＿資料探索講習 第９回＿レポート執筆講習 第１０回＿個人報告①：テーマと参考文献について 第１１回＿個人報告①：テーマと参考文献について 第１２回＿個人報告②：目次と概要 第１３回＿個人報告②：目次と概要 第１４回＿個人報告②：目次と概要		
事前・事後学習の内容	・第３回～第７回については、事前にテキストの指定箇所を読み、重要な箇所や分からない箇所、気になる箇所などに、線を引いたりコメントを入れておくこと。 ・第１０回～第１４回については、授業中に受けた指摘・コメントに基づき、各自加筆修正作業を進めておくこと。		
評価方法	報告内容、ディスカッションへの参加度、レポート内容をもとに総合的に評価する。		
受講生へのコメント	「おもしろい」「なんだか気になる、引っかかる」という感覚は、大学で学んでいく上での重要な出発点です。そのような感覚を頼りに、積極的に演習に参加してください。		
教材	テキストおよび参考書：　授業内で適宜指示する。 以下の文献から抜粋して輪読していくことを予定しているが、受講者の関心に応じて変更する場合もある。 ・M. ウェーバー『職業としての学問』岩波文庫 ・M. ハイデッガー「ドイツ的大学の自己主張」（M.ハイデッガー他著『３０年代の危機と哲学』平凡社ラ		

授業コード	E061070150	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩本　真一		
科目の主題	この科目の主題は、ミシンの聴き取り調査をもとに、個人史と経済史を結びつけていくことです。また、その結びつける過程で、今後学んでいく経済学の色んなテーマを知って下さい。第14回の授業を過ぎてから報告書を提出します。		
授業の到達目標	この科目の到達目標はリスニング能力とサーチング能力とトーキング能力を高めます。 （1）リスニング能力…ミシン所有者の話や科目担当者のコメントをきちんと聴けるようになりましょう。場合によってはメモしましょう。 （2）サーチング能力…ミシン所有者の記憶が飛んでいる場合や細部が思いだせない場合は、それを埋めるために所有者とともに記憶をたどっていきましょう。そのためにはトーキング能力をはじめ、質問能力や現地視察能力や文献・ネット調査力も必要です。また、科目担当者のコメントやアドバイスによっては、あなた自身で文献やインターネットで調べて、コメントやアドバイスの意味や意義を深めます。 （3）トーキング能力…（1）と（2）で得られた知識や流れについて、時間、ミシン所有者の人生段階、地		
授業内容・授業計画	授業は、（1）聞き取り調査の報告、（2）それに対するコメントやアドバイス、以上2点を繰り返します。随時（3）小テストを挟みます。 第1回_ガイダンス 第2回_聞き取り調査の報告（1） 第3回_ミシン所有者、現在の使用の有無や制作物 第4回_所有ミシンの製造会社 第5回_所有ミシンの機種 第6回_ミシン機種別の用途 第7回_小テスト（1） 第8回_聞き取り調査の報告（2） 第9回_ミシン購入の経緯第 第10回_ミシン技術習得の経緯や習得先への移動第 第11回_ミシン技術習得先の歴史（学校、工場、所有者の親戚など） 第12回_ミシン技術利用先の歴史（勤務先工場、教師としての裁縫教室など） 第13回_小テスト（2） 第14回_聞き取り調査の報告（3）		
事前・事後学習の内容	事前学習として聴き取り調査とその吟味を行ないます。 事後学習として担当者のコメントやアドバイスをてがかりに、再度聞き取りを行なったり、文献調査やインターネット調査をしたりして、以前の聴き取り調査を補足します。		
評価方法	平常点が50%、報告書を50%で評価します。 平常点は次の諸点を見ます。 ・チャイムが鳴ってから、学生同士の会話によって担当者の開始の挨拶や会話を遮らないかどうか ・寝ないか、私語しないか、等々		
受講生へのコメント	ミシンを持っている方や使われた方への聞き取りをつうじて、ミシンの購入とミシン技術の習得に関係する奥深い経済関係を知っていって下さい。 ミシンを購入するにはお金が必要です。お金の調達先・調達経緯には貯蓄・贈与・ローンなどの金融事項が関わります。また、購入する店舗にも、立地（経済地理学）、開店年（経済史）、開店資金（金融）、在庫台数（在庫管理）・売上台数（企業戦略）、系列メーカー（経済史・経済組織）といった様々な経済学の主		
教材	指定しません。参考文献は随時紹介します。		

授業コード	E061070160	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	西川　弘展		
科目の主題	これから大学での学修を開始される経済学部の新入生を対象にした入門的な演習を行います。 小規模のクラスで、それぞれの受講者が自ら調べ、学修し、考えた内容を発表し、討論を受け、自らの学修を点検し磨き上げてゆく授業を一般に演習と呼びます。こうしたスタイルをとる演習を通じて、借り物でない本当の力をつけることができるので、演習はとても重視されています。基礎演習は、これから本格的に学修を行うために必要な技術（文献を読むこと、その上で適切な問いを持つこと、必要な資料を引き出すこと、考えをまとめて発表用資料を作成すること、発表を行うこと、討論をすることなど）を実践的に学び、これからの学修を効果的に進めるための基礎的な力を養うことを主題としています。 こうした主題のもとで、英語と経済学の古典を重視した基礎的な文献を共通のテキストにして、演習を行いたいと思います。		
授業の到達目標	次の事項を経験し、その能力の習得をある程度自覚できることを到達目標とします。 ・経済学の著名な古典に触れることにより、経済学に独特な概念と考え方に習熟すること。 ・英語で書かれた文献を重点的に用いることで、これまで培ってきた英語の力を点検し、さらに磨きをかけること。 ・レジュメを作成し、発表をすること。 ・発表にもとづき、質疑応答や討論を行うこと。 ・説得的なレポートが作成できること。		
授業内容・授業計画	共通のテキストをもとに担当者を決めて報告し、討論するというスタイルを軸にします。また視聴覚教材を使うこともあります。共通のテキストはまず（１）初歩的な文献を用いて基礎的な学修を丁寧に行い、次に（２）実際の経済学の古典（ケインズの『説得評論集』のいくつかの論説、あるいは『平和の経済的帰結』の一部 ）に挑戦しながら、そこを起点に現代のグローバリゼーションについても考えてみたいと思います。 第１回　イントロダクション 第２回　スミスの『国富論』に触れる 第３回　リカードの『経済学および課税の原理』に触れる 第４回　J.S.ミルの『経済学原理』に触れる 第５回　限界革命期の文献に触れる 第６回　マーシャルの『経済学原理』に触れる 第７回　ケインズ革命の着想を胚胎する文献に触れる 第８回　ケインズ『一般理論』に触れる 第９回　レポートの作成要領 第１０回　ケインズと国際秩序（１）：第一次世界大戦 第１１回　ケインズと国際秩序（２）：戦間期 第１２回　ケインズと国際秩序（３）：第二次世界大戦 第１３回　ケインズと国際秩序（４）：戦後 第１４回　まとめとレポートの提出		
事前・事後学習の内容	共通のテキストの担当者を決めて発表を行ってもらいますが、これには事前の準備が必要です。 また発表者以外もテキストを事前に精読し、疑問点や自分の考えを整理してくることを求めます。 事後的には、不明な点について概説書などで調べるとともに、古典文献の現物を実際に手にとって確かめてください。		
評価方法	発表、討論への参加状況、修了レポートで評価します。		
受講生へのコメント	予習に基づいて、全員が必ず毎回発言をしてください。また、各自は、自らの発表や発言だけでなく、他者の発表と発言をしっかり受け止めるようにしてください。 担当者は、受講者全員が自由に発言し、活発に議論を行える環境が維持されるよう工夫しながら、毎回の基礎演習に臨むようにします。		
教材	教科書：根井雅弘『英語原典で読む経済学史』白水社、２０１８年。 （その他の必要な教材をこちらで準備します。参考文献については授業中に紹介します。）		

授業コード	E061080040	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	本イノベーティブ・ワークショップでは、日本ともかかわりの深い東南アジアを題材に取り上げる。「東南アジアと日本」を大きなテーマとして、東南アジアの経済、社会、文化との比較の観点から議論を進めていく。		
授業の到達目標	一つの大きなテーマの下で、課題を発見して、その課題を理解し、解決していく一連のプロセスを経験することで、問題発見能力やその解決能力を養いたい。また、プレゼンテーション能力の向上も本ワークショップの目標である。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_テキスト輪読（東南アジア経済）、ディスカッション 第３回_テキスト輪読（東南アジア社会）、ディスカッション 第４回_テキスト輪読（東南アジア文化）、ディスカッション 第５回_グループ毎のテーマ設定 第６回_グループワーク 第７回_グループワーク 第８回_グループワーク 第９回_中間報告 第10回_グループワーク 第11回_グループワーク 第12回_グループワーク 第13回_最終報告１ 第14回_最終報告２		
事前・事後学習の内容	グループワークを中心に授業を進めていきます。報告の準備と報告後はレポートを提出してもらいます。		
評価方法	授業への参加状況、報告、ディスカッション、レポートを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	授業への主体的かつ積極的な参加を期待します。		
教材	テキスト：ガイダンス時に受講者と相談の上、決定する。		

授業コード	E061080030	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	身近な社会問題を整理し，問題解決策を探る力を養う．また，問題解決策を探るツールとして基本的な統計分析を利用する力を身に付ける．		
授業の到達目標	（1）身近な社会問題を整理し，問題解決策を探る力を身に付ける． （2）問題解決策を探るツールとして基本的な統計分析を利用する力を身に付ける．		
授業内容・授業計画	（1）学生によるプレゼンテーションと討論 （2）教員による講義 （3）PCを用いた演習 を適宜組み合わせ，授業目標の到達を図る． 第１回_イントロダクション 第２回_R演習1 第３回_プレゼンテーションと討論（1） 第４回_R演習2 第５回_重回帰分析 第６回_ロジスティック回帰分析 第７回_プレゼンテーションと討論（2） 第８回_プレゼンテーションと討論（2） 第９回_調査票の作成と分析事例 第10回_主成分分析 第11回_因子分析 第12回_分析のまとめ方 第13回_プレゼンテーションと討論（3） 第14回_プレゼンテーションと討論（3）		
事前・事後学習の内容	事前の学習：プレゼンテーションの準備や宿題 事後の学習：討論で得られた意見のまとめや講義および演習の復習		
評価方法	プレゼンテーションの内容，討論や演習への取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	演習科目なので，積極的に参加・発言することが求められる．		
教材	テキスト：特に指定しない． 参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	E061080020	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	この授業の主題は、アクティブラーニングとグループワークにより、特定の課題について自ら調査し、解決策を提案することにあります。課題は「所得と雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」のいずれかです。デラサール大学で開講している開発経済論と連携して授業を行います。その目的は、あくまでもグローバルな視野で課題を捉え、解決策を提案することにあります。		
授業の到達目標	1）アクティブラーニングとグループワークにより適切な研究計画を立案し、実行できる。 2）与えられた課題について実態及びそれについての先行研究を調査できる。 3）討論を通して適切な解決策を提案できる。 4）論理的に構成されたプレゼンテーションを実施できる。		
授業内容・授業計画	4人からなるグループに分かれて、上記の課題の一つについて調査し、その解決策を提案します。授業では、各人で 割り当てた調査内容について報告しあい、それに基づいて次の週までに調査する内容を決めるという形で進めます。 フィリピンのデラサール大学と二回接続して報告会を行います。また、他のIWのクラスとも合同報告会をします。 第１回_ガイダンス 第２回_テーマ決定と調査 第３回_調査報告と次週までの研究計画 第４回_調査報告と次週までの研究計画 第５回_中間報告　（デラサール大学との１回目の接続授業　8:30am-10:10am に実施予定） 第６回_デラサール大学学生へのレポート作成 第７回_調査報告と次週までの研究計画 第８回_調査報告と次週までの研究計画 第９回_調査報告と次週までの研究計画 第10回_調査報告と次週までの研究計画 第11回_調査報告と次週までの研究計画 第12回_最終報告　（デラサール大学との２回目の接続授業　8:30am-10:10am に実施予定） 第13回_デラサール大学学生へのレポート作成 第14回_最終報告（日本語版）と質問の作成		
事前・事後学習の内容	毎回の授業中に計画し、分担した内容について、調査し、考察する。		
評価方法	授業中の相談や討論への参加、中間報告と最終報告の内容による。		
受講生へのコメント	英語が苦手な学生の受講を歓迎します。（もちろん、得意な学生も）。発表や討論などはグループで行いますので、怖がる必要はありません。受講生にはOCUメールで連絡を取りますので必ず読むようにして下さい。 デラサール大学との接続授業を行う際には１限目に授業を実施します。		
教材	テキスト：特になし 参考書：特になし		

授業コード	E061080010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	経済学に関するテキストの輪読を通じて経済学の専門的な知識を身に着けるだけでなく、オープンキャンパスの準備作業、実践を通じて高度なプレゼン能力を身に着ける。		
授業の到達目標	① 経済学と国際経済の主要なトピックについて知る。 ② レジュメの作成と論点の提起、論文の構成や注の網羅といった、専門課程の学部生として必要とされる能力を身につける。 ③オープンキャンパスの準備作業を通じて、社会人に要求される高度なプレゼン能力を身に着ける。		
授業内容・授業計画	前半に輪読を行い、後半はOKの準備作業を通じてプレゼンの能力を高める。就職活動を見越した、コミュニケーション能力や協調性の啓発も必要であろうから、発表は小グループ単位を基本とする。後半には、フィールドワークも実施する。 第１回_自己紹介と全体のイントロダクション、グループ分け、輪読の割り当て 第２回_オープンキャンパスの役割分担の決定 第３回_テキストの輪読(1) 第４回_テキストの輪読(2) 第５回_ＯＫの中間発表(1) 第６回_テキストの輪読(3) 第７回_OKの中間発表(2) 第８回_テキストの輪読(4) 第９回_OKの中間発表(3) 第10回_テキストの輪読(5) 第11回_OKの予行演習 第12回_フィールドワーク(1) 第13回_フィールドワーク(2) 第14回_OKの本番		
事前・事後学習の内容	毎回、テキストの予習が必要である。またOKの準備作業では少人数のグループでの取り組みとなるので、授業時間外も含めて、メンバーとの緊密な連携、共同作業を要する。		
評価方法	① 各回のプレゼンの内容と、クラス全体のディスカッションへの個々人の貢献度をみる。 ② OKへの参加意欲、貢献度を評価する。		
受講生へのコメント	本ワークショップの受講を通じて、高いコミュニケーション能力、プレゼン能力を身につけてもらいたい。		
教材	予定テキスト： 吉川洋『人口と日本経済』中公新書		

授業コード	E061080050	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷 昌史		
科目の主題	私達はマスコミを通じて政治経済のニュースに接する際、例えば、NHKと民放の違い、あるいは、朝日新聞と産経新聞の違い等には、注意するかもしれないが、各国がどのように報道しているかについては気に留めない。しかし、国によってニュース報道は異なり、各国政府の姿勢がニュース報道に反映される。仮に同じ事象を報じていても、報道内容は各国により異なること、そして、それは、なぜなのかを議論してみたい。		
授業の到達目標	政治経済に関わる同一の事象が、Financial Timesと『日本経済新聞』で、どのように違って報道されるかを比較し、その違いがなぜ生じるのかを考察する。Financial Timesは英国を代表する経済紙だが、所有者は日本経済新聞社である。本来、同じニュースならFinancial Timesと『日本経済新聞』で同じように報道されるはずだが、実際にはそうではない。それは、なぜかを考えてみたい。		
授業内容・授業計画	授業の内容は、『日本経済新聞』とFinancial Timesとの記事内容の比較である。英語教材を使うので、学生諸君に負担にならないよう、授業の日から一月以内に新聞に掲載された、日本に関する記事を比較する。授業の1週間前に翌週で扱う記事をコピーして配布する。記事の比較を通じて、問題点を明確にし、グループ別に調査を行い、調査結果を報告できるようにする。 第１回_オリエンテーション 第２回_日本の産業 第３回_日本の金融 第４回_日本の文化 第５回_日本の技術 第６回_日本の政治 第７回_文献・資料の調査の方法 第８回_グループ分けと問題設定 第９回_プレゼンテーションの方法 第10回_調査・分析 第11回_調査・分析 第12回_調査・分析 第13回_プレゼンテーションの練習 第14回_最終発表会		
事前・事後学習の内容	授業の前半では、教員の配布する資料を授業までに読んでくること。授業の後半では、学生諸君が問題を設定し、それを明らかにするための資料を収集し、プレゼンテーションに繋げる。		
評価方法	演習への積極的な参加の程度や研究発表の内容等を総合して評価します。		
受講生へのコメント	日本の同一のニュースでも、日本国内と外国では報道の仕方が異なります。外国人が日本をどのように捉えるかについて、新聞記事の比較を通じて学んでいきましょう。		
教材	テキスト：『日本経済新聞』とFinancial Timesの記事		

授業コード	E061080060	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩熊　典乃		
科目の主題	この演習では、近年、地球環境問題や資源問題、社会保障や地域政策、さらには経済システム全般をめぐって、キー概念としてしばしば取り上げられるようになっている「持続可能性（sustainability）」という概念に焦点をあてる。1987年「国連環境と開発に関する世界委員会（ブルントラント委員会）」報告の中で地球環境問題の解決をめぐる中心的な理念として掲げられて以降、人口に広く膾炙してきたこの概念ではあるが、「何の持続可能性か」という観点から考えれば、時として全く相入れないような無数の立場や解釈が存在し、その意味内容や定義は必ずしも自明的ではなくなっている。 　演習ではまず、この概念が提唱された背景や経緯、そしてこの概念を出発点としてどのような社会構想や議論が展開されてきたかを、テキストの輪読を通じて学ぶ。その上で、グループに分かれ、具体的な事例や社会的トピックに焦点をおき、この概念がどのように用いられ、それぞれどのようなことが目指されているかを調査・検討していく。		
授業の到達目標	１）　基礎演習で習得したアカデミック・スキルをさらに鍛え、定着させる。 ２）重要な概念の背後には、様々な立場・解釈のせめぎ合いがあることを理解する。 ３）批判的に考察し、言語化していく力を養う。		
授業内容・授業計画	まずはテキストの輪読を通じて、「持続可能性」の概念の内実、それが提起され影響力を持つようになった背景、個別具体的な問題領域でのこの概念の用いられ方を把握する（第１回～第６回）。その上でグループに分かれ、この概念が関わる問題領域の一つについて、調査と検討を進め、その成果を報告する（第７回～第１４回）。 第１回_ガイダンス 第２回_テキスト輪読① 第３回_テキスト輪読② 第４回_テキスト輪読③ 第５回_テキスト輪読④ 第６回_小括、各グループのテーマ設定 第７回_グループ・ワーク 第８回_中間発表① 第９回_グループ・ワーク 第10回_中間発表② 第11回_グループ・ワーク 第12回_グループ・ワーク 第13回_最終発表とディスカッション① 第14回_最終発表とディスカッション②		
事前・事後学習の内容	テキストの指定箇所をしっかり読んでくること。 グループ・ワークの際は、グループ全体での方針や各自の役割をその都度確認しあいながら課題に取り組むこと。		
評価方法	出席、資料作成、グループ・ワークや発表・ディスカッションへの貢献度から総合的に評価する。		
受講生へのコメント	グループ単位で一つの課題に取り組みます。役割分担が偏らないように互いに配慮しつつ、協力して毎回の作業を進めていきましょう。		
教材	テキストおよび参考書：　適宜、指定した資料を入手してもらうか、こちらで準備します。		

授業コード	E061080070	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	西川　弘展		
科目の主題	「所得・雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」など、共通の学修テーマのもとに編成されるグループ単位でのグループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を軸に、またイノベーティブ・ワークショップ（G）の別クラス（中島義裕先生のクラス）と密接に連携しつつ、演習を行います。さらに、フィリピンのデラサール大学の開発経済学の講座とのやりとりを行い、これにより演習の成果をさらに深めます。特にデラサール大学とのやりとりでは英語を用います。		
授業の到達目標	次の２点を主な目標としています。（１）共通の目標を持つ複数人でのグループ・ワーク（学修・調査・研究、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）について相当の経験を積むこと。（２）時には外国語を用いたグループ間でのやりとりの経験を積むこと。特に、グループ・ワークでは、文献調査も含む資料検索、資料の整理、問いの設定、発表内容の確定、プレゼンテーションが課せられますので、ここでの経験は、個人の作業・学修・研究においても役立つことになります。		
授業内容・授業計画	４名程度を１グループとして、それぞれのグループで「所得・雇用」、「人口」、「教育」、「健康」、「移民」のうちから主題を選択し、グループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を行います。デラサール大学の開発経済学の講座とのインターネット環境を通じた交流により、グループワークの成果をさらにバージョンアップさせて、最終的な成果に纏めます。 第１回_授業の説明、グループ分け、グループ・ワークの概要 第２回_大枠のテーマの決定と調査（情報の検索） 第３回_調査（前週の情報検索を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（１） 第４回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（２） 第５回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と中間報告の準備 第６回_中間報告会（デラサール大学との接続授業）８：３０～１０：００ 第７回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（３） 第８回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（４） 第９回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（５） 第10回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（６） 第11回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（７） 第12回_最終報告会（デラサール大学との接続授業）８：３０～１０：００ 第13回_調査報告の仕上げ 第14回_グループごとの最終報告書の提出		
事前・事後学習の内容	授業外でのグループ・ワークないしグループ内で役割分担された個人ワーク。		
評価方法	授業外でのワークを含む授業への参加状況と中間報告の内容、最終報告の内容、最終報告書の内容によって総合的に評価します。		
受講生へのコメント	時差のある海外の大学との接続授業を行うため、第６回（５月３１日（金曜日））と第１２回（７月１２日（金曜日））は、１時限目（８：３０に開始、１０：００に終了）に行うので注意してください。 机上の知識だけでなく、経験が重視される演習型の授業であり、将来につながる経験をして欲しいと思います。チーム・ワークならではの達成感が得られるよう積極的に参加して下さい。また中学生から現在まで続けて来た英語学習を振り返り、さらに発展させる良い機会ですので、尻込みせずに参加されることを望みます。		
教材	テキスト：適宜、指定した資料をインターネット等で入手してもらうか、こちらで準備します。 参考書：適宜、紹介します。		

授業コード	E061090010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩本　真一		
科目の主題	本科目の主題は、経済・文化の近代化を知ることです。題材はアパレル産業やファッション文化の展開です。		
授業の到達目標	授業の到達目標は、科目の主題をもとにして、どのような点から世界経済が限界に達しているかを理解することです。また経済発展の可能性が残されていると仮定した時に、解決困難な問題としてどのようなものが生じるのかを予測することです。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』 第３回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』（続き） 第４回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』 第５回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』（続き） 第６回_報告　利用文献類の紹介とテーマの紹介 第７回_報告　論文内容に関する説明と質疑応答 第８回_輪読　デヴィッド・ハーヴェイ『パリ-モダニティの首都-』 第９回_輪読　デヴィッド・ハーヴェイ『パリ-モダニティの首都-』（続き） 第10回_輪読　デヴィッド・ハーヴェイ『パリ-モダニティの首都-』（続き） 第11回_輪読　アン・ホランダー『性とスーツ-現代衣服が形づくられるまで-』 第12回_輪読　大丸弘「西欧型服装の形成」 第13回_輪読　大丸弘「西欧型服装の形成」（続き） 第14回_報告　論文内容の報告と提出		
事前・事後学習の内容	事前学習としてテキストを読み、1章あたりA4用紙1枚に箇条書きで要約します。事後学習として「科目の主題」に関わる図書を数冊選び、あなたの論文テーマに沿って抽出や要約などを行ないます。その作業を土台に、演習で学んだ内容や自分で調べた内容を加味して期末論文として提出します。		
評価方法	要約（50%）、論文内容・期末論文（合わせて50%）の配分で評価します。		
受講生へのコメント	素早く情報や知識に触れる能力と、立ち止まって情報や知識を消化する能力の二つを学びとって下さい。		
教材	テキスト：指定しません。 参考書：「授業内容・授業計画」に記したもの。他の文献は演習中に紹介します。		

授業コード	E061100010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	キャリア形成ゼミ		
英語科目授業名	Seminar for Career Searching		
科目ナンバー	EAEXJ4201		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	福原　宏幸		
科目の主題	本科目は、経済学部の人材育成目標である「プラクティカル・エコノミスト」、特に「実践的で複眼的な構想力」の育成をめざすものです。 社会人を講師としてお招きし、2 年次・3 年次を中心に10～20 名程度の少人数の双方向型授業をとおして、「プロの視点」からの課題の探求、調査、分析を行い、実践的な問題解決にチャレンジしていただきます。なお、今年度は「共生のまちづくりに向けた課題の解決と新たな挑戦」をテーマとします。		
授業の到達目標	大学内の学習からでは得られない、他者の多様な視点を総合して課題の解決策を見出す能力の養成をめざします。今年度は、社会的諸課題の解決にビジネスのを活用して実践的に活躍している非営利団体（NPO）・社会的企業を取り上げ、「社会的な実践の視点」を学び、多様な視点を総合して課題の解決策を見出す能力の養成をめざします。 今年度のテーマである「共生のまちづくり」は、日本政府とくに厚生労働省が政策課題として掲げるものであり、これについて全国で様々な実践が取り組まれています。そこには、高齢化社会の到来への地域での対応、子どもの貧困問題、生きづらさを抱えた若者たちの課題、生活環境の改善、地域経済の活性化など多様な課題があります。これらの課題解決の考え方、解決手法などを先行事例から学びつつ、学生たち自身の豊かな発想でもって、解決策を考えてもらいます。		
授業内容・授業計画	箕面市でコレクティブ・タウンづくりに取り組んでいるNPO法人暮らしづくりネットワーク北芝の坂東希さんたちをお招きし、講義・演習ならびに現地訪問調査を行います。 地域の具体的な事例にもとづき、課題の発見プロセス、支援の主体づくりとその手法、その成果に対する評価のあり方などを学びます。また、受講者には関心のある課題を設定してもらい、これの解決に向けた事業計画を作成してもらいます。 授業は、火曜の３時限目（14コマ）・４時限目（14コマ）のなかから、14コマの時間を使って実施します（授業の開催しない日もあります）。 第1回　講義：共生のまちづくり概論　（4月16日 3時限目） 第2回　講義：北芝のまちづくりⅠ　（4月23日 3時限目） 第3回　講義：北芝のまちづくりⅡ　（5月7日　3時限目） 第4・5回　北芝のフィールドワーク　（5月14日 3・4時限目） 第6・7回　他地域のフィールドワーク　（5月28日 3・4時限目） 第8・9回　ワークショップ：事業課題の発見Ⅰ・Ⅱ　（6月4日　3・4時限目） 第10回　ワークショップ：事業計画案づくりⅠ　（6月11日　3時限目） 第11・12回 ワークショップ：事業計画案づくりⅡ・Ⅲ　（6月25日 3・4時限目） 第13回　ワークショップ：プレゼンテーションの工夫（7月9日　3時限目） 第14回　プレゼンテーションとまとめ　（7月23日　3時限目）		
事前・事後学習の内容	毎回、次の授業に関するプリントを配布するので、それについてよく予習をすること。		
評価方法	成績の評価は、平常点、プレゼンテーション及びレポートによる。経済学部の担当教員が評価する。		
受講生へのコメント	＜講師の坂東希先生を紹介します＞ 大学卒業後、国際人権NGO反差別国際運動（IMADR）にて勤務した後、対人援助を学ぶために大学院へ進学。官民協働刑務所や児童自立支援施設など非行・犯罪心理領域における実践研究に携わる。2011～2016年までNPO法人暮らしづくりネットワーク北芝にて勤務し、パーソナルサポートサービス（内閣府）や生活困窮者自立支援事業（厚生労働省）など生活相談やまちづくりに従事（現在は理事）。2016～2018年は敬和学園大学（共生社会学科）専任講師。現在、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程在籍。		
教材	テキスト：特になし。 参考書：必要に応じて指示をする。		

後 期 開 講 科 目

授業コード	E010011010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	近代経済学（マクロ１）		
英語科目授業名	Macroeconomics 1		
科目ナンバー	EAB1J2101		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	はじめて経済学を学ぶ学生向けに、マクロ経済学の基礎的内容について講義します。		
授業の到達目標	マクロ経済学の基礎的内容を理解する。		
授業内容・授業計画	講義形式による。 第１回 ガイダンス 第２回 経済学の十大原理 第３回 経済学者らしく考える 第４回 相互依存と交易（貿易）からの利益 第５回 市場における需要と供給の作用 第６回 マクロ経済のデータ 第７回 生産と成長 第８回 貯蓄・投資と金融システム 第９回 失業 第10回 貨幣システム 第11回 貨幣量の成長とインフレーション 第12回 総需要と総供給① 第13回 総需要と総供給② 第14回 金融・財政政策が総需要に与える影響 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の内容を復習するために練習問題を4回ほど出題します。		
評価方法	期末試験の成績に基づいて評価します。		
受講生へのコメント	講義資料や連絡事項を担当教員のHP（https://sites.google.com/site/ryosukeokazawa/lecture）にアップするので、各自定期的に確認するようにしてください。		
教材	テキスト：N.グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅱマクロ編』東洋経済新報社		

授業コード	E010020010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	近代経済学（ミクロ１）		
英語科目授業名	Microeconomics 1		
科目ナンバー	EAB1J2102		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	ミクロ経済学の基礎を学習する。ミクロ経済学１では、特に消費の理論に焦点を当てる。		
授業の到達目標	消費の理論に関する基礎レベルの知識を習得する。		
授業内容・授業計画	テキストに従って講義を行う。授業ではパワーポイントによるスライドを使用する。 第１回_授業の進め方 第２回_ミクロ経済学の論理と方法（１）-経済学の定義- 第３回_ミクロ経済学の論理と方法（２）-市場経済の効率性- 第４回_市場機構と需要・供給（１）-均衡の安定性- 第５回_市場機構と需要・供給（２）-需要の価格弾力性- 第６回_市場機構と需要・供給（３）-供給の価格弾力性- 第７回_消費者と需要（１）-効用関数- 第８回_消費者と需要（２）-需要の決定- 第９回_消費者行動と需要曲線（１）-エンゲル曲線- 第10回_消費者行動と需要曲線（２）-需要曲線- 第11回_消費者行動と需要曲線（３）-ギッフェン財- 第12回_消費者需要理論の応用と拡張（１）-指数の比較と顕示選好理論- 第13回_消費者需要理論の応用と拡張（２）-消費者余剰- 第14回_消費者需要理論の応用と拡張（３）-余暇と労働- 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前の学習：テキストをよく読んでおくこと。 事後の学習：説明した内容について復習しておくこと。		
評価方法	期末試験によって評価する。持ち込みは不可。		
受講生へのコメント	消費の理論によって皆さんの日々の購買行動の一部が説明できるのではないかと思われます。		
教材	テキスト：西村和雄　『ミクロ経済学』（現代経済学入門）第3版、岩波書店、2011年。 参考書：特になし。		

授業コード	E010101010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	基礎・経済統計		
英語科目授業名	Elementary Economic Statistics		
科目ナンバー	EAB1J2105		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	数理統計学の基礎を学習する．経済理論の検証については，現在のところ統計学的推論に多くを依存している．従って，統計学は経済学理解に不可欠である．また，統計学を修得する際に使用する数学的操作は，保険理論，ファイナンス理論，ゲーム理論等を修得する際にも役に立つであろう．また，一般の社会生活においても世論調査，視聴率調査，選挙の出口調査など統計学利用の場は極めて広範，かつ，身近であるから，経済学を離れても，その理解は意味があろう．		
授業の到達目標	統計学の修得には，ふたつの側面があると考えられる．統計操作の方法の修得と操作の背景にある理論の修得である．本講義では後者に焦点をあてる．半期という時間的制約と，理論的背景を理解していないとただの暗記となり応用力が付かない点からである．		
授業内容・授業計画	教科書に沿って講義する．ただし，高校時代にすでに知っているとみられる事項は飛ばす．なお，授業には平方根を求めることができる電卓を持参してほしい． 第１回_ガイダンス 第２回_記述統計1（1　データの中心） 第３回_記述統計1（2　データの広がり、3　データの偏り） 第４回_記述統計1（4　さまざまな平均値） 第５回_記述統計1（5　度数分布とヒストグラム） 第６回_記述統計1（6　ローレンツ曲線とジニ係数） 第７回_記述統計2（1　物価指数） 第８回_記述統計2（2　数量指数、3 ラスパイレス・パーシェ指数） 第９回_記述統計2（4　経済指標） 第10回_記述統計2（5　2変数データの整理） 第11回_相関と回帰（1　散布図と相関係数） 第12回_相関と回帰（2　単回帰） 第13回_相関と回帰（3　回帰の適合度） 第14回_相関と回帰（4　回帰の諸問題） 定期試験		
事前・事後学習の内容	テキストによる予復習を行うこと．		
評価方法	定期試験による.ただし,客観的に本講義修了レベルの到達度が証明できる場合は,相応の成績で単位を与える.		
受講生へのコメント	統計学の面白さを伝えたい！		
教材	テキスト：森棟他（2015）『統計学（改訂版）　＜NLASシリーズ＞』		

授業コード	E010031010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	政治経済学Ⅰ		
英語科目授業名	Political Economy Ⅰ		
科目ナンバー	EAB1J2103		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	第二次世界大戦後の資本主義の先進国は、企業福祉と経済成長の黄金時代を迎えました。日本は、１９６０年代の高度成長時代を経験しました。しかしながら、東西冷戦が終結した１９９０年代以降から顕著になっているのは、勝利したはずの資本主義の仕組みと制度、およびそれが抱えてきた諸問題です。講義では、political economyの基礎概念や考え方を適宜解説しつつ、資本主義の歴史的発展を概観します。そして、現代にも通じる、資本主義の構造的な危機について考察します。その際に、スミス、マルクス、シュンペーター、ポランニー、ケインズといった経済学者たちが提示した、資本主義発展の経路、賃労働と剰余価値の生産、イギリス初の産業革命、イノベーションの恩恵とその意図せざる結果、「労働」「土地」「貨幣」という「擬制商品市場」（≠一般の財市場）、労働市場の特殊的性格（下方硬直性）、投資と投機の区別、人口問題などを基礎にした、社会経済システムの把握の重要性を確認します		
授業の到達目標	政治経済学の視点や歴史・理論・思想を踏まえて、資本主義という社会経済システムについて主体的に考察し解説できるようになることを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	テキスト、授業中に紹介する参考文献や時論的な記事、配布資料に基づいて講義する。 第１回_イントロダクション、ホットイシュー１物を買わない消費者=シンプル族　（皆さんは親世代と較べてどうですか） 第２回_テキスト１：資本主義の起源①　所有≠資本の世界から、所有→資本となる世界への転換 第３回_テキスト２：資本主義の起源②　生産過程に機械を導入する動機づけ≒高賃金（潜在的なコスト削減の余地と産業労働者予備軍の創出） 第４回_ホットイシュー２：イノベーション、商品価値の陳腐化、人工知能、近未来の雇用、ベーシックインカム論 第５回_テキスト３：資本主義≠市場、１９世紀前半における擬制商品市場（労働市場、土地市場、貨幣市場）の構築 第６回_テキスト４：　資本主義と国家の関係とその変遷（自由主義国家→福祉国家→債務国家） 第７回_ホットイシュー３：一億総中流社会の解体とアンダークラスの誕生 第８回_テキスト５　：資本主義と貨幣（金≠通貨≠ビットコイン）、利子の起源：債務、罪、支払、利子、資本 第９回-テキスト６：資本主義と投機 第10回_テキスト７：　資本主義はなぜ危機を繰り返すのか。1929年からの世界恐慌 第11回_ホットイシュー４：資本主義の秘訣（長時間労働とサラリーパーソンの給料基準＝「労働力商品」の社会的平均的な価値） 第12回_テキスト８：資本主義とイノベーション（従来「商品」の価値↓、生活水準↑、給与は？） 第13回_テキスト９：資本主義と新自由主義：1973年以降、2008年大後退、ユーロ危機以降 第14回_まとめ、ホットイシュー５　グローバリゼーション・パラドックス 期末試験		
事前・事後学習の内容	事前の学習：指定されたテキストを読むこと。テキストにはわからない箇所や重要な箇所に印やコメントをつけること。コミュニケーションカードにわからない点について質問を書いてくる、授業で強調した重要なキーワードや内容について要約するなど、指定された課題にこたえること。 事後の学習：説明した内容について復習しておくこと。文章で要点をまとめておくとよい。講義で説明されたことについて自分なりに理解し、他人に説明できるように心がけてください。新聞を定期的に読むようにし、授業（テキストやホットイシュー）に関連する内容を、スクラップしておくとよいでしょう。期末試験問題には、ホットイシューに関連する問題も出題します。		
評価方法	期末試験問題によって評価する。期末試験の問題は、授業中に実施する小テストの問題として開示する予定である。小テストの実施日は、授業中に告知する。		
受講生へのコメント	資本主義のうちで生活することに私たちは慣れきっていますが、資本主義という社会システムについて自覚的に考え、その歴史性を把握することで、資本主義の問題や矛盾について批判的に考察できるようになってもらいたいと思っています。授業でとりあげるテキストは世界的なベストセラーの一つで、難解だと思います。わからないことがあれば、遠慮なく聞いてください。鋭く疑問を提起する持力（＝質問力）を培うことも、この授業で身につけてほしい能力の一つです。		
教材	テキスト：ウルリケ・ヘルマン『資本の世界史-資本主義はなぜ危機に陥ってばかりいるのか』太田出版。 参考文献は、授業中に指示する。		

授業コード	E021111010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	応用マクロ経済学		
英語科目授業名	Applied Macroeconomics		
科目ナンバー	EAB2J3207		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森　誠		
科目の主題	マクロ経済学２に引き続いて、より詳しくマクロ経済学における経済政策の効果を分析する。 その際、主流派である新古典派の理論とケインズの理論との違いに注目する。		
授業の到達目標	IS=LM分析では価格が与えられた場合の経済政策の効果が分析される。この講義ではIS=LM分析を簡単に復習する。そして価格を内生化するAS=AD分析での経済政策の効果を検討する。関連する内容について資格試験での出題も多いので、それらの問題を学生諸君が解けるようになることを目標とします。		
授業内容・授業計画	通常の講義形式で授業を行う。また練習問題を解く。 初級のテキストではあまり説明されていませんが重要と思われる内容を適宜紹介します（労働分配率で説明される投資乗数、貿易黒字は悪か？投資と予想需要との関係等）。 第１回_ガイダンス 第２回_均衡予算定理と消費 第３回_完全雇用下での財政赤字は必然なのか？ 第４回_投資関数 第５回_実質利子率とは 第６回_IS曲線とLM曲線 第７回_IS=LM分析と経済政策 第８回_AD曲線の導出 第９回_AD曲線と経済政策の効果 第10回_AS曲線の導出 第11回_AS=AD分析と財政政策 第12回_AS=AD分析と金融政策 第13回_ケインズモデルと新古典派モデル 第14回_新古典派のAS=ADモデルと経済政策 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義前には前回の講義内容の確認が必要である。講義後は、講義内容を復習し課された練習問題を解いて理解を確認する。		
評価方法	定期試験を行う。場合によって小テストを行う。		
受講生へのコメント	よくわからない箇所や疑問点は質問するように。必要な内容は簡単に復習するので、マクロ経済学２を履修済である必要はない。		
教材	テキスト：なし 参考書：マクロ経済学１やマクロ経済学2での教科書（受講時のテキストでよい）、森　誠『長期にわたる最適化とケインズ経済学』、晃洋書房、2011年。		

授業コード	E021121010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	応用ミクロ経済学		
英語科目授業名	Applied Microeconomics		
科目ナンバー	EAB2J3208		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	ミクロ経済学１、２では、需要サイドの理論、供給サイドの理論及び市場均衡の理論を学んだ。応用ミクロ経済学では、これらの知識を前提にミクロ経済学の応用を学ぶ。		
授業の到達目標	ミクロ経済学１、２で学んだミクロ経済学の知識を基礎として、ミクロ経済学の応用力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	市場の失敗(外部効果、公共財)、情報の経済学、ゲーム理論、国際貿易のミクロ理論、動学分析を学ぶ。 第１回_市場機構の限界(１)(外部効果) 第２回_市場機構の限界(２)(公共財) 第３回_不確実性と情報(１)(不確実性) 第４回_不確実性と情報(２) (逆選択) 第５回_不確実性と情報(３) (道徳的危険) 第６回_ゲームの理論(１)(１回限りゲーム) 第７回_ゲームの理論(２)(繰り返しゲーム) 第８回_ゲームの理論(３)(混合戦略など) 第９回_国際貿易(１)(リカード･モデル) 第10回_国際貿易(２)(H&O・モデル) 第11回_国際貿易(３)(関税の効果) 第12回_動学理論(１)(フィッシャー･モデル) 第13回_動学理論(２)(最適動学理論) 第14回_動学理論(３)(カオス)		
事前・事後学習の内容	前回の授業内容を復習し、次回授業のテキストの該当箇所を読んでおくこと。		
評価方法	期末試験による。		
受講生へのコメント	微分を用いた計算ができることを前提に授業を行います。		
教材	テキスト：西村和雄著『ミクロ経済学(第３版)』(現代経済学入門)(岩波書店) 参考書：特になし。		

授業コード	E022550010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	日本経済史特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on Economic History of Japan		
科目ナンバー	EAE2J3253		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	本講義の目的は、経済史の研究がどのように行われているかを参加者に理解してもらうことである。貿易・都市・産業などのいくつかのテーマを取り上げ、関連する史料を解説する。テーマと史料の選択範囲は、日本・中国の近世・近代期（主に17世紀～19世紀）である。経済史関係の史料の解読と分析の練習を実施する。		
授業の到達目標	経済史研究の方法を理解すること、経済史関係の史料（本講義が扱うテーマの範囲内）が読めることを目標とする。		
授業内容・授業計画	主に5つのテーマについて講義を進めていく。①通商制度（とくに通商条約が成立する前の時代）、②港市の運営と商業空間、③商人団体の形成、④商業都市と市場圏、⑤産業振興と国産化。具体的な課題については、次の授業計画を参照。 第１回_イントロダクション 第２回_通商制度の分析（１）長崎会所の経営構造 第３回_通商制度の分析（２）「信牌」制のメカニズム 第４回_通商制度の分析（３）トレーディング・パス 第５回_通商制度の分析（４）取引契約 第６回_港市の運営（１）仲介業者 第７回_港市の運営（２）労働者とその編成 第８回_港市の商業空間-長崎・広州・釜山の比較- 第９回_商人団体の形成（１）糸割符仲間と五ヶ所商人 第10回_商人団体の形成（２）唐船貿易と「両局」 第11回_商業都市と市場圏（１）江戸時代の大坂 第12回_商業都市と市場圏（２）明清時代の蘇州 第13回_産業振興と国産化（１）生糸と織物産業 第14回_産業振興と国産化（２）磁器・砂糖・薬種 ＊授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
事前・事後学習の内容	授業前、次回講義のテーマに関する基礎知識を自ら調べて予習を行う。授業後、史料分析を中心とした小レポートを作成する。		
評価方法	授業中の練習問題（50%）と小レポート（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。 ※2018年度に『経済史上級講義』の単位を修得した者は履修不可		
教材	テキスト：とくに指定しない。 参考書：彭浩『近世日清通商関係史』（東京大学出版会、2015年）。ほかにも多数あり、授業中に指示する。		

授業コード	E022100010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	社会政策論		
英語科目授業名	Social Policy		
科目ナンバー	EAB2J3205		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	社会政策は，人々の労働＝生活過程に生じる問題への政策的対応である。日本の社会保障制度を中心に，労使関係にかかわる政策や労働条件にかかわる政策，国民の生活保障にかかわる政策の基礎知識を提供する。		
授業の到達目標	人々の労働＝生活過程に生じる問題への政策的対応について問題意識をもち，ある特定の課題について自分なりに考えを深めることができるようになる。		
授業内容・授業計画	１　ガイダンス ２　社会政策とは ３　社会保障とは ４　日本的雇用と日本的福祉 ５　雇用保険 ６　労災保険 ７　医療保険 ８　医療保険 ９　介護保険 １０　介護保険 １１　年金保険 １２　年金保険 １３　雇用と生活の今日的課題 １４　まとめ 授業計画は，進行状況等により変更することがある。		
事前・事後学習の内容	講義内で出す課題に取り組むとともに、配布資料の通読を通して予習復習をしてください。		
評価方法	小課題（３０%）、期末レポート（７０%）で評価します。		
受講生へのコメント	講義計画や評価方法など、ガイダンスで詳しく説明します。		
教材	配布資料を準備します。		

授業コード	E022530010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	社会思想史特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on History of Social Thought		
科目ナンバー	EAB2J3252		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	この講義では、シティズンシップの諸権利から区別される「人間の権利」に関するもろもろの哲学的な基礎づけの試みを検討する。		
授業の到達目標	物事を根本から考えてみる姿勢を養うとともに、「人権」という特定の主題に絞った思想の歴史を学んでもらう。		
授業内容・授業計画	ヨーロッパの思想史において人間の尊厳と権利は、「人格」の概念と密接に関連づけながら論じられてきた。「人格」という語の語源は、「仮面」を意味していたラテン語のpersonaにある。それは、生身の人間、あるいは単なる人間を道徳および法-権利の世界へと引き入れるためのカテゴリーとして機能してきた。私たちは、権利と尊厳の主体となるためには単なる人間にとどまり続けることはできず、「人格」という仮面をかぶらなければならないし、その仮面に描かれた人為的な顔を周囲の人びとからそれとして承認してもらわなければならなかった。 第1回　人格、人権、シティズンシップ 第2回　「人格」の概念の変遷 第3回　ホッブズの自然権論と人格論 第4回　カントにおける法と道徳 第5回　カントの人権論 第6回　カントの人格論と尊厳論 第7回　フィヒテの承認論と人権論 第8回　ヘーゲルの承認論における螺旋構造 第9回　ヘーゲルの人倫概念 第10回　フランス人権宣言を読む 第11回　世界人権宣言と「尊厳」 第12回　他者の権利：レヴィナス 第13回　人権は道徳か、法か？ 第14回　動物は「モノ」か、「人格」か？		
事前・事後学習の内容	講義中に言及する思想史の古典的テキストを自分で読んでみることを求める。		
評価方法	学期末試験の成績によって成績を評価する。		
受講生へのコメント	受講生には、講義ノートを丁寧にとることを求めたい。また、私の講義内容に対する受講生諸君の疑問と批判を歓迎する。		
教材	この講義では教科書を用いないが、以下の文献を参考書とする。 田上孝一編著『権利の哲学入門』社会評論社、2017年。 中村健吾「人権の思想史 断章」、『経済学雑誌』第112巻 別冊（後期）講義資料、2011年10月。 中村健吾編著『古典から読み解く社会思想史』ミネルヴァ書房、2009年（とくに第１章、第２章、第８章、第９章）。		

授業コード	E031010010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	経済原論ＩＡ		
英語科目授業名	Principles of Political Economy ＩA		
科目ナンバー	EAAPJ4201		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	われわれの生活する「資本主義社会」とはいったいどのような社会なのか？　なぜ生活をするための仕事で過労死するほどまでに働き、生きるために必要な生産と消費の活動が人類の存続を大きく脅かすほどに自然を破壊してしまうのだろうか？　こうした問いに答えようとしたのがカール・マルクスであった。本講義では、マルクスの『資本論』をてがかりに、「商品」「貨幣」といった日常にありふれたモノの分析から出発し、資本主義社会の全体像を再構築していく。		
授業の到達目標	「商品」の分析からはじめ、「価値」、「貨幣」、「資本」、「労働力」などの概念をもとにして、労働を基礎とした社会把握のための理論的視座を展開したい。「過労死」、「環境破壊」、「金融危機」といったグローバル化のもとで国際経済の競争が過熱化することから生じてくる問題について、その原因を検討する。そのうえで、マルクスの分析の今日的有効性や資本主義社会の将来的展望について議論してみたい。		
授業内容・授業計画	指定の教科書による解説をもとにしながら、パワーポイントによって授業を進めていく。授業の内容についての理解を深めるために、映像資料などを用いる場合もある。 第１回　イントロダクション 第２回　資本主義社会とはどのような社会か？ 第３回　労働と疎外 第４回　商品と価値 第５回　物神性 第６回　貨幣はなぜ必要なのか？ 第７回　資本はどのようにして価値増殖するのか？ 第８回　賃労働と搾取 第９回　労働日の延長と技術革新 第10回　資本主義とエコロジー危機 第11回　資本の再生産と蓄積 第12回　自由な労働が実現される社会のビジョン 第13回　利潤率の傾向的低下 第14回　利潤率の傾向的低下と金融化 第15回　定期試験		
事前・事後学習の内容	次回の範囲を授業ごとに指定するので、その部分をあらかじめ読んでおくこと。 その際にわからない言葉などがあれば、経済学辞典などで調べておく。		
評価方法	期末試験による。		
受講生へのコメント	人間は労働を通じて、自然とかかわることで生命を維持してきた。だが資本主義社会においては、その労働が貧富の格差を生み出し、また自然を破壊することで生命を脅かすよになっている。資本主義システムの仕組みについての理解を深めることで、将来これらの問題解決に向けて取り組む際の役に立てて欲しい。		
教材	テキストには、大谷禎之介『図解社会経済学』（桜井書店）を用いる。授業の内容をより深く理解したい場合には、ヨハン・モスト『資本論入門』（岩波書店、2009年）やミヒャエル・ハインリッヒ『資本論の新しい読み方』（堀之内出版、2015年）を参考書として薦める。		

授業コード	E038011010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	戦後経済史		
英語科目授業名	Postwar Economic History		
科目ナンバー	EAAPE4214		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	CHARLES　WEATHERS		
科目の主題	この授業では、戦後の経済史についてわかりやすい英語で講義を行います。教材として、適宜資料を配布します。講義を聴いて各自でノートを取る形で学習をして下さい。参加者は、授業に出席するだけでなく、十分な復習が必要です。		
授業の到達目標	こうした学習を積み重ねることで、参加者の英語リスニング能力の向上が可能になります。また同時に経済についての基本的な知識の習得もできるようになります。		
授業内容・授業計画	取り上げるテーマは、新自由主義（Neoliberalism)の登場についてです。イギリスのサッチャー首相、アメリカのレーガン大統領や中曽根康弘首相の政策などについて講義します。 第1回　Introduction 第2回　Postwar high economic growth 第3回　Britain's economic problems 第4回　Keynes and the welfare state 第5回　Rise of neoliberalism 第6回　Margaret Thatcher 第7回　Thatcher and privatization 第8回　Ronald Reagan 第9回　 Reagan and tax cutting 第10回　Yasuhiro Nakasone 第11回　Nakasone's reforms 第12回　Junichiro Koizumi 第13回　Koizumi's reforms 第14回　Course wrap		
事前・事後学習の内容	事前に配布された資料を読んでおいてください。		
評価方法	5回のミニ報告と期末試験の結果によって行います。 また、学生の授業中での積極的な参加（主に教員の質問に答える）が評価されます。		
受講生へのコメント	活発的な参加が必要です。		
教材	語彙のリストなど資料を配布します。		

授業コード	E031070010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	社会経済論		
英語科目授業名	Social Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4206		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	佐藤　光		
科目の主題	戦前の日本で活躍した吉野作造、石橋湛山、高橋是清などの自由主義者の言動と政治経済状況の分析を通して、彼らの強い反対にもかかわらず日本がなぜ日中戦争や太平洋戦争に向かって行ったのかを明らかにする。さらに、そこから今日の世界状況に対する教訓を導き出す。		
授業の到達目標	およそテキストの前半部に沿って講義するが、時事的諸問題などもとり上げたいので、講義内容が予定外の方向に発展していく場合がある。		
授業内容・授業計画	第１回_はじめに――なぜ戦前日本のリベラリズムを問題にするのか 第２回_戦前日本における「大衆」の登場 第３回_国際環境―ワシントン体制の成立と崩壊 第４回_政治的リーダーシップの問題 第５回_共産主義と国粋主義の運動 第６回_日本リベラルの政治的・哲学的課題 第７回_戦間期日本経済の可能性 第８回_高橋財政の成果 第９回_山積する諸問題①―財閥と寡占体制 第10回_山積する諸問題②―経済格差の拡大 第11回_山積する諸問題③―社会経済構造改革の問題 第12回_山積する諸問題④―外貨の制約と国際経済状況 第13回_ありうべき解決策 第14回_今日の世界への教訓 定期試験		
事前・事後学習の内容	テキストを講義の前と後によく読むこと。		
評価方法	期末試験による。		
受講生へのコメント	質問を歓迎する。		
教材	テキスト：佐藤光『日本リベラルの栄光と蹉跌――戦間期の軌跡』（仮題） 晃洋書房、近刊。 参考書：特になし		

授業コード	E032020010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	経済統計論		
英語科目授業名	Economic Statistics		
科目ナンバー	EAAPJ4209		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	経済学におけるデータ分析（特に、回帰分析）を理解し、自ら行えるようになる。		
授業の到達目標	確率的な考え方をまず理解します。そして、統計分析の例をもとに、分析の行い方や結果の解釈への理解を深めていきます。最終的には、自分で統計分析できるようになることが目標です。		
授業内容・授業計画	パワーポイントを使いながら、説明します。穴あきの資料を配るので、講義ではそれを埋めていきます。 第１回_Introduction（ガイダンス） 第２回_統計分析の例 第３回_統計的検定：平均の検定 第４回_平均の差の検定：説明 第５回_平均の差の検定：応用 第６回_回帰分析：Introduction 第７回_回帰分析：説明 第８回_回帰分析：応用 第９回_回帰分析：実践 第１０回_回帰分析：高度な応用 第１１回_統計分析の紹介 第１２回_統計分析：補足 第１３回_確率を使った経済分析：説明 第１４回_確率を使った経済分析：応用 定期試験		
事前・事後学習の内容	できるだけ基礎知識が無くても受講できるように工夫しますが、予習があるほうがはるかに理解は深まります。また、統計分析は実際に自分で行ってみることが重要です。		
評価方法	学期末試験で評価します。なお、統計分析によるレポートを任意で課しますが、レポート点は試験の点数にプラスします。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキストは無し。参考書は、講義中に紹介します。		

授業コード	E032040010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	計算機経済学		
英語科目授業名	Computational Economics		
科目ナンバー	EAAPE4212		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	経済現象の多くは、絶えず変化し続けます。コンピュータを利用することで変化し続ける様々な現象を観察し、理解することができるようになりました。この授業では、変化し続けるシステムの基礎となっているカオス力学系を中心に、経済現象と深く関わるフラクタルやベキ則分布、そして、その応用として現在研究が進んでいるネットワーク理論について解説します。		
授業の到達目標	カオス力学系、ネットワーク、フラクタルとベキ則分布のそれぞれについて、理解することを目標にします。		
授業内容・授業計画	この講義では11 月末までフィリピンの教室とインターネットで繋ぎ大阪市立大学とデラサール大学の両方の学生に向けた授業を行います。この間、基本的には英語で授業をします。しかし、この講義の目的は英語を学ぶことではありません。授業の配布資料などでは日本語での解説も含めますし、講義の途中でも日本語での補足や日本語での質問も受け付けるなど授業についていけるように工夫します。ワークシートにより「手を動かして理解する」ことに注力します。 第１回_イントロダクション 第２回_レギュラー・ネットワーク 第３回_スモールワールド・ネットワーク 第４回_スケールフリー・ネットワーク 第５回_ポピュレーションダイナミクス 第６回_フラクタル 第７回_フラクタル次元とベキ則分布 第８回_サンド・パイル・モデル 第９回_軌道と相肖像 第10回_複雑な軌道と相肖像 第11回_ロジスティックマップと相肖像 第12回_不動点に吸引される軌道 第13回_吸引不動点がないケース 第14回_分岐図とカオス		
事前・事後学習の内容	事前学習：授業で使用するパワーポイントとレポートを配布するので、それを予習すること 事後学習：授業中の解説を元にレポートを完成させ提出する。		
評価方法	毎回提出するレポートにより評価する。		
受講生へのコメント	時間割は二コマですが、授業は９０分です。（フィリピンと接続している間は13:45-15:15に授業を行います。		
教材	テキスト：特になし 参考書：Barabási, A. L. and Albert, R. (1999). Emergence of Scaling in Random Networks. Science, 286(5439): 509-512. Dorogovtsev, S. N., Mendes, J. F. F., and Samukhin, A. N. (2000). Structure of Growing Networks with Preferential Linking. Physical review letters, 85(21): 4633.		

授業コード	E033030010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	アジア経済史		
英語科目授業名	Economic History of Asia		
科目ナンバー	EAAPJ4213		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	本講義は、中国経済史を中心に、中国と周辺地域との経済的なつながりに意識しながら、時系列に沿って古代から現代に至るまでのアジア経済史を概観する。		
授業の到達目標	受講生が中国経済史の流れ、地域経済・世界経済一体化の史的動向、各時代の経済発展の特徴および重要な課題などを系統的に把握することを主な目標とする。		
授業内容・授業計画	時代ごとに重要な課題を取り上げる。貨幣制度、国家の経済政策、商品経済と市場圏の拡大、環境と経済との関係、地域経済・世界経済一体化の過程などに重点を置く。具体的には、次の授業計画を参照。なお、貨幣制度や市場圏の拡大などについては、各講に組み込む形で説明する。 第１回_イントロダクション 第２回_農業経済と自然環境 第３回_集権政治下の国家経済 第４回_シルクロード 第５回_宋代中国の商品経済 第６回_モンゴル帝国時代の東西貿易 第７回_朝貢と海禁 第８回_明清中国の「互市」制度 第９回_通商条約の時代 第10回_洋務運動と殖産興業 第11回_半植民地経済の拡大 第12回_社会主義的実践 第13回_改革開放とグローバル経済 第14回_総括 ＊授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
事前・事後学習の内容	参考書や参考資料を読んで予習する。授業中のメモと配布資料などを読んで復習を行う。		
評価方法	授業中の取り組み（30%）、期末試験の成績（70%）		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。		
教材	テキスト：とくに指定しない。 参考書：岡本隆司編『中国経済史』（名古屋大学出版会、2013年）		

授業コード	E035010010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	労働経済論		
英語科目授業名	Labour Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4221		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	福原　宏幸		
科目の主題	講義の主題は「日本の労働市場をめぐる諸問題と改革」である。この主題に関連して４つのテーマ、①「内部労働市場論と日本の企業」、②「非正規雇用と外部労働市場の拡大」、③「労働市場と社会的排除」、④「労働市場政策」を設けて、それぞれについて講義を行う。		
授業の到達目標	日本の労働市場の構造、特徴、課題について、３つの領域（正規雇用、非正規雇用、失業・社会的排除）から理解することをめざします。あわせて、これらの領域における諸課題に対して、政府が取り組んでいる政策を理解し、それを検討していきます。		
授業内容・授業計画	第１回_内部労働市場論と日本の企業①-内部労働市場論- 第２回_内部労働市場論と日本の企業②-メンバーシップ型雇用- 第３回_内部労働市場論と日本の企業③-内部労働市場の揺らぎ- 第４回_非正規雇用と外部労働市場の拡大①-労働市場構造モデルと外部労働市場- 第５回_非正規雇用と外部労働市場の拡大②-非正規雇用の日本的特徴は何か- 第６回_非正規雇用と外部労働市場の拡大③-改革：公正労働とジョブ型雇用という考え方- 第７回_労働市場と社会的排除①-失業と就職困難者の実態と課題- 第８回_労働市場と社会的排除②-失業保険と職業訓練- 第９回_労働市場と社会的排除③-就職困難者支援という課題- 第10回_働き方改革①-その全体像 第11回_働き方改革②-同一労働同一賃金政策の日本的特徴 第12回_ワーキングプア支援に求められるもの 第13回_就労困難層支援とは何か 第14回_まとめ-日本の労働政策の展望 定期試験		
事前・事後学習の内容	現代の日本の雇用問題を取り上げるので、日頃から新聞の関連記事に目を通すことを求める。とくに事後の復習をしっかりと行うことを求める。		
評価方法	レポートと期末試験で評価する。		
受講生へのコメント	労働市場における問題は、学生が社会に巣立つなかで直面することも多い。自分自身の働き方と社会経済の全体的な動向とが直接に結びついているのが、労働の世界だろう。その意味では、労働をみじかな課題として捉えてほしい。		
教材	テキストはないが、適宜指示する。 また、毎回講義資料を配布する。		

授業コード	E047300010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	流通経済論		
英語科目授業名	Lectures on Distribution Channels		
科目ナンバー	EAAPJ4225		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済論は、理論的分析を行う講義構成と歴史的分析を行う講義構成の２系列からなっています。本年度は主に理論的分析を行います。		
授業の到達目標	日本の流通システムについて、応用ミクロ経済学のツールを使って、理解できるようになること。		
授業内容・授業計画	通常の講義形式を予定しています。 第１回_流通と日本経済：産業構造の変化 第２回_流通と日本経済：雇用の変化 第３回_流通経済の構造 第４回_流通業のプレイヤーたち：小売 第５回_流通業のプレイヤーたち：卸売・物流 第６回_流通業のプレイヤーたち：メーカー 第７回_分業と競争のメカニズム：垂直的構造 第８回_分業と競争のメカニズム：外部性 第９回_分業と競争のメカニズム：契約メカニズム 第10回_都市構造のなかの流通：インフラ 第11回_都市構造のなかの流通：都市の変化と流通 第12回_国際化と流通 第13回_情報化と流通 第14回_残された課題 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前学習として、紹介された関連資料を読んできて下さい。事後学習として、講義ノートをもとによく復習をして下さい。		
評価方法	期末試験		
受講生へのコメント	実際の経済現象に興味を持って下さい。		
教材	テキスト：特になし 参考書：適宜、指示します。		

授業コード	E043110010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	国際経済学特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on International Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4281		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	本講義では国際経済学と開発経済学をベースに広くアジアの経済成長ついて論じていく。また、対象となるトピックスは貧困、農業，人口，金融，産業構造、海外直接投資など多岐にわたる。したがって、それぞれのトピックス毎に適宜その基礎知識を学んでいく。		
授業の到達目標	経済成長の過程を理解したうえで、今後の日本経済がアジアの中でどのようなプレゼンスを発揮できるのかを受講者それぞれが導き出せるようになることも本講義の目標の一つである。		
授業内容・授業計画	基本的には講義形式が中心であるが，テーマによっては討論を求める。なお，図表などを用いた解説をおこなうこともあるが，高度な数学的解説は用いないよう配慮する。 第１回_途上国の特徴 第２回_貧困とは何か？ 第３回_人口問題 第４回_農村開発 第５回_農業革命 第６回_工業化 第７回_工業発展 第８回_前半のまとめ 第９回_貿易と海外直接投資 第10回_通貨危機と為替制度 第11回_途上国におけるマクロ経済政策（金融政策） 第12回_途上国におけるマクロ経済政策（財政政策） 第13回_政治経済研究　インドネシアとミャンマー 第14回_途上国経済の今後 定期試験		
事前・事後学習の内容	ノートを再度まとめ，復習することが望ましい。		
評価方法	定期試験試験100%		
受講生へのコメント	講義の途中で、工業化や経済発展に対し納得できる時もあれば、そうでなく疑問を抱く場合もあるだろう。立ち止まって一緒に考える時間を持つことで、社会科学の楽しさに触れて欲しい。		
教材	テキストは使用しない。 参考文献 『開発経済学入門（第3版）』渡辺利夫、東洋経済新報社 『開発経済学入門』戸堂康之、新世社 『ストーリーで学ぶ開発経済学』黒崎 卓・栗田 匡相、有斐閣		

授業コード	E044025010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	地方財政論特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on Local Government Finance		
科目ナンバー	EAAPJ4268		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	本講義では、わが国における近年の地方分権改革について学ぶ。2000年代に入ってわが国では、権限および財源の双方において国から地方への移譲が進められてきた。地方分権の理念を目指した諸改革は、どのような内容であったのか。また、果たして狙いどおりの効果をもたらしてきたのか。これらの疑問に対して取り組んだ一書籍をもとに解説する。		
授業の到達目標	地方分権に関する諸改革の狙い、内容、効果について学ぶことを通じ、国と地方の行財政改革に関する知見を深めること、また、今後の地方分権改革に関する議論ができる力をつけることを本講義の到達目標とする。		
授業内容・授業計画	毎回、パワーポイントによる講義とし、その全データを小川の個人サイトに置いて、受講生に閲覧可能状態とするつもりである。 第１回　イントロダクション 第２回　地方分権改革の潮流 第３回　地方税改革の概要 第４回　三位一体改革の税源移譲と地域間税収格差 第５回　ふるさと納税制度の検証 第６回　地方交付税改革の概要 第７回　交付税改革の検証 第８回　交付税改革が夕張市に与えた影響について 第９回　国庫支出金改革の概要 第10回　国庫支出金の構造変化について-夕張市の事例 第11回　地方健全化法の概要 第12回　夕張市の財政再建 第13回　夕張市の財政再建と税収への影響 第14回　地方財政運営の持続可能性		
事前・事後学習の内容	次回に行うプリントを事前にHPにアップするので、それについてテキストを読みながらよく予習をすること。 事後的には、分からなかった点を明らかにし、積極的に講師に質問すること。		
評価方法	学期末の試験による。		
受講生へのコメント	私語や特別な理由のない遅刻や退出に対しては、厳正に対処する。 また、居眠りやスマホ操作に対しては、場合によっては退出を命じる。		
教材	テキスト：橋本恭之・鈴木善充・木村真・小川亮・吉田素教　共著（2017）『地方財政改革の検証』清文社 参考書：佐藤主光（2009）『地方財政論入門』新世社		

授業コード	E044050010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	交通経済論特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on Transport Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4276		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	松澤　俊雄		
科目の主題	経済循環における産業構造と産業連関（および産業連関表）についての理解を図るとともに、運輸産業を例にして企業行動と利用者行動による「供給」・「需要」が資源配分（社会厚生）上や、地域社会の活性化等にどのように関わるかをみてゆきたい。地域・都市交通の性質を理解し、整備・運営上の方策や方向性についても論求したい。		
授業の到達目標	①産業構造・産業連関表の基礎的知識について学ぶ。②交通を中心に公共政策の評価方法について学ぶ。③都市交通の「性質」について様々なデータから学習を行う。④運輸産業の構造を反映した整備・運営上の在り方（政策）についての思考力を養う。		
授業内容・授業計画	経済循環において各産業の生み出す生産物が他の産業に中間生産物として、また家計・政府などに最終需要としてどのように取引されるかを考える。つぎに運輸・交通産業を例としてその供給・需要構造をマクロ的に把握するとともに、企業・家計による需要について社会・経済的な要因分析を行う。また利用者獲得を巡る企業間・産業間競争について分析もおこなう。後半では地域・都市交通サービスを産業としてみるとともに、利用者からみた広い意味での公共財として、その整備・運営についての方向性を考えたい。第１回_経済主体と経済循環 第２回_産業構造と産業連関表[I] 第３回_産業構造と産業連関表[II]（産業連関分析） 第４回_運輸産業の需要構造[I] 第５回_運輸産業の需要構造[II] 第６回_運輸事業者間・運輸産業間の競争[I]（利用者費用とサービス生産費用） 第７回_運輸事業者間・運輸産業間の競争[II] 第８回_交通政策と便益の測定(Marshall Measure,CV,EV,C-B分析) 第９回_運輸事業における価格形成（MC,Ramsey,Peak-Load等）と評価 第10回_都市交通の性質と分析[I] 第11回_都市交通の性質と分析[II](自動車交通を含む) 第12回_都市の活性化と交通整備 第13回_都市交通の運賃設定 第14回_域内バス産業の規制改革 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義資料に事前に目を通すようにして下さい。またできれば復習もおこなって下さい。		
評価方法	期末試験を中心に評価する（学期の途中でレポート提出を求める予定。提出者は期末試験に加点考慮する）。		
受講生へのコメント	日頃から運輸・交通問題に関心をもってマスメディア等に接して下さい。 ※2018年度に『経済構造上級講義』の単位を修得した者は履修不可		
教材	テキスト：使用予定：別途指示する。講義資料を必要に応じて配布する（紙媒体・ネット上掲示資料） 参考書：国土交通省監修『交通経済統計要覧』（最新年版）(財)運輸政策研究機構発行；『国土交通白書』；ホームページでも、政策・統計等をダウンロード出来ます。 http://www.mlit.go.jp/		

授業コード	E047310010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	産業組織論		
英語科目授業名	Industrial Organization		
科目ナンバー	EAAPJ4229		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	産業組織に関わるミクロ経済学的分析に触れる。		
授業の到達目標	企業行動について、ミクロ経済学的（特に、ゲーム理論的）な視点を持てる様になる。また、数値例でそれを確かめられる様になる。		
授業内容・授業計画	講義形式で行う。 第1回　ガイダンス 第2回　完全競争 第3回　寡占：数量競争 第4回　寡占：価格競争 第5回　2～4回補論 第6回　価格差別 第7回　垂直的関係 第8回　製品差別化 第9回　6～8回補論 第10回　広告 第11回　ネットワーク外部性 第12回　研究開発 第13回　参入・退出 第14回　10～13回補論 定期試験		
事前・事後学習の内容	ガイダンス時に指示する。		
評価方法	期末試験によって行う。		
受講生へのコメント	講義用HP（10月開設予定）：http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/kitahara/io/2019io.htm （ただし、部局サーバの移行によりアドレスが変わる可能性あり。）		
教材	参考書：Belleflamme, P. and Peitz, M. (2015) Industrial Organization: Market and Strategies, 2nd ed., Cambridge University Press.（書籍HPにてスライド版無料ダウンロードサービスあり。）		

授業コード	E033040010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	経済開発論		
英語科目授業名	Development Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4233		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	世界各国に広く存在する発展途上国の経済発展を実現し、貧困状態にある多くの人々の暮らしを豊かにするための方法について考察します。		
授業の到達目標	開発経済学の諸問題をミクロ・マクロ経済学及び計量経済学のフレーム・ワークを使用して理解することが出来るようになること。		
授業内容・授業計画	第1回　経済発展の国際比較① 第2回　経済発展の国際比較② 第3回　経済発展の国際比較③ 第4回　近代経済成長と人口構造① 第5回　近代経済成長と人口構造② 第6回　近代経済成長と人口構造③ 第7回　人口理論と実質賃金の推移① 第8回　人口理論と実質賃金の推移② 第9回　人口理論と実質賃金の推移③ 第10回　農業発展① 第11回　農業発展② 第12回　農業発展③ 第13回　工業化① 第14回　工業化② 定期試験		
事前・事後学習の内容	提示された参考書及び文献によって、予習復習を行うのが望ましい。		
評価方法	定期試験		
受講生へのコメント	私語は厳に慎むこと		
教材	参考書及び文献については授業中に提示します。		

授業コード	E043050010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	アジア経済論特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on Asian Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4287		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	本講義では、ヒト、モノ、カネの移動をめぐる国際経済の15のトピックスについて、東アジア諸国（,日本、韓国、北朝鮮、台湾、中国など）を事例に報告し、諸問題についての解決方法について考えてみたい。		
授業の到達目標	国際経済に関する基礎知識を身につけ、東アジアが抱える諸問題について考える力を身につける。		
授業内容・授業計画	本講義では、以下のようなトピックスに関する先行研究を材料に講義を行い、テーマの課題を中心に受講生と議論を行う。 第1回　イントロダクション:講義の進め方 第2回　植民地近代化論:朝鮮・台湾における植民地開発の光と影 第3回　従属論:低開発の発展: 第4回　世界システムと不等価交換：中枢と周辺 第5回　後発性利益と後発性不利益:第四世代工業化をどう理解すべきか 第6回　新国際分業：新興工業国の挑戦 第7回　企業内国際分業：国際化する多国籍企業の製造拠点 第8回　計画経済と社会主義市場経済：毛沢東と鄧小平 第9回　開発独裁：権威主義体制下の開発 第10回　経済援助と経済制裁:北朝鮮とどう向き合うか 第11回　経済のグローバル化と通貨危機：通貨危機に対する韓国とマレーシアの対応 第12回　経済協力と自由貿易協定:韓国と米国のＦＴＡについて考える 第13回　経済ナショナリズムと保護主義：米国と中国の貿易戦争について考える 第14回　まとめ：世界経済はどこに向かうのか		
事前・事後学習の内容	学習するトピックスに関してテキストの部分を事前に学習し、理解していおくこと。また毎回、演習を出すので、次回までに解答を準備しておくこと。		
評価方法	コミュニケーションカードの提出による平常点と中間レポート、定期試験などを総合し採点する。		
受講生へのコメント	講義中の私語や居眠りは許さない。講義は教員と学生との相互関係で成立するのであり、学生の真摯な協力がなければ、良い講義は生まれない。熱意ある学生の受講を期待したい。 ※2018年度に『国際経済上級講義』の単位を修得した者は履修不可		
教材	朴一『20世紀アジアのポリティカルエコノミー』晃洋書房		

授業コード	E022635010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	経済政策論特殊講義２		
英語科目授業名	Special Lecture on Economic Policy 2		
科目ナンバー	EAAPJ3206		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森　誠		
科目の主題	国際貿易・物流の第一線で働く財務省関税局及び大阪税関職員が、複雑化・多様化する国際物流の現状を踏まえ、貿易の健全な発展と安全・安心な社会の実現に向けた我が国の関税政策・税関行政の取組み等について、関税制度の仕組みや密輸動向など最新の知識・情報を分かりやすく説明し、国際貿易・経済の未来を自らで「考える」きっかけとなるような講義を目指します。		
授業の到達目標	我が国の関税政策や税関行政の基礎的な知識を修得していただきます。		
授業内容・授業計画	大阪税関及び財務省関税局職員が交替で講義を行います。 ※講義計画は、財務省関税局及び大阪税関の人事異動やその他諸般の事情等により変更される場合がある。 第１回_イントロダクション（関税・税関を取り巻く環境） 第２回_関税とは何か（関税の役割） 第３回_関税をめぐる国際的な動向Ⅰ（GATT、WTO、貿易救済措置） 第４回_関税をめぐる国際的な動向Ⅱ（EPA/FTA交渉） 第５回_税関行政１（国際物流・経済活動の関所） 第６回_税関行政２（保税制度） 第７回_税関行政３（関税決定のプロセスⅠ（貨物の分類と適用税率）） 第８回_税関行政４（関税決定のプロセスⅡ（課税価格の決定と通関後の調査）） 第９回_税関行政５（覚醒剤・金等の密輸の水際取締最前線） 第10回_税関行政６（知的財産権保護や環境問題等への対応） 第11回_税関行政７（貿易の円滑化（国際物流のセキュリティ強化と貿易円滑化の両立）） 第12回_貿易統計（近畿圏の貿易動向・特色及び貿易統計の利活用） 第13回_関税分野の国際協力 第14回_大阪港及び関西国際空港を取り巻く現状 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義で説明したポイントを中心によく復習をしてください。		
評価方法	学期末の試験（90%）と講義後の感想カード（10%）による。 学期末の試験はマークシート方式にする予定。資料等の持ち込みは不可。		
受講生へのコメント	行政実務の経験を踏まえた講義を目指しますので、積極的な姿勢での受講を希望します。 経済学部に限らず、他学部の学生の履修も大歓迎です。		
教材	毎回の講義で参考資料を配布します。		

授業コード	E047110010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	経済史上級講義		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economic History		
科目ナンバー	EAAPJ5501		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	CHARLES　WEATHERS		
科目の主題	戦後時代から現在までの日本の雇用制度の発展を取り上げる予定です。政治経済的な変化と雇用制度の変化を総合的に捉えます。日本の雇用制度は２０世紀後半の経済的成功に対する重要な貢献を果たしたと考えられます。しかし、現在、北欧の雇用･福祉制度が最も高く評価され、日本の雇用･福祉制度はグローバリゼーションなどの世界経済の変容に対する調整が遅れている、という意見が広がってきました。　本講義では、幅広く国の政治経済の政策作成、労働組合運動の動きや女性の社会進出に注目します。また、北欧の例を比較参考にし、洞察を深めます。授業の重要な目的は雇用制度を通じて、政治経済の理解の深化と比較分析能力の向上を図ることです。		
授業の到達目標	日本の雇用制度・労働問題及び政治経済の発展を政治経済的に理解してもらうことです。		
授業内容・授業計画	毎回、資料に基づいて講義します。また、学生に資料についてのミニ報告を提出してもらいます。少人数であれば、ある程度のディスカッションを行う可能性もあります。 第1回　イントロダクション 第2回　戦後経済発展と高度成長 第3回　 戦後直後の労使関係 第4回　戦後の労働運動 第5回　春闘・賃金制度 第6回　新自由主義の誕生・発展 第7回　 非正規労働 第8回　均等法と女性労働問題 第9回　コミュニティユニオン及び労働NPO 第10回　外国人労働問題 第11回　21世紀の労働市場 第12回　アメリカモデルと雇用制度 第13回　アメリカ雇用と社会運動 第14回　ドイツの労働改革 期末試験		
事前・事後学習の内容	毎週、資料についてのミニ報告を提出してもらいます。		
評価方法	毎週の資料に基づくミニ報告、小試験および期末試験を評価します。		
受講生へのコメント	戦後の日本の政治経済及び労働問題を勉強しましょう。		
教材	書籍はまだ決定されていません。 論文などの資料を配布します。		

授業コード	E047100010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	経済政策上級講義		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economic Policy		
科目ナンバー	EAAPJ5502		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	わが国の人口は減少に転じ、少子・高齢化はいよいよ社会の大問題になっている。少子化への対応は、わが国のみならず先進諸国共通の課題である。本講義では、少子・高齢化に関する様々な問題について、経済的側面から多角的に議論を行う。特に、少子・高齢化を踏まえた経済政策のあり方について検討を行う。		
授業の到達目標	日本経済の少子・高齢化に関連する論点を理解し、今後の経済政策のあり方について考える力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_少子・高齢化-現状 第３回_少子・高齢化-要因 第４回_少子・高齢化-国際比較 第５回_市場メカニズムと政府の介入 第６回_経済政策の役割 第７回_公共財 第８回_少子化対策 第９回_少子・高齢化と雇用政策 第10回_少子・高齢化と所得格差 第11回_少子・高齢化と年金 第12回_少子・高齢化と医療 第13回_少子・高齢化と介護等 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	関連文献を読み、授業で扱うテーマの理解を深めること		
評価方法	レポート（30%）、期末試験（70%）によって評価する。		
受講生へのコメント	講義は学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学を修得していることを前提に進めます。		
教材	テキストは特になし。		

授業コード	E047120010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	経済構造上級講義		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economic Structure		
科目ナンバー	EAAPJ5503		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	坂上　茂樹		
科目の主題	蒸気機関車用給水加熱装置の技術史 　標記について蒸気動力プラント全般における諸対応物のそれとの比較において概観する。		
授業の到達目標	占有スペース･重量に係わる制約の下で技術がいかに進化し，あるいはしないか……代替されるべき技術における改良への取組みが如何様であったか，それがどのように評価されるべきか，といった点について検証する。		
授業内容・授業計画	１．　蒸気動力プラントにおける給水加熱装置　(1) ２．　〃　(2) ３．　〃　(3) ４．蒸気機関車びおける給水加熱装置　大恐慌以前(1) ５．　〃　〃　(2) ６．　〃　両大戦間期　(1) ７．　〃　〃　(2) ８．　〃　〃　(3) ９．大恐慌以前の鉄道省における輸入技術の試用と開発　(1) 10.　〃　(2) 11.　〃　(3) 12.　〃　(4) 13. 戦後における機関車用給水加熱装置　(1) 14.　〃　(2) 講義はテキスト記述の背景事情説明に力を入れつつ進める。		
事前・事後学習の内容	講義資料をよく読むように。		
評価方法	期末試験による。		
受講生へのコメント	日頃から機械技術に関心をもってほしい。試験前にテキストを慌てて読んでも理解不能なコト必定。		
教材	拙稿「蒸気機関車用給水加熱装置の技術史」 目下，執筆中。 10月には本学リポジトリ登載予定。 タダで読めます。		

授業コード	E041100010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	ミクロ経済学上級講義２		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Microeconomics 2		
科目ナンバー	EAAPJ5506		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里		
科目の主題	ゲーム理論について学ぶとともに、実際の社会においてゲーム理論が戦略的相互作用を分析するのにどのように役に立つのかについて考察する。		
授業の到達目標	戦略や均衡などの概念を理解した上で、宿題を通して実際にモデルの均衡を求めることができるようになる。		
授業内容・授業計画	講義は予告なく変更されることがある。 第１回_はじめに 第２回_ナッシュ均衡① 第３回_ナッシュ均衡② 第４回_混合戦略① 第５回_混合戦略② 第６回_部分ゲーム完全均衡① 第７回_部分ゲーム完全均衡② 第８回_交渉 第９回_繰り返しゲーム① 第10回_繰り返しゲーム② 第11回_完全ベイジアン均衡 第12回_シグナリング 第13回_モラル・ハザード 第14回_逆淘汰 定期試験		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を読んで、予習・復習をすること。宿題を提出することは義務ではないが、強く推奨する。		
評価方法	期末試験　100% ただし、宿題の出来が良かった場合、考慮にいれることがある。		
受講生へのコメント	・授業中に私語をするなど他の学生に対して迷惑行為を行う者は、失格にする。 ・人の解答を写した宿題を提出しないこと。 ・宿題の問題は、英語である場合がある。		
教材	【教科書】 Martin J. Osborne. 2004. An Introduction to Game Theory. Oxford University Press. 【参考書】 ・岡田章. 2014年. 『ゲーム理論・入門 新版--人間社会の理解のために』　有斐閣アルマ.		

授業コード	E041120010	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	計量経済学上級講義２		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Econometrics 2		
科目ナンバー	EAAPJ5508		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	鹿野　繁樹		
科目の主題	計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。		
授業の到達目標	この講義は、計量経済学の標準的な分析ツールの理論と利用法を習得することを目標とする。		
授業内容・授業計画	まず、回帰係数の線形制約の検定を解説する。 次いで、古典的仮定よりもより一般的な仮定のもとでの回帰分析を考える。 そこでは、内生性バイアスとその対処法としての操作変数法が主題となる。 最後に二値反応変数の回帰分析として、プロビットを学ぶ。 第１回_回帰モデルのF 検定（1）：基礎編 第２回_回帰モデルのF 検定（2）：応用編 第３回_漸近理論の基礎 第４回_確率的説明変数（1）：条件付き期待値関数 第５回_確率的説明変数（2）：根源的仮定とOLS 第６回_分散の不均一性と仮説検定（1）：OLSの分散と分布 第７回_分散の不均一性と仮説検定（2）：WLS 第８回_内生性バイアスと操作変数法（1）：内生性バイアスとは？ 第９回_内生性バイアスと操作変数法（2）：IVと2SLS 第10回_内生性バイアスと操作変数法（3）：応用編 第11回_因果関係を立証できるか？ 第12回_最尤法（1）：基礎編 第13回_最尤法（2）：プロビット 第14回_最尤法（3）：トービット 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。 テキスト章末の復習問題を解くこと。		
評価方法	毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。		
受講生へのコメント	計量経済学上級講義１とセットの科目です。前期に計量経済学上級講義１を受講して下さい。		
教材	鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。		

授業コード	E061080170	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	基礎演習と専門演習の橋渡しとなる科目です。国際経済の最新のトピックを含む、今日的なテーマを題材に、グループワークから個別報告へというステップを順次踏んで学びを深めます。		
授業の到達目標	① 今日の経済学と国際経済の主要なトピックについての知識を得る。 ② レジュメ（まとめのプリント）の作成法と論点の提起の仕方、論文の構成や注の網羅といった、専門課程の学部生として必要な能力を実地に身につける。		
授業内容・授業計画	期間の前半はグループで順番に報告する形で読みやすいテキストの輪読を行い、後半は前半の学習を元に各自で深めた内容について発表してもらいます。前半では就職活動を見越して、グループワークを通じてコミュニケーション能力や協調性を養う一方、後半では、専門演習への接続を意識して個別報告について懇切に指導します。 　なお以下の授業計画は、下記の現時点での予定テキストの構成に基づいたものですから、開講時までにより新しいテキストが出版された場合には、変更する場合があります。 第１回_自己紹介と全体のガイダンス、グループ分け、輪読の割り当て 第２回_テキストの輪読(1) トランプ政権とアメリカ経済 第３回_テキストの輪読(2) 先進国と新興国 第４回_テキストの輪読(3) 自由とグローバル経済 第５回_テキストの輪読(4) 経済予測が当たらない理由 第６回_テキストの輪読(5) エコノミスト信頼回復の鍵 第７回_テキストの輪読(6) ピケティ論争 第８回_テキストの輪読(7) 心理学と行動経済学 第９回_テキストの輪読(8) 注目のナッジ理論とは 第10回_テキストの輪読(9) 中国のICTサービス規制とその限界 第11回_個別報告(1) 第12回_個別報告(2) 第13回_個別報告(3) 第14回_個別報告(4)		
事前・事後学習の内容	皆でテキストを読む前半は毎回、テキストの予習が必要になります。また前半では少人数のグループでの取り組みとなるので、授業時間外も含めて、メンバーとの緊密な連携、共同作業が必要です。このプロセスを通じて新しい仲間と親しくなり、友達を増やしてください。 　各自でテーマを設定して個別に研究を進める後半では、さらに主体的な取り組みが必要になるでしょう。		
評価方法	① 各回のグループ報告の内容と、クラス全体のディスカッションへの個々人の貢献度をみます。 ② 後半の個別報告では、レジュメを用いずにフルペーパーを配布して発表してもらい、論文として必要な条件を満たせているかどうかに加えて、内容の深みや完成度をみます。 　①を50%、②を50%として評価します。		
受講生へのコメント	本ワークショップの受講を通じて、次年度から始まる専門演習への備えとしてください。		
教材	テキスト：ニューズウィーク編『経済超入門 ゼロからわかる経済学&世界経済の未来』（CCCメディアハウス, 2017年） 本書は2017年12月刊行の、本ワークショップのテーマに関わる最新の入門書ですが、開講日までにより新しい新書等が出版された場合には、そちらに変更する場合があります。		

授業コード	E061080110	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	私の担当するイノベーティブ・ワークショップでは、電気・ガス・水道・電話・鉄道・バスなど、いわゆる公共サービスに関するさまざまな問題を取り扱います。皆さんは利用者の立場からのさまざまな疑問や要望についてグループワークを通して自分なりの答えを導き出してください。		
授業の到達目標	グループワークを通して情報収集や分析能力、プレゼンテーション能力が身につくことが到達目標である。		
授業内容・授業計画	演習形式です。 第１回_ガイダンス・グループ分け 第２回_テーマ設定 第３回_文献・資料収集（１） 第４回_文献・資料収集（２） 第５回_文献・資料収集（３） 第６回_文献・資料収集（４） 第７回_中間報告（１） 第８回_中間報告（２） 第９回_中間報告（３） 第10回_レポート作成指導（１） 第11回_レポート作成指導（２） 第12回_レポート作成指導（３） 第13回_レポート報告（１） 第14回_レポート報告（２）		
事前・事後学習の内容	事前の学習：自らの担当部分をきちんと仕上げる。 事後の学習：コメントに従って修正する。		
評価方法	ディスカッションへの参加状況およびレポート課題で評価する。		
受講生へのコメント	イノベーティブワークショップは、自ら設定した分析テーマについて、数人のグループで情報収集、分析、レポート作成、プレゼンテーションを行う科目です。最初から一人ですべて行うことは誰でも大変ですので、まずは教員のサポートのもと、グループでやってみましょう。		
教材	テキスト：特になし。 参考書：特になし。		

授業コード	E061080180	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷 昌史		
科目の主題	外国に行って仕事をする時に必要なのは、外国語であるのは当然だが、日本の文化と歴史を説明できることも同様に重要になる。その際、日本人の視点で、日本の文化や歴史を説明できると共に、外国人の視点からも説明できることが求められる。この演習では、過去から現在までの長期にわたり、日本の文化とは何なのか、を考えてみたい。		
授業の到達目標	外国人の視点から日本の文化を捉えることができるようになり、なぜ外国人が日本の文化の特定の側面を評価するのかを説明できるようにすること。		
授業内容・授業計画	日本文化を外国人の視点から叙述した文献を取り上げるとともに、日本の世界的商品を取り上げ、その商品が日本文化とどのように結びついているかを検討する。最終的には、学生諸君が外国人の視点から、日本文化の一事例（具体的な商品でも良い）を取り上げ、なぜそれが外国で評価されるのか、あるいは、よく購入されるのかを分析してもらいたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_松岡正剛『日本流』 第３回_なぜMUJI（無印商品）は世界で売れるのか？ 第４回_鈴木大拙『禅と日本文化』 第５回_なぜウオッシュレットは世界初なのか？ 第６回_岡倉天心『茶の本』 第７回_なぜ葛飾北斎の浮世絵は、欧米に影響を及ぼしたのか（ジャポニズム）？ 第８回_ルイス・フロイス『ヨーロッパ文化と日本文化』 第９回_なぜ世界の携帯電話の部品は日本製なのか？ 第10回_グループ分けと問題設定 第11回_調査・分析 第12回_調査・分析 第13回_調査・分析 第14回_最終発表会		
事前・事後学習の内容	授業で配布する資料を読んできてください。また、外国人が日本文化のどのような側面に関心を持つか常に注意するようにしてください。		
評価方法	授業での積極的な参加の程度や研究発表の内容等を総合して評価します。		
受講生へのコメント	日本人が当然と考えている日本の文化が、外国人にとっては素晴らしいと受け取られることも多々あります。カップラーメンも日本初なので、日本の文化的商品と考えられます。		
教材	テキスト：鈴木大拙『禅と日本文化』（岩波新書）；岡倉天心『茶の本』（岩波文庫）；ルイス・フロイス『ヨーロッパ文化と日本文化』（岩波文庫） 参考書：前田育男『デザインが日本を変える-日本人の美意識を取り戻す』光文社新書、2018年.		

授業コード	E061080100	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	近年、出生率のさらなる低下は緩和されたものの、依然として人口規模を維持することが可能なレベルからみれば遥かに低く、少子高齢化は日本経済、社会、暮らしに様々な影響を与えている。本演習では、「少子高齢化」を大テーマとして、学生の皆さんが日常で感じる少子高齢化に起因する問題を一つ取り上げ、その問題について深く掘り下げて考えていきたい。		
授業の到達目標	少子高齢化に起因する課題を探し、分析し、解決策を見出したうえで、それらをプレゼンテーションする力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	１グループ４名程度のグループ分けを行い、調査・分析はグループごとに行う。まず問題の所在を明らかにし、その問題を解明するために文献講読、資料収集、ヒアリング調査、データ解析等を行い、それらを最終発表会にて発表する。 第１回_ガイダンス 第２回_課題設定 第３回_課題設定 第４回_調査・分析計画 第５回_中間報告（調査・分析計画に関して） 第６回_調査・分析 第７回_調査・分析 第８回_調査・分析 第９回_中間報告（内容に関して） 第10回_調査・分析 第11回_調査・分析 第12回_調査・分析 第13回_プレゼンテーションの練習 第14回_最終発表会		
事前・事後学習の内容	グループで行う調査・分析に関連する文献等を読む。		
評価方法	報告内容、演習中の発言、期末の最終発表で評価する。		
受講生へのコメント	身近な社会の問題に目を向けてください。		
教材	テキストは特になし。		

授業コード	E061080090	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	身近な社会問題を整理し，問題解決策を探る力を養う．また，問題解決策を探るツールとして基本的な統計分析を利用する力を身に付ける．		
授業の到達目標	（1）身近な社会問題を整理し，問題解決策を探る力を身に付ける． （2）問題解決策を探るツールとして基本的な統計分析を利用する力を身に付ける．		
授業内容・授業計画	（1）学生によるプレゼンテーションと討論 （2）教員による講義 （3）PCを用いた演習 を適宜組み合わせ，授業目標の到達を図る． 第１回_イントロダクション 第２回_R演習1 第３回_プレゼンテーションと討論（1） 第４回_R演習2 第５回_重回帰分析 第６回_ロジスティック回帰分析 第７回_プレゼンテーションと討論（2） 第８回_プレゼンテーションと討論（2） 第９回_調査票の作成と分析事例 第10回_主成分分析 第11回_因子分析 第12回_分析のまとめ方 第13回_プレゼンテーションと討論（3） 第14回_プレゼンテーションと討論（3）		
事前・事後学習の内容	事前の学習：プレゼンテーションの準備や宿題 事後の学習：討論で得られた意見のまとめや講義および演習の復習		
評価方法	プレゼンテーションの内容，討論や演習への取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	演習科目なので，積極的に参加・発言することが求められる．		
教材	テキスト：特に指定しない． 参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	E061080150	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	この授業の主題は、アクティブラーニングとグループワークにより、特定の課題について自ら調査し、解決策を提案することにあります。課題は「所得と雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」のいずれかです。デラサール大学で開講している開発経済論と連携して授業を行います。その目的は、あくまでもグローバルな視野で課題を捉え、解決策を提案することにあります。		
授業の到達目標	1）アクティブラーニングとグループワークにより適切な研究計画を立案し、実行できる。 2）与えられた課題について実態及びそれについての先行研究を調査できる。 3）討論を通して適切な解決策を提案できる。 4）論理的に構成されたプレゼンテーションを実施できる。		
授業内容・授業計画	4人からなるグループに分かれて、上記の課題の一つについて調査し、その解決策を提案します。授業では、各人で割り当てた調査内容について報告しあい、それに基づいて次の週までに調査する内容を決めるという形で進めます。フィリピンのデラサール大学及びアメリカのアンドリュース大学と二回接続して報告会を行います。また、他のIWのクラスとも合同報告会をします。 第１回_ガイダンス 第２回_デラサール大学、アンドリュース大学との１回目の接続授業　8:30am-10:10am に実施予定 第３回_デラサール大学学生、アンドリュース大学へのレポート作成 第４回_調査報告と次週までの研究計画 第５回_調査報告と次週までの研究計画 第６回_調査報告と次週までの研究計画 第７回_中間報告　デラサール大学、アンドリュース大学との２回目の接続授業　8:30am-10:10am に実施予定 第８回_デラサール大学学生、アンドリュース大学へのレポート作成 第９回_調査報告と次週までの研究計画 第10回_調査報告と次週までの研究計画 第11回_調査報告と次週までの研究計画 第12回_調査報告と次週までの研究計画 第13回_調査報告と次週までの研究計画 第14回_最終報告（日本語版）他のクラスとの合同発表会、質問の作成		
事前・事後学習の内容	毎回の授業中に計画し、分担した内容について、調査し、考察する。		
評価方法	授業中の相談や討論への参加、中間報告と最終報告の内容による。		
受講生へのコメント	英語が苦手な学生の受講を歓迎します。（もちろん、得意な学生も）。発表や討論などはグループで行いますので、怖がる必要はありません。受講生にはOCUメールで連絡を取りますので必ず読むようにして下さい。 デラサール大学やアンドリュース大学との接続授業を行う際には１限目に授業を実施します。		
教材	テキスト：特になし 参考書：特になし		

授業コード	E061080120	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	各人の問題意識に従って、研究内容を決定し、レポートを作成する。さらに作成したレポートを発表する。		
授業の到達目標	経済学に関連する内容を調査、研究し、最終的にレポートを作成する。作成したレポートに基づく、プレゼンテーションを行う。		
授業内容・授業計画	第１回_オリエンテーション 第２回_研究内容の報告① 第３回_研究内容の報告② 第４回_研究内容の報告③ 第５回_各人の課題設定① 第６回_各人の課題設定② 第７回_各人の課題設定③ 第８回_レポート執筆の方法① 第９回_レポート執筆の方法② 第10回_レポート執筆の方法③ 第11回_研究内容の概要① 第12回_研究内容の概要② 第13回_プレゼンテーション① 第14回_プレゼンテーション②		
事前・事後学習の内容	各人が経済学に関連するテーマを設定し、レポートを作成すること。レポートの内容についてのプレゼンテーションを行うこと。		
評価方法	レポートとプレゼンテーションの内容		
受講生へのコメント	読み、書き、発表する能力を積極的に高めて下さい。		
教材	特になし		

授業コード	E061080080	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩熊　典乃		
科目の主題	この演習では、近年、地球環境問題や資源問題、社会保障や地域政策、さらには経済システム全般をめぐって、キー概念としてしばしば取り上げられるようになっている「持続可能性（sustainability）」という概念に焦点をあてる。1987年「国連環境と開発に関する世界委員会（ブルントラント委員会）」報告の中で地球環境問題の解決をめぐる中心的な理念として掲げられて以降、人口に広く膾炙してきたこの概念ではあるが、「何の持続可能性か」という観点から考えれば、時として全く相入れないような無数の立場や解釈が存在し、その意味内容や定義は必ずしも自明的ではなくなっている。 　演習ではまず、この概念が提唱された背景や経緯、そしてこの概念を出発点としてどのような社会構想や議論が展開されてきたかを、テキストの輪読を通じて学ぶ。その上で、グループに分かれ、具体的な事例や社会的トピックに焦点をおき、この概念がどのように用いられ、それぞれどのようなことが目指されているかを調査・検討していく。		
授業の到達目標	１）　基礎演習で習得したアカデミック・スキルをさらに鍛え、定着させる。 ２）重要な概念の背後には、様々な立場・解釈のせめぎ合いがあることを理解する。 ３）批判的に考察し、言語化していく力を養う。		
授業内容・授業計画	まずはテキストの輪読を通じて、「持続可能性」の概念の内実、それが提起され影響力を持つようになった背景、個別具体的な問題領域でのこの概念の用いられ方を把握する（第１回～第６回）。その上でグループに分かれ、この概念が関わる問題領域の一つについて、調査と検討を進め、その成果を報告する（第７回～第１４回）。 第１回_ガイダンス 第２回_テキスト輪読① 第３回_テキスト輪読② 第４回_テキスト輪読③ 第５回_テキスト輪読④ 第６回_小括、各グループのテーマ設定 第７回_グループ・ワーク 第８回_中間発表① 第９回_グループ・ワーク 第10回_中間発表② 第11回_グループ・ワーク 第12回_グループ・ワーク 第13回_最終発表とディスカッション① 第14回_最終発表とディスカッション②		
事前・事後学習の内容	テキストの指定箇所をしっかり読んでくること。 グループ・ワークの際は、グループ全体での方針や各自の役割をその都度確認しあいながら課題に取り組むこと。		
評価方法	出席、資料作成、グループ・ワークや発表・ディスカッションへの貢献度から総合的に評価する。		
受講生へのコメント	グループ単位で一つの課題に取り組みます。役割分担が偏らないよう互いに配慮しつつ、協力して毎回の作業を進めていきましょう。		
教材	テキストおよび参考書：　適宜、指定した資料を入手してもらうか、こちらで準備します。		

授業コード	E061080130	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩本　真一		
科目の主題	本科目の主題は、女性向けファッション雑誌の宣伝文やエッセイなどを言語学と経済学から分析することです。その上で、アパレル産業やファッション文化の過去と現状から世界経済の限界を理解することです。		
授業の到達目標	宣伝文とエッセイは同じ雑誌に収録されていても性質の違うものだということを理解します（似ている点もありますが）。このうち宣伝文（リード文）は後者よりも日本語そのものの意味が薄く、写真と一緒に理解されることを強く求めていますから、この点を確認しながらリード文の水準を見極めて読めるようになりましょう（リード文批評）。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス、リード文批評の実例 第２回_「エル・ジャポン」2006年4月号の分析 第３回_英語版「ELLE」February, 2006、中国語版「ELLE 世界時装之苑」2006年4月号との比較 第４回_ファッション雑誌の分析（2010年代） 第５回_ファッション雑誌の分析（2000年代） 第６回_ファッション雑誌の分析（1990年代） 第７回_ファッション雑誌の分析（1980年代） 第８回_ファッション雑誌の分析（1970年代） 第９回_ファッション雑誌の分析（1960年代） 第10回_ファッション雑誌の分析（1950年代） 第11回_ファッション雑誌の分析（1940年代） 第12回_ファッション雑誌の分析（1930年代） 第13回_ファッション雑誌の分析（1920年代） 第14回_報告書の紹介と提出		
事前・事後学習の内容	事前学習として、担当者の提示した宣伝文（リード文）を読み、分からない語句は全て調べて、感想を書く（1まとまりのリード文につき400字）。 事後学習として、担当者の提示した別の宣伝文（リード文）を読み、分からない語句は全て調べて、感想を書く（1まとまりのリード文につき400字）。 上述の「感想」は履修が進むにつれ「批評」に変わっていきます（批評できるように担当者が指導していきます）。		
評価方法	平常点（50%）、報告書（50%）で評価します。平常点は、事前・事後学習の内容を中心に判断します。場合によっては授業態度も考慮することがあります（「受講生へのコメント」をご参照ください）。		
受講生へのコメント	事後学習と事前学習で毎週800字を書くのは大変ですが、自身の調査や担当者の説明を聞いていくにつれ、800字執筆は楽な課題だということが分かってきます。 平常点は次の諸点を見ます。 ・チャイムが鳴ってから、学生同士の会話によって担当者の開始の挨拶や会話を遮らないかどうか ・寝ないか、私語しないか、等々 ・他人の報告や、それに対する担当者のコメントやアドバイスをも、しっかりと聴いているか・メモしているか ・この科目をつうじて当初の「感想」文が「批評」文にどのように変化したか		
教材	テキスト：指定しません。 参考書：指定しません。 ウェブサイト：モードの世紀（https://www.mode21.com/）		

授業コード	E061080140	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	西川　弘展		
科目の主題	＜木曜4限クラス＞ グループ・ワークと英語を通じて経済学を実践的に学びます。そのために、まず英文の経済学の入門書を共通テキストにして輪読を行い、これを踏まえて、所得と生産、格差と貧困、労働問題、グローバル化、政府の役割などテーマを決めてグループワークを行います。		
授業の到達目標	次の２点を主な到達目標としています。 （１）英文で書かれた短い本で経済学を学び、経済学の見通しが大まかに得られたと自覚できること。 （２）その上で、グループワーク（調査、話し合い、成果の取りまとめ、発表、質疑応答）を経験し、この経験を生かしてより効果的に学習を進めるスキルを身に付けること。		
授業内容・授業計画	4～3名を１グループとしてグループ・ワークを行います。的に履修者全員が分担で執筆する「ワークショップ・レポート」ないしこれに相当する課題を完成させることにします。 第１回_イントロダクション 第２回_共通テキスト第１章 第３回_共通テキスト第２章 第４回_共通テキスト第３章 第５回_共通テキスト第５章 第６回_グループ・ワークを進めるために、広い意味での論理的思考も活用しよう、リサーチ・テーマの概要、グループ分け 第７回_グループ・ワーク（１） 第８回_グループ・ワーク（２） 第９回_グループ・ワーク（３） 第１０回_中間報告会の準備 第１１回_中間報告会 第１２回_最終報告に向けて（１） 第１３回_最終報告に向けて（２） 第１４回_最終報告会 「ワーク・ショップレポート」の最終提出		
事前・事後学習の内容	１）共通テキストを事前に精読してくること。 ２）授業外でのグループ・ワークないしグループ内で役割分担された個人単位の調査・学修（時にメンバーと連絡を取りながら、時間を確保して進めてください）。		
評価方法	授業外でのワークを含む授業への参加状況と中間報告の内容、最終報告の内容、「ワーク・ショップレポート」の内容によって総合的に評価します。		
受講生へのコメント	知的好奇心と学修意欲を継続させて参加してほしいと思います。（担当者は、モチベーションを持続させられるような工夫をしながら授業に臨みます。） 簡単に解答が出ないような問題を設定し、対話や議論を通じて問題を解決に向かわせ、また課題を完成させることで確かな力を身につけてほしいと思います。 英文も含めてできるだけ多くの資料にあたってください。		
教材	テキスト：Ha-Joon Chang, Economics: the User's Guide, Pelican, 2014.		

授業コード	E061080160	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	西川　弘展		
科目の主題	＜金曜4限クラス＞ 「所得・雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」など、共通の学修テーマのもとに編成されるグループ単位でのグループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を軸に、またイノベーティブ・ワークショップ（G）の別クラス（中島義裕先生のクラス）と密接に連携しつつ、演習を行います。さらに、大阪市立大学、アメリカ・シカゴのアンドリューズ大学、そしてフィリピンのデラサール大学の３大学で同時にやりとりを行い、これにより演習の成果をさらに深めます。特にアンドリューズ大学、デラサール大学とのやりとりでは英語を用います。		
授業の到達目標	次の２点を主な目標としています。（１）共通の目標を持つ複数人でのグループ・ワーク（学修・調査・研究、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）について相当の経験を積むこと。（２）時には外国語を用いたグループ間でのやりとりの経験を積むこと。特に、グループ・ワークでは、文献調査も含む資料検索、資料の整理、問いの設定、発表内容の確定、プレゼンテーションが課せられますので、ここでの経験は、個人の作業・学修・研究においても役立つことになります。		
授業内容・授業計画	４名程度を１グループとして、それぞれのグループで「所得・雇用」、「人口」、「教育」、「健康」、「移民」のうちから主題を選択し、グループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を行います。デラサール大学の開発経済学の講座とのインターネット環境を通じた交流により、グループワークの成果をさらにバージョンアップさせて、最終的な成果に纏めます。 第１回_授業の説明、グループ分け、グループ・ワークの概要 第２回_１度目の接続授業（８：３０～１０：００）／アンドリューズ大学とデラサール大学の発表を聞き、質問・コメントを行う 第３回_調査（前週の情報検索を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（１） 第４回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（２） 第５回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（３） 第６回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（４） 第７回_２度目の接続授業（８：３０～１０：００）／大阪市立大学、アンドリューズ大学、 デラサール大学の３大学で発表と質疑応答を行う 第８回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（５） 第９回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（６） 第10回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（７） 第11回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（８） 第12回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と最終報告の準備 第13回_最終報告会と質問 第14回_質問へのリプライとまとめ、グループごとの最終報告書の提出		
事前・事後学習の内容	授業外でのグループ・ワークないしグループ内で役割分担された個人単位の調査・学修。		
評価方法	授業外でのワークを含む授業への参加状況と中間報告の内容、最終報告の内容、最終報告書の内容によって総合的に評価します。		
受講生へのコメント	時差のある海外の大学との接続授業を行うため、第２回（１０月２日（金曜日））と第７回（１１月２２日（金曜日））には、１時限目（時間帯は８：３０～１０：００）に授業を実施しますので、注意してください。 机上の知識だけでなく、経験が重視される演習型の授業であり、将来につながる経験をして欲しいと思います。チーム・ワークならではの達成感が得られるよう積極的に参加して下さい。また中学生から現在まで続けて来た英語学習を振り返り、さらに発展させる良い機会ですので、尻込みせずに参加されることを望みます。		
教材	テキスト：適宜、指定した資料をインターネット等で入手してもらうか、こちらで準備します。 参考書：適宜、紹介します。		

授業コード	E061090050	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	本論文演習の授業では、アジアの社会や経済を対象に論文を作成することを主な目的とする。		
授業の到達目標	論文の基本的な書き方を理解し、関心のあるテーマについて7000字程度の論文を作成する。		
授業内容・授業計画	論文演習の前半は、テーマの設定、関連する文献の調査、研究方法論について指導を行う。後半では、各自で論文の作成に取りかかり、報告・討論などを通して論文に仕上げていきたい。 第１回_ガイダンス 第２回_論文テーマの選択、論文の書き方 第３回_関連する論文の報告、ディスカッション① 第４回_関連する論文の報告、ディスカッション② 第５回_関連する論文の報告、ディスカッション③ 第６回_先行研究調査① 第７回_先行研究調査② 第８回_中間報告 第９回_論文作成指導① 第10回_論文作成指導② 第11回_論文作成指導③ 第12回_論文作成指導④ 第13回_論文報告 第14回_論文提出		
事前・事後学習の内容	前半は、次回の授業で用いる文献を読んでおくこと。授業後は、授業中に紹介した文献を読み、理解を深めてもらいたい。後半は、論文の作成のために時間を確保すること。		
評価方法	授業への参加状況、報告、ディスカッション、作成した論文を総合的に評価する。		
受講生へのコメント	授業への主体的かつ積極的な参加を期待します。		
教材	テキスト：特になし 参考書：適宜、指示する。		

授業コード	E061090030	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	坂上　茂樹		
科目の主題	産業技術史に係わる論文を読んで批判的総括を行うこと。		
授業の到達目標	独自の視点を以て対象論文を批判的に読み、自説を簡潔明瞭にまとめること。		
授業内容・授業計画	対象論文の選定は各自に委ねる。 第１回_ガイダンス 第２回_対象論文選定　１） 第３回_対象論文選定　２） 第４回_対象論文選定　３） 第５回_個別報告とそれに対する講評　１） 第６回_個別報告とそれに対する講評　２） 第７回_個別報告とそれに対する講評　３） 第８回_個別報告とそれに対する講評　４） 第９回_個別報告とそれに対する講評　５） 第10回_個別報告とそれに対する講評　６） 第11回_個別報告とそれに対する講評　７） 第12回_個別報告とそれに対する講評　８） 第13回_個別報告とそれに対する講評　９） 第14回_個別報告とそれに対する講評　10）		
事前・事後学習の内容	指定論文の読み込み、関連論文の渉猟を要す。		
評価方法	論文の出来栄えによる。		
受講生へのコメント	主体的に取り組んでほしい。		
教材	テキスト：適宜、関連分野の重要論文を指定する。拙稿なら100本以上，リポジトリでタダで読める。 参考書：関連分野の重要図書を指示する。		

授業コード	E061090040	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	経済学に関する論文を作成する。		
授業の到達目標	現実の金融・経済問題に関してディスカッションしながら考える力を身に付ける。また、経済学の 論文を作成する技術を学ぶ。		
授業内容・授業計画	現実の金融・経済問題に関してディスカッションしながら、論文作成の技術を学ぶ。 第１回_ガイダンス 第２回_論文の書き方(1) 第３回_論文の書き方(2) 第４回_論文の書き方(3) 第５回_金融・経済問題(1) 第６回_金融・経済問題(2) 第７回_金融・経済問題(3) 第８回_金融・経済問題(4) 第９回_修了論文経過報告 第10回_金融・経済問題(5) 第11回_金融・経済問題(6) 第12回_修了論文の発表(1) 第13回_修了論文の発表(2) 第14回_修了論文相談		
事前・事後学習の内容	前回の授業内容を復習しておくこと。 次回の授業の準備をしておくこと。		
評価方法	受講態度、発言状況、修了論文等によって総合的に評価します。		
受講生へのコメント	新聞の経済記事を読む習慣を身に付けてください。		
教材	テキスト：使用しない 参考書：特になし。		

授業コード	E061090060	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	福原　宏幸		
科目の主題	この論文演習の授業では、日本の社会的問題や生活・労働に関わる問題を対象に、論文を作成することを主な目的としています。		
授業の到達目標	論文の基本的な書き方を理解し、関心のあるテーマについて、7000字程度の論文を作成します。		
授業内容・授業計画	はじめの2回の授業では、テーマの設定、関連する文献の調査、研究方法などについて指導します。その後の3回の授業では、各自のテーマに関連する論文・著書の報告とディスカッションを行います。 後半は、いよいよ論文作成にかかりますが、まずは先行研究の収集と調査を行い、その後は論文作成とそれに対する指導を行います。 第１回_ガイダンス 第２回_論文テーマの選択、論文の書き方 第３回_関連する論文の報告、ディスカション① 第４回_関連する論文の報告、ディスカション② 第５回_関連する論文の報告、ディスカション③ 第６回_先行研究の収集と調査① 第７回_先行研究の収集と調査② 第８回_中間報告 第９回_論文作成指導① 第10回_論文作成指導② 第11回_論文作成指導③ 第12回_論文作成指導④ 第13回_論文報告① 第14回_論文報告②		
事前・事後学習の内容	事前に、論文のテーマ設定に関連して、関心のある出来事やテーマについての新聞記事や雑誌論文などに目を通しておくことが望ましい。 それぞれの授業のあとは、授業中に指示をした文献や資料をしっかりと読み、まとめをしておくことが望ましい。 授業期間の後半は、論文執筆のための時間をしっかり確保しておくこと。		
評価方法	授業への出席状況、報告とディスカッション、作成した論文を総合的に評価します。		
受講生へのコメント	授業に主体的かつ積極的に参加してくれることを期待します。 日頃から、関心のあるテーマについて、新聞記事や雑誌論文などを読むように心がけてください。		
教材	テキスト：特になし。 参考書：特になし。 授業中、必要に応じて資料を配布する。		

授業コード	E061090070	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩熊　典乃		
科目の主題	この演習の目的は、卒業論文の執筆を見据えつつ、論文作成の手順や基本的ルールを体験的に学ぶことである。各段階ごとの課題に取り組みながら、自分自身の問題意識に基づいて文献を読解し、論理的な文章を書くためのトレーニングを行う。 　なお、論文テーマの設定にあたって、本演習では共通課題として「経済（学）と自然」というテーマを掲げる。経済システムにとって自然とは何か。従来の経済思想の中で自然はどのようにとらえられ、位置付けられてきたか。経済学は環境危機をどのように受け止め、主題化しているか。 　演習ではまず、テキストの輪読とディスカッションを通じて、こうした大きなテーマについて考えていくための見取り図をつかむ。その上で、各自自らの関心に基づいて、より具体的な問題設定を行い、論文作成を実践していく。		
授業の到達目標	自分自身の関心に基づいてテーマを設定し、7000字以上の論文を完成させること。		
授業内容・授業計画	第１回＿ガイダンスと自己紹介 第２回＿テキスト輪読 第３回＿テキスト輪読 第４回＿テキスト輪読 第５回＿テキスト輪読　＋　小括 第６回＿「論文」とは？ 第７回＿論文のテーマの確定　＋　先行研究調査 第８回＿先行研究調査 第９回＿中間報告①：論文のテーマと先行研究の概要について 第１０回＿中間報告①：同上 第１１回＿論文構想の作成について 第１２回＿中間報告②：論文の目次と概要について 第１３回＿中間報告②：同上 第１４回＿最終稿完成に向けた個別相談		
事前・事後学習の内容	何度も個別報告をしていただきます。その都度講評を行い、次回までの検討課題を指示します。 演習外の時間を十分に確保し、自主的かつ計画的に課題に取り組んでください。		
評価方法	出席、毎回の課題への取り組みや報告内容、ディスカッションへの貢献度、論文の完成度などから総合的に評価する。		
受講生へのコメント	自然や環境をめぐる問題に限らず、哲学や社会思想、経済学史などに興味のある方の受講を歓迎します。		
教材	テキストおよび参考書：　授業内で適宜指示します。		

授業コード	E061090020	開講年度・学期	2019年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩本　真一		
科目の主題	本科目の主題は、経済・文化の近代化を知ることです。題材はアパレル産業やファッション文化の展開です。		
授業の到達目標	授業の到達目標は、科目の主題をもとにして、どのような点から世界経済が限界に達しているかを理解することです。また経済発展の可能性が残されていると仮定した時に、解決困難な問題としてどのようなものが生じるのかを予測することです。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』 第３回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』（続き） 第４回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』 第５回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』（続き） 第６回_報告　利用文献類の紹介とテーマの紹介 第７回_報告　論文内容に関する説明と質疑応答 第８回_輪読　デヴィッド・ハーヴェイ『パリ-モダニティの首都-』 第９回_輪読　デヴィッド・ハーヴェイ『パリ-モダニティの首都-』（続き） 第10回_輪読　デヴィッド・ハーヴェイ『パリ-モダニティの首都-』（続き） 第11回_輪読　アン・ホランダー『性とスーツ-現代衣服が形づくられるまで-』 第12回_輪読　大丸弘「西欧型服装の形成」 第13回_輪読　大丸弘「西欧型服装の形成」（続き） 第14回_報告　論文内容の報告と提出		
事前・事後学習の内容	事前学習としてテキストを読み、1章あたりA4用紙1枚に箇条書きで要約します。事後学習として「科目の主題」に関わる図書を数冊選び、あなたの論文テーマに沿って抽出や要約などを行ないます。その作業を土台に、演習で学んだ内容や自分で調べた内容を加味して期末論文として提出します。		
評価方法	要約（50%）、論文内容・期末論文（合わせて50%）の配分で評価します。		
受講生へのコメント	素早く情報や知識に触れる能力と、立ち止まって情報や知識を消化する能力の二つを学びとって下さい。		
教材	テキスト：指定しません。 参考書：「授業内容・授業計画」に記したもの。他の文献は演習中に紹介します。		

集 中 講 義 開 講 科 目

授業コード	E044010010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	公共経済学特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on Public Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4266		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	新居　理有		
科目の主題	社会保障、国と地方の財政問題，財政の持続可能性など，日本の財政は様々な課題に直面している．このような課題について自分なりに考え，解決策を探るためには，財政の現状や理論の理解が必要不可欠である．この授業では，日本の財政の現状と政府の持つ役割を把握し，日本財政の将来について考える基礎を身につけることを目指す．		
授業の到達目標	以下の3点を，本授業の到達目標とする． 日本の財政の現状を把握し，政府の活動が必要となる状況を理解する． 財政の歳入面に関するや制度を把握し，様々な税制度が経済活動に与える影響について理解する． 公債や財政の維持可能性に関する理論や考え方について理解する．		
授業内容・授業計画	第１回：イントロダクション　財政の三つの機能 第２回：日本の財政の現状 第３回：社会保障と政府の役割　社会保障制度の現状 第４回：社会保障と政府の役割　なぜ政府が社会保障を提供するのか 第５回：公的投資と政府の役割　政府による公共投資の現状 第６回：公的投資と政府の役割　なぜ政府が公共投資を行うのか 第７回：日本の租税制度の現状 第８回：直接税の効果　一括固定税と労働所得税 第９回：直接税の効果　資本所得税 第１０回：間接税の効果　誰が負担するのか 第１１回：間接税の効果　従量税と従価税 第１２回：日本の政府債務の現状 第１３回：政府の予算制約式と財政の持続可能性 第１４回：日本財政の持続可能性に関する分析		
事前・事後学習の内容	事前学習について： ミクロ経済学の基礎的な内容については，授業の前提とするので，あらかじめ復習しておくことが望ましい． （完全競争市場における価格決定と余剰分析，どんなときに市場の失敗が起こるか，など）		
評価方法	最後に実施するペーパーテストによって成績を評価する． ただし授業の進行に大きな貢献をした受講生に対して，成績全体の10%を上限としてプラス評価をすることがある． 逆に授業の進行を妨げる振る舞いをする受講生に対して，マイナス評価をすることがある．		
受講生へのコメント	財政の問題は，実は私の生活と大きくかかわる課題です．短い時間ですが，ぜひ一緒に学びましょう．		
教材	教科書は指定しないが，以下（のいずれか）を並行して読むことを勧める． 赤井伸郎ら（2017）『実践 財政学--基礎・理論・政策を学ぶ』，有斐閣． 小塩隆志（2016）『コア・テキスト財政学　第２版』，新世社．		

授業コード	E047400010	開講年度・学期	2019年度前期
科目授業名	Lectures on Economics in English B		
英語科目授業名	Lectures on Economics in English B		
科目ナンバー	EAAPE4207		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	長谷川　淳一		
科目の主題	第二次世界大戦期以降の日本とイギリスの戦災復興および高度経済成長期の日本の都市問題・都市政策について検討する。		
授業の到達目標	現代の都市問題・都市政策の展開を英語で理解する。		
授業内容・授業計画	第１回_イントロダクション 第２回_都市計画史の概観 第３回_日本の戦災復興の事例(1) 第４回_日本の戦災復興の事例(2) 第５回_日本の戦災復興の事例(3) 第６回_日本の戦災復興の事例(4) 第７回_日本の戦災復興の事例(5) 第８回_第二次世界大戦期のイギリス 第９回_イギリスの戦災復興の事例(1) 第10回_イギリスの戦災復興の事例(2) 第11回_イギリスの戦災復興の事例(3) 第12回_イギリスの戦災復興の事例(4) 第13回_1968年都市計画法の制定 第14回_選挙での都市政策 試験		
事前・事後学習の内容	テキストとして提示するリストの学術雑誌論文をしっかり読まれたい。		
評価方法	授業での取り組み等: 50% 試験: 50%		
受講生へのコメント	授業では積極的な姿勢を示されたい。授業計画等シラバスの内容は変更する場合がある。		
教材	テキスト：学術雑誌論文のリストをおって提示する。		

論文採点基準表

各項目の採点基準　0：大学入学レベルをクリアしていない。1：大学生として極めて不十分、2：大学生として不十分、3：大学生として合格レベル、4：大学生としては秀逸

項目	採点	修了小論文	論文演習	卒業論文		素点	詳細説明
問題意識と課題設定の明確性とオリジナリティ	0，1，2，3，4	×3	×3	×2	＝		この論文で明らかにしたい問題および明らかにするために必要な課題設定が明確に提示されているか。課題設定に著者自身の思考に立脚したオリジナリティがあるか。
研究課題の意義	0，1，2，3，4	×1	×1	×2	＝		取り組んだ課題は、解決する必要性が何らかの形で認められ、答えが知りたくなり、その解決によって有意義な知見を獲得できるか？その解決は専門分野において有意義であると十分プレゼンテーションできているか。
研究課題の新規性	0，1，2，3，4	×0	×0	×1	＝		取り組んだ課題は未解決か。
研究課題の先行研究への位置付け	0，1，2，3，4	×1	×1	×2	＝		先行研究の関係の明確化。必須先行研究への依拠。
問題解決の明確さと貢献度	0，1，2，3，4	×3	×3	×2	＝		提示された課題にどの程度答えられているか？はぐらかしになっていないか。解決された結果は当該専門分野でどの程度評価すべき物か。
今後の課題の明確化	0，1，2，3，4	×2	×2	×1	＝		今後の課題の明示とその考察。その妥当性。学術的課題としての今後の課題のみではなく，自分の努力の不十分さ，論文執筆によって開けた視野から見えるやり残したことへ意識をみる.
根拠の展開・提示法の妥当性	0，1，2，3，4	×5	×5	×4	＝		著者の選択した根拠の信頼性・妥当性を問題にする。課題解決の為の根拠の選択に関する考察があるか。その議論は妥当か。根拠の論理的操作や提示がこなれているか。
根拠の新規性、独創性	0，1，2，3，4	×0	×0	×1	＝		根拠は従来からその分野で使用されているものか、それとも初めてか。根拠の使用法は、独創的なものであるか。
論文のわかりやすさ	0，1，2，3，4	×4	×4	×4	＝		読者の想定は妥当か。特に、学術用語の選択、その説明の細かさ、当該分野の暗黙の前提の扱い方。論文の構成、文章、図表はわかりやすいか。
論文の形式要件	0，1，2，3，4	×4	×4	×4	＝		論文の字数、体裁などが指定された物になっているか。十分な註が付けられているか。参考文献リストは明示されているか。剽窃・盗用はないか。形式要件を満たさないものは0点。
その他特筆すべき点	0，1，2，3，4	×2	×2	×2	＝		努力等の評価
論文評価（A）							
卒論の場合のみ専門性評価（B）							
卒業論文評価：（A+B）/2							

交通機関の運休、気象条件の悪化による授業の休講および定期試験の延期措置について

【杉本キャンパス、梅田サテライト】

⑴　交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関の①または②のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）を行った場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、運休の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

●杉本キャンパス

① JR阪和線全線

② Osaka Metro御堂筋線全線およびJR大阪環状線全線が同時

●梅田サテライト

代替交通機関があることから、交通機関の運休による休講の措置については行いません。

⑵　気象条件の悪化による授業の休講について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報（すべて対象とする）のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

（別表）

●杉本キャンパス

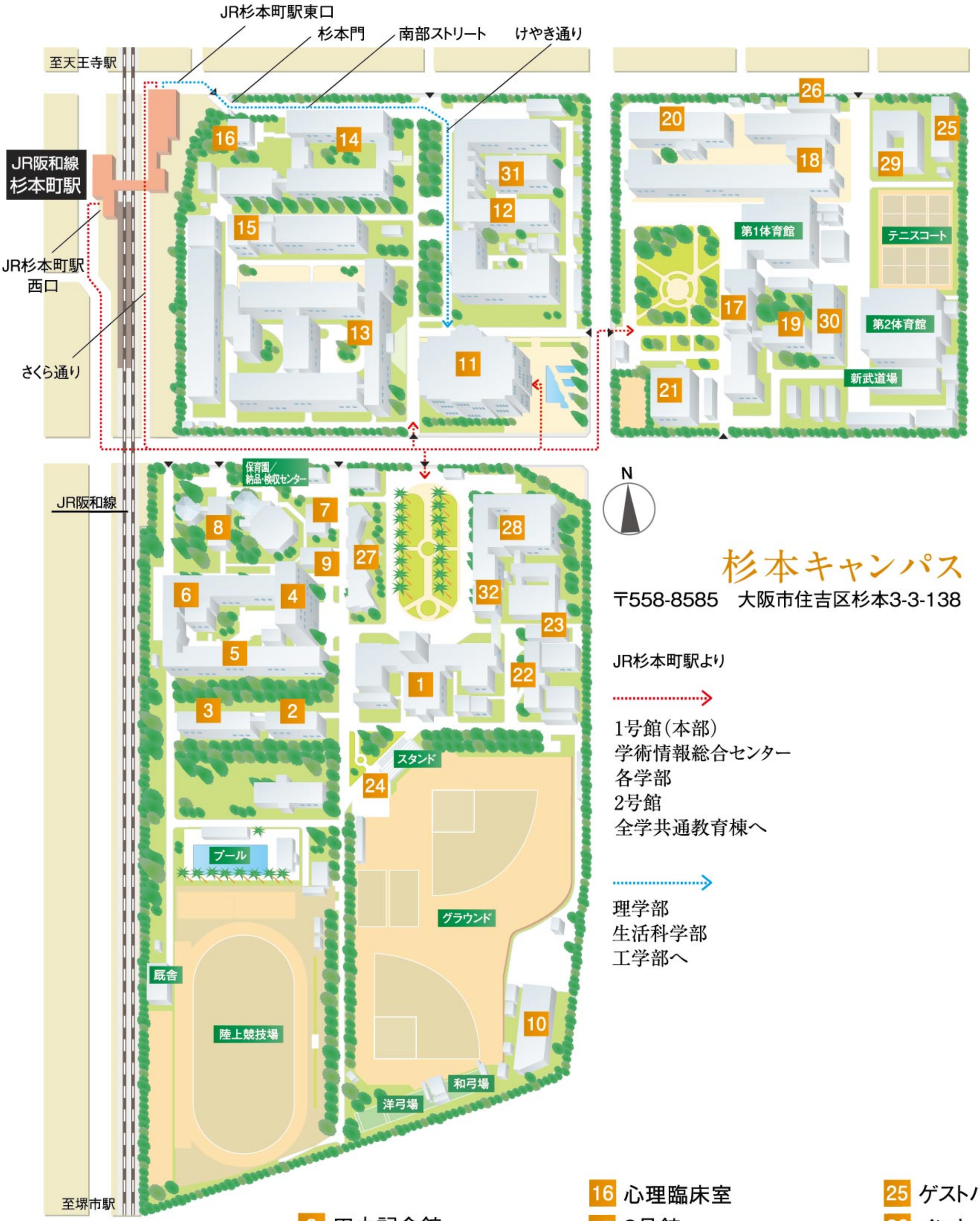
運行再開・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午　前　7　時　以　前		全時限
午　前　10　時　以　前	１・２ 時限	３・４・５ 時限
午前10 時を過ぎても運行再開・警報解除されない場合	全時限	

●梅田サテライト

（梅田サテライト）月～金曜日の授業		
警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午　後　3　時　以　前		全時限
午後 3 時を過ぎても解除されない場合	全時限	

（梅田サテライト）土曜日の授業		
警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午　前　7　時　以　前		全時限
午　前　10　時　以　前	１～３時限	４～７時限
午前 10 時を過ぎても解除されない場合	全時限	

※交通機関の運休とは、事故、気象現象、地震、交通ストライキ、その他の理由により交通機関が運行休止になり、通学が困難な場合をいう。
※授業中または試験中に、暴風警報又は特別警報が発令された場合は、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から授業は休講とする。
※このほか、必要がある場合は、各学部又は各研究科において別に定める。



杉本キャンパス

〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138

JR杉本町駅より

1号館（本部）
学術情報総合センター
各学部
2号館
全学共通教育棟へ

理学部
生活科学部
工学部へ

1 1号館
- ・新産業創生研究センター
- ・事務室
  （職員課、財務課、管理課
  学務企画課、研究支援課）

2 商学部棟

3 経済学部棟

4 法学部棟

5 文学部棟

6 経済研究所棟
- ・創造都市研究科
- ・人権問題研究センター
- ・証券研究センター

7 都市研究プラザ

8 田中記念館
- ・事務室
  （大学サポーター支援室）

9 保健管理センター

10 河海工学実験場

11 学術情報総合センター
- ・大学史資料室
- ・事務室
  （情報推進課
  学術情報総合センター運営課）

12 理学部棟
- ・数学研究所

13 工学部棟

14 生活科学部棟

15 工作技術センター

16 心理臨床室

17 2号館
- ・都市健康・スポーツ研究センター
- ・複合先端研究機構

18 全学共通教育棟
- ・英語教育開発センター
- ・大学教育研究センター
- ・事務室
  （共通教育支援室（学務企画課）
  国際センター）

19 4号館

20 基礎教育実験棟

21 第1学生ホール

22 第2学生ホール

23 第3学生ホール

24 スポーツハウス

25 ゲストハウス

26 インキュベータ

27 高原記念館
- ・地域連携センター

28 学生サポートセンター
- ・事務室
  （内部監査室、大学改革・戦略課
  広報室、安全衛生管理室
  学務企画課、学生支援課
  入試室、就職支援室）

29 共通研究棟

30 人工光合成研究センター

31 理系共通実験棟

32 本部棟
- ・事務室
  （企画総務課）

杉本キャンパス　教室一覧

建物	階層	教室番号
3　経済学部棟	１階	ＣＡ
1　１号館	２階	１２Ａ、１２Ｂ、１２Ｅ、１２Ｆ １２０　～　１２８
	３階	１３Ａ　～　１３Ｇ １３０　～　１３７
19　４号館	１階	４１０
6　経済研究所棟	２階	５２Ｅ１ ５２１　～　５２４
	３階	５３Ｅ１、５３Ｅ２
4　法学部棟	３階	７３０
	４階	７４０
	１１階	７１１-Ａ　～　７１１－Ｃ
18　全学共通教育棟	１階	８１Ａ、８１Ｂ ８１０　～　８１６ 自習室
	２階	８２０　～　８２２
	３階	８３Ａ　～　８３Ｌ ８３０　～　８３５
	４階	８４Ａ ８４０　～８４９ 外国語特別演習室１　～　５
	５階	８５Ａ ８５０、８５１
20　基礎教育実験棟	１階	階段教室
	２階	物理学実験室等
	３階	生物学・化学実験室等
	４階	化学実験室等

教員名簿

			研究室 TEL	E－mail
			06 - 6605 -	
C．ウェザーズ	教　授	戦後日本経済史	2274	weathers@econ.osaka-cu.ac.jp
有賀　敏之	〃	世界経済論	2492	alga@osaka-cu.ac.jp
浦西　秀司	〃	産業経済論	2264	uranishi@econ.osaka-cu.ac.jp
金子　勝規	〃	東南アジア経済論	2268	kaneko@econ.osaka-cu.ac.jp
久保　彰宏	〃	国際経済学	2291	kubo@econ.osaka-cu.ac.jp
坂上　茂樹	〃	産業技術論	2266	sakagami@econ.osaka-cu.ac.jp
滋野　由紀子	〃	日本経済論	2289	shigeno@econ.osaka-cu.ac.jp
高塚　創	〃	空間経済学	2285	takatsuka@econ.osaka-cu.ac.jp
辻　賢二	〃	金融経済論	2284	tsujiken@econ.osaka-cu.ac.jp
中嶋　哲也	〃	経済原論Ⅱ	2281	nakajima@econ.osaka-cu.ac.jp
中島　義裕	〃	計算機経済学	2273	yoshi@econ.osaka-cu.ac.jp
中村　健吾	〃	社会思想史	2279	nakamura@econ.osaka-cu.ac.jp
中村　英樹	〃	経済統計論	2271	hnakamur@econ.osaka-cu.ac.jp
朴　一	〃	アジア経済論	2262	paku@econ.osaka-cu.ac.jp
福原　宏幸	〃	労働経済論	2293	fukuhara@econ.osaka-cu.ac.jp
松本　淳	〃	財政学	2282	matumoto@econ.osaka-cu.ac.jp
森　誠	〃	経済変動論	2263	mori@econ.osaka-cu.ac.jp
森脇　祥太	〃	経済開発論	2269	moriwaki@econ.osaka-cu.ac.jp
若森　みどり	〃	経済学説史	2260	wakamori@econ.osaka-cu.ac.jp
岩波　由香里	准教授	国際協力論	2292	iwanami@econ.osaka-cu.ac.jp
岡澤　亮介	〃	マクロ経済学	2286	okazawa@econ.osaka-cu.ac.jp
小川　亮	〃	地方財政論	2265	r.ogawa@econ.osaka-cu.ac.jp
北原　稔	〃	ミクロ経済学	2276	kitahara@econ.osaka-cu.ac.jp
齋藤　幸平	〃	経済原論Ⅰ	2275	saito@econ.osaka-cu.ac.jp
塩谷　昌史	〃	西洋経済史	2270	shiotani@econ.osaka-cu.ac.jp
柴田　淳	〃	流通経済論	2277	shibata@econ.osaka-cu.ac.jp
杉田　菜穂	〃	社会政策論	2296	sugita@econ.osaka-cu.ac.jp
中川　満	〃	統計解析論	2261	nakagawa@econ.osaka-cu.ac.jp
彭　浩	〃	日本経済史	2295	penghao@econ.osaka-cu.ac.jp

副学長

橋本文彦	教　授	行動情報論

特任教員

岩　熊　典　乃
岩　本　真　一
西　川　弘　展

非常勤講師

新　居　理　有	公共経済学特殊講義	高知工科大学経済・マネジメント学類
上　田　智　巳	経　済　情　報　論	
小　田　和　幸	商 業 簿 記 基 礎 論	大原簿記法律専門学校
落　合　　隆	経　済　数　学	三重大学人文学部
鹿　野　繁　樹	計量経済学上級講義	大阪府立大学経済学部
木 下　祐 輔	関　西　経　済　論	一般財団法人アジア太平洋研究所
佐　藤　　光	社　会　経　済　論	大阪市立大学名誉教授
長谷川　淳 一	Lectures Economics B	慶應義塾大学経済学部
堀　口　朋　亨	ヨーロッパ経済論特殊講義	国士舘大学経営学部
松　澤　俊　雄	交通経済論特殊講義	大阪市立大学名誉教授